

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(37)

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

茶屋ノ元遺跡 鐙・安原遺跡 宮野脇遺跡
小松遺跡 前市野原遺跡 東下原遺跡

2002年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序 文

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査は、西鹿児島駅緊急整備事業に伴う調査として鹿児島市武遺跡で平成5年4月12日に開始しましたが、諸般の事情で平成6年と7年の2年間は発掘調査を中断し、平成8年度から再開しました。平成11年度からは調査体制を拡充して本格的に発掘調査を実施し、川内市京田遺跡を最後に平成13年5月30日に全てを完了しました。

発掘調査対象遺跡数は鹿児島市から出水市間までの21遺跡で、発掘調査は確認調査の後に全面調査を実施しました。

発掘調査の成果としては、川内市京田遺跡から弥生時代の建築材や農具、嘉祥3年の年代と条里地名が書かれた平安時代の木簡が出土し、話題になりました。また、出水市大坪遺跡では縄文時代晩期の玉類が数多く出土し、伊集院町山ノ脇遺跡では中世の居館跡と考えられる大規模建物跡が発見されました。

これらの遺跡については、年次的に整理を進め調査報告書を発刊してまいります。ここに、茶屋ノ元遺跡をはじめ7遺跡の報告を調査報告第1集として発刊します。県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただく一助となれば幸いです。

発刊にあたり、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局をはじめ、鹿児島市、伊集院町、東市来町、串木野市、川内市、出水市の関係部局、そして、各地域で調査に参加された方々に対し、深く感謝の意を表します。

平成14年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 井 上 明 文

例 言

- 1 本報告書は、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本報告書に綴った遺跡は、平成10年度に確認調査及び全面調査を実施したものである。
- 3 本報告書は、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の委託を受けて作成したものである。
- 4 本報告書は、平成13年度の報告書作成として実施したものである。
- 5 遺物番号は遺跡ごとに付け、挿図と図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は、各図ごとに示している。
- 7 本報告書の整理作業は、鹿児島県立埋蔵文化財センター整理作業員行船順子の協力で、編集は彌榮が行った。
- 8 出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する計画である。

本文目次

序文		宮野脇遺跡	37
例言		報告書抄録	38
茶屋ノ元遺跡	1	第I章 調査の経過	40
報告書抄録	2	第II章 調査の組織	40
第I章 調査の経過	4	第III章 位置と環境	40
第1節 平成10年度の調査の経過	4	第1節 遺跡の位置	40
第2節 茶屋ノ元遺跡の調査の経過	4	第2節 周辺遺跡	40
第3節 遺跡全体の調査と経過	4	第IV章 調査の概要	42
第II章 調査の組織	8	第1節 層位	42
第III章 位置と環境	9	第2節 調査の概要	42
第1節 遺跡の位置	9	第V章 まとめ	42
第2節 周辺遺跡	9	小松遺跡	46
第IV章 調査の概要	9	報告書抄録	47
第1節 層位	9	第I章 調査の経過	49
第2節 各トレンチの概要	14	第II章 調査の組織	49
第3節 遺物の出土状況	14	第III章 位置と環境	49
第4節 出土遺物	14	第1節 遺跡の位置	49
(1) 土器(1～10)	14	第2節 周辺遺跡	49
(2) 石器(11～13)	16	第IV章 調査の概要	52
第V章 まとめ	17	第1節 層位	52
第1節 遺跡の位置	30	第2節 調査の概要	52
第2節 周辺遺跡	30	第3節 出土遺物	54
第IV章 調査の概要	30	第V章 まとめ	54
第1節 層位	30	前市野原遺跡	59
第2節 遺跡の概要	30	報告書抄録	60
(1) 鏡遺跡	30	第I章 調査の経過	62
(2) 安原遺跡	32	第II章 調査の組織	62
第V章 出土遺物	32	第III章 位置と環境	64
第VI章 まとめ	32	第1節 遺跡の位置	64
		第2節 周辺遺跡	64
		第IV章 調査の概要	64
		第1節 層位	64
		第2節 トレンチの状況	64
		第V章 まとめ	64

東下原遺跡	69
報告書抄録	70
第I章 調査の経過	72
第II章 調査の組織	73
第III章 位置と環境	73
第1節 遺跡の位置	73
第2節 周辺遺跡	73
第IV章 調査の概要	75

第1節 層位	75
第2節 各トレンチの調査状況	75
第3節 全面調査	79
(1) 遺構	79
(2) 出土遺物	79
① 第2・3層の出土遺物	79
② 第5・6・7層の出土石器	86
第V章 まとめ	86

挿 図 目 次

第1図 茶屋ノ元遺跡の位置と周辺遺跡	10
第2図 茶屋ノ元遺跡のトレンチ配置	11
第3図 茶屋ノ元遺跡の地層断面(1)	12
第4図 茶屋ノ元遺跡の地層断面(2)	13
第5図 茶屋ノ元遺跡の第9・14トレンチ 出土状況	15
第6図 茶屋ノ元遺跡の出土遺物(1) 土器	16
第7図 茶屋ノ元遺跡の出土遺物(2) 石器	17
第8図 鐙・安原遺跡の位置と周辺遺跡	28
第9図 鐙・安原遺跡のトレンチ配置	29
第10図 鐙・安原遺跡の地層断面	31
第11図 鐙・安原遺跡の出土遺物	32
第12図 宮野脇遺跡の位置と周辺遺跡	41
第13図 宮野脇遺跡の範囲とトレンチ配置	43
第14図 宮野脇遺跡の地層断面	43
第15図 小松遺跡の位置と周辺遺跡	50
第16図 小松遺跡のトレンチ配置図	52

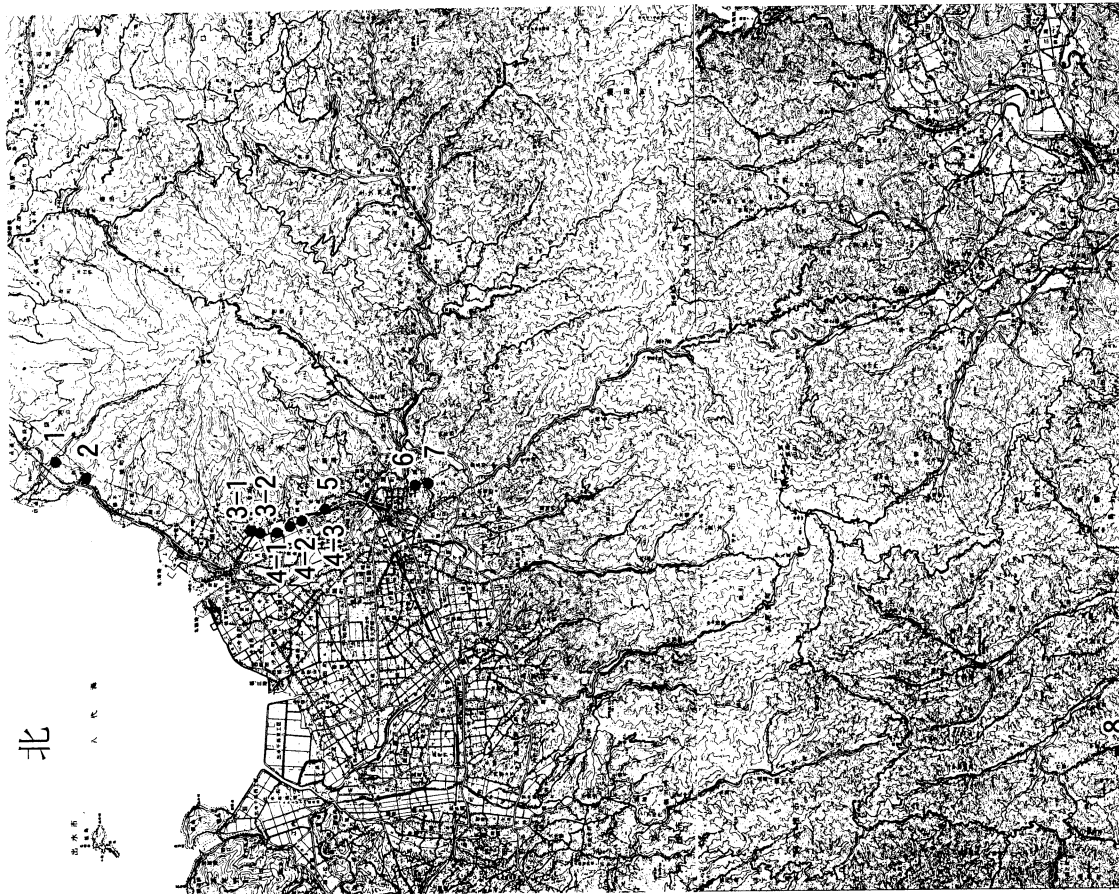
第17図 小松遺跡の地層断面	53
第18図 小松遺跡の出土遺物	54
第19図 前市野原遺跡の位置と周辺遺跡	63
第20図 前市野原遺跡のトレンチ配置	65
第21図 前市野原遺跡の地層断面	65
第22図 東下原遺跡の位置と周辺遺跡	74
第23図 東下原遺跡のトレンチ配置と 拡張区	76
第24図 東下原遺跡の拡張区地層断面	77
第25図 東下原遺跡各トレンチの地層	78
第26図 東下原遺跡の古代遺構と 遺物出土状況	80
第27図 東下原遺跡の燃土土坑群検出	81
第28図 東下原遺跡の焼土土坑断面	82
第29図 東下原遺跡の第3層出土土器	83
第30図 東下原遺跡の第3層出土礫	84
第31図 東下原遺跡の旧石器時代遺物 出土状況	85
第32図 東下原遺跡の第5～7層出土石器	86

図 版 目 次

図版 1	茶屋ノ元遺跡本線北部全景，変電所建設部全景	18
図版 2	茶屋ノ元遺跡の本線南部全景と調査状況	19
図版 3	茶屋ノ元遺跡のトレンチ調査状況，石斧出土状況	20
図版 4	茶屋ノ元遺跡の地層，茶屋ノ元遺跡の拡張状況	21
図版 5	茶屋ノ元遺跡のトレンチ拡張と追加トレンチ，遺物出土状況	22
図版 6	茶屋ノ元遺跡の出土遺物 土器・石器	23
図版 7	鐙遺跡全景，鐙遺跡のトレンチ調査状況	33
図版 8	鐙遺跡のトレンチ調査状況	34
図版 9	安原遺跡の調査状況，安原遺跡のトレンチ調査状況	35
図版10	安原遺跡のトレンチ調査状況，安原遺跡出土遺物	36
図版11	宮野脇遺跡全景，宮野脇遺跡作業風景	44
図版12	宮野脇遺跡のトレンチ調査状況，宮野脇遺跡の地層	45
図版13	小松遺跡北部全景，小松遺跡南部全景	55
図版14	小松遺跡北部トレンチ調査状況，小松遺跡北部の地層	56
図版15	小松遺跡南部トレンチ調査状況，小松遺跡南部の地層	57
図版16	小松遺跡の出土遺物 土器・石器	58
図版17	前市野原遺跡全景，前市野原遺跡トレンチ調査状況	67
図版18	前市野原遺跡トレンチ調査状況	68
図版19	東下原遺跡全景(東から)，東下原遺跡全景(西から)	87
図版20	東下原遺跡近景，東下原遺跡調査状況	88
図版21	東下原遺跡の焼土遺構検出状況，東下原遺跡遺物出土状況	89
図版22	東下原遺跡遺構掘り下げ状況	90
図版23	東下原遺跡土坑検出状況(北から・南から)	91
図版24	東下原遺跡第5～7層遺物出土状況，東下原遺跡の地層	92
図版25	東下原遺跡の第2・3層出土遺物(古墳・古代)	93
図版26	東下原遺跡の第2・3層出土遺物 礫，東下原遺跡の第V～VII層出土遺物	94

表 目 次

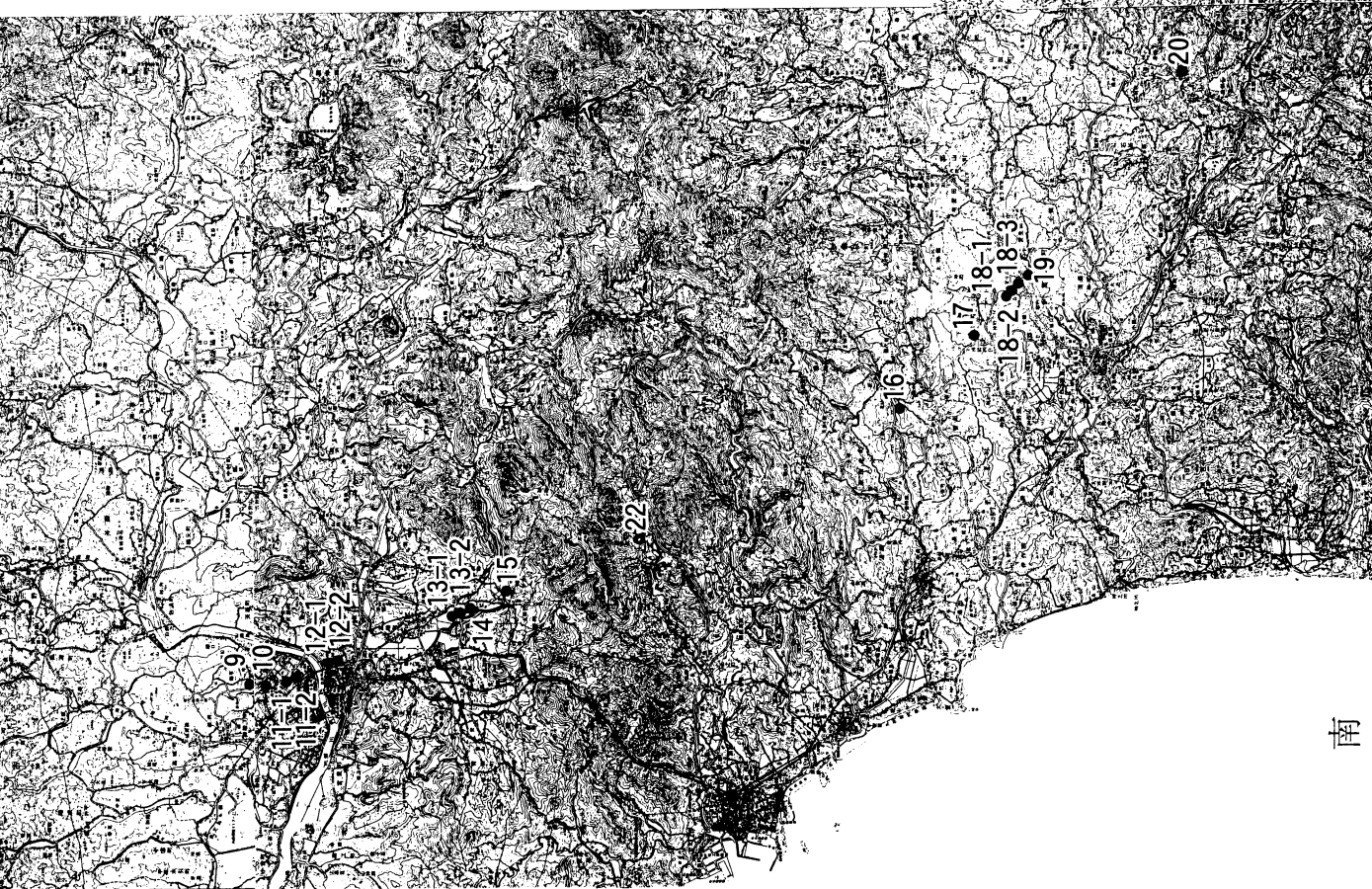
第1表	平成10年度の調査一覧	4	第7表	小松遺跡の周辺遺跡	49
第2表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査一覧	5	第8表	前市野原遺跡の周辺遺跡一覧	64
第3表	茶屋ノ元遺跡の周辺遺跡一覧	9	第9表	東下原遺跡の周辺遺跡一覧	73
第4表	茶屋ノ元遺跡の地層図	9	第10表	東下原遺跡の地層図	75
第5表	茶屋ノ元遺跡の各トレンチ一覧	14	第11表	東下原遺跡のトレンチ調査結果	75
第6表	宮野脇遺跡の周辺遺跡	40	第12表	東下原遺跡の土坑計測	79



番号	遺跡名	所在地
1	茶屋ノ元遺跡	出水市
2	鳥越平遺跡	出水市
3-1	鎧遺跡	出水市
3-2	安原遺跡	出水市
4-1	榎木田遺跡	出水市
4-2	見入来遺跡	出水市
4-3	大坪遺跡	出水市
5	宮野脇遺跡	出水市
6	松ヶ迫遺跡	出水市
7	小松遺跡	出水市
8	前畑遺跡	川内市
9	計志加里遺跡	川内市
10	京田遺跡	川内市
11-1	原田遺跡	川内市
11-2	大島遺跡	川内市
12-1	鍛冶屋馬場遺跡	川内市
12-2	春田遺跡	川内市
13-1	楠元遺跡	川内市
13-2	城下遺跡	川内市

14	上野城跡	川内市
15	大原野遺跡	川内市
16	東下原遺跡	東市来町
17	上ノ平遺跡	伊集院町
18-1	西原遺跡	伊集院町
18-2	山ノ脇遺跡	伊集院町
18-3	石坂遺跡	伊集院町
19	梅落遺跡	伊集院町
20	尾崎遺跡	鹿児島市
21-1	寿国寺跡	鹿児島市
21-2	武遺跡	鹿児島市
22	前市野原遺跡	串木野市

(一のある番号は遺跡が隣接しているため、同じ番号にまとめ、遺跡数は頭の番号で登録した。)



南



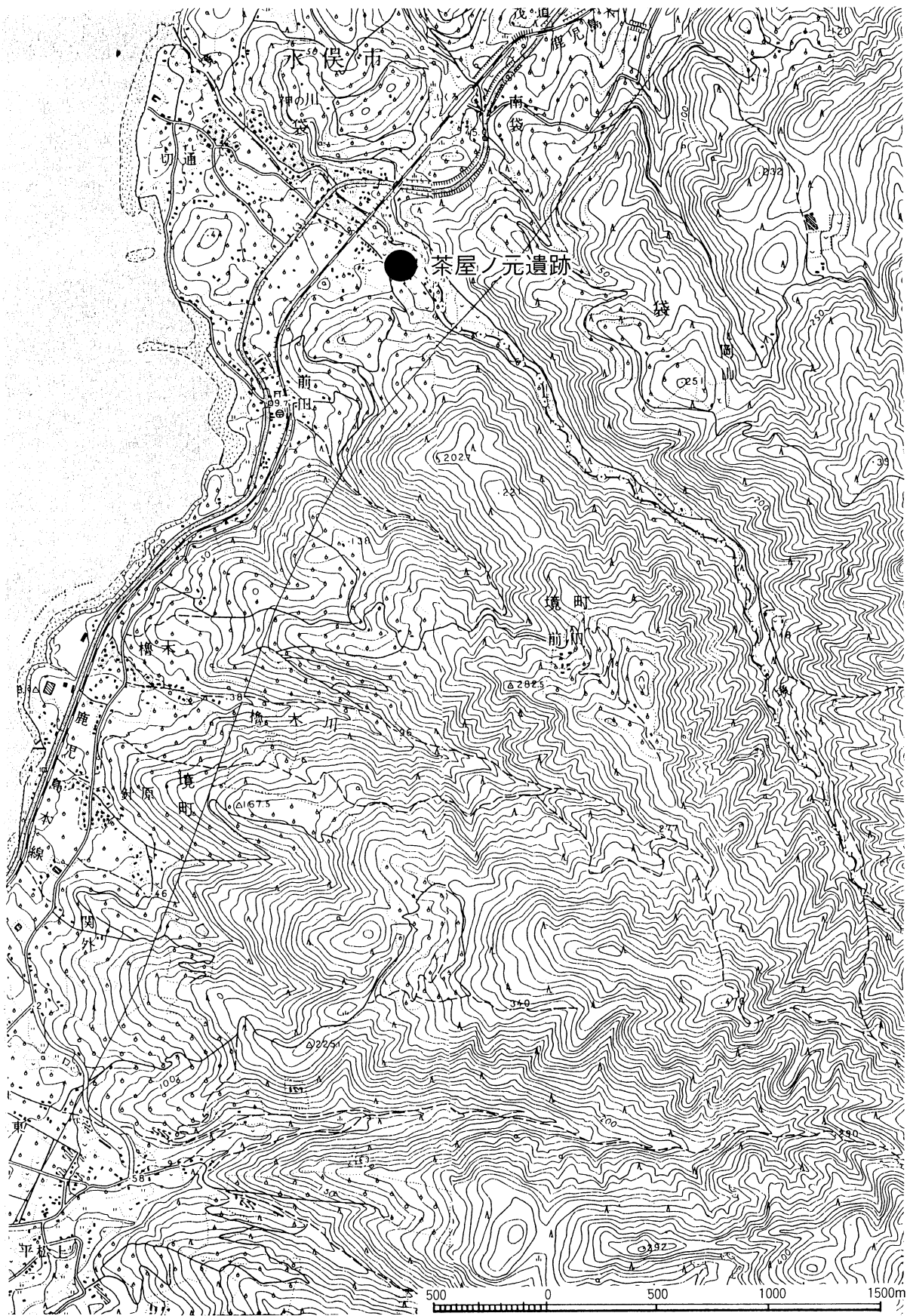
新幹線関係遺跡位置図

茶屋ノ元遺跡

出水市境町

報告書抄録

ふりがな	ちややのもといせき							
書名	茶屋ノ元遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちややのもといせき 茶屋ノ元遺跡	かごしまけんいずみし 鹿児島県出水市 さかいちょう 境町	462080	8-64	32° 9′ 21″	130° 22′ 53″	H10.7.2 ～7.3 H11.3.2 3.4	240m ²	きゅうしゅうしんかんせん 九州新幹線 けんせつ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
茶屋ノ元遺跡	散布地	縄文時代早期 縄文時代前期		塞ノ神式土器 轟式土器 石斧, 黒曜石				



茶屋ノ元遺跡の位置

茶屋ノ元遺跡

第I章 調査の経過

第1節 平成10年度の調査の経過

平成10年度の調査は、川内市前畑遺跡の発掘調査をはじめ出水市から日置郡伊集院町上ノ平遺跡まで計12か所16地点の発掘調査を実施した。

第1表 平成10年度の調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査種類	調査面積	調査月	調査期間
1	茶屋ノ元	出水市境町	確認全面	240m ²	7月・3月	(5日)
3	鐙・安原	出水市安原町	確認全面	60m ²	2月・3月	(5日)
4	榎木田	出水市美原町	確認	140m ²	2月・3月	(5日)
4	大坪	出水市美原町	確認	1,300m ²	1月	(15日)
4	見入来	出水市美原町	確認	1,000m ²	2月	(10日)
5	宮野脇	出水市上鯖淵	確認	40m ²	3月	(1日)
7	小松	出水市武本	確認	108m ²	7月	(3日)
8	前畑	川内市城上町	全面	6,760m ²	5月～10月	(81日)
11	原田・大島	川内市東大小路町	確認	14m ²	11月	(1日)
12	鍛冶屋馬場	川内市平佐町	確認	6m ²	10月	(1日)
13	楠元	川内市百次町	確認	300m ²	9月・11月	(23日)
13	城下	川内市百次町	確認	14m ²	11月	(8日)
16	東下原	東市来町養母	確認全面	248m ²	10月・12月・3月	(20日)
17	上ノ平	伊集院町下神殿4区	確認	28m ²	2月	(1日)
22	前市野原	串木野市冠岳	確認	22m ²	12月	(1日)

第2節 茶屋ノ元遺跡の調査の経過

本遺跡の調査は、本線部と変電所建設用地部にあたる。

本線部は7月2・3日に実施し、第1～10トレンチを調査した。結果として、第9トレンチの確認調査を若干拡張して終了した。

変電所施設部は、平成11年3月2・3日に第11～15トレンチまでの確認調査を実施した。結果として、第14・15トレンチを拡張して調査終了した。

第3節 調査全体の経過と成果

九州新幹線鹿児島ルートが発掘調査は、平成5年4月12日に開始した西鹿児島整備事業に伴う武遺跡の調査から、平成13年5月30日に終了した京田遺跡までの間実施された。この間、平成6・7年度は長野新幹線が急務となり九州新幹線の発掘調査は中断となった。再開したのは、平成8年8月の鳥越平遺跡で、それも短期間であった。平成9年度は11月から大原野遺跡の調査を開始し、前畑遺跡の一部全面調査を実施した。平成10年度は前畑遺跡の一部全面調査と、他の確認調査を実施

した。平成11年度から調査体制を充実し、2年2ヶ月間で、対象遺跡全21ヶ所の内、残り14ヶ所の発掘調査を終了した。なお、成果は次の表で示した通りである。

調査全体の経過と成果

九州新幹線鹿児島ルートが発掘調査は、平成5年5月12日に開始した西鹿児島駅整備事業に伴う武遺跡の調査から始め、平成13年5月30日に終了した京田遺跡までの間実施された。この間、平成6・7度は長野新幹線が急務となり九州新幹線が発掘調査は中断となった。再開したのは、平成8年8月の鳥越平遺跡で、それも短期間であった。平成9年度は11月から大原野遺跡の調査を開始し、前畑遺跡の一部全面調査を実施した。平成11年度からは、調査体制を充実し、2年2か月間で、対象遺跡全21ヶ所の内、14ヶ所の発掘調査を終了した。なおその成果は次の表で示した通りである。

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物 備考
1	茶屋ノ元	出水市堺町	H10.7.2～3 H11.3.2～4 計5日	240㎡	彌榮 久志 前田 誠	縄文早・前期	塞ノ神式、轟式磨製石斧、黒曜石
2	鳥越平	出水市堺町	H8.8.5 計1日	55㎡	池畑 耕一 中原 一成	時期不明	包含層は確認されず。
3	鏡・安原	出水市安原町	H11.2.17・18 H11.2.24・25 H11.3.9 計5日	60㎡	彌榮 久志 前田 誠	縄文晩期 平安時代	研磨石器、黒曜石土師器
4	榎木田 見入来 大坪	出水市美原町	H11.1.5～3.9 H11.5.6～12.3.31 H12.5.1～13.3.27 計420日	27,247㎡	彌榮 久志 前田 誠 濱崎 一富 東 和幸 高岡 和也 上床 真 森田 裕之	縄文晩期 平安・鎌倉時代	縄文晩期埋設土器38基、平安期竈付竪穴住居跡1基、掘立柱建物跡9棟、焼土遺構3基、溝状遺構30条、波板状遺構27状、上加世田式、入佐式、黒川式、土師器、須恵器、玉縁白磁、滑石製石鍋、刻書土器、鉄製品、石鏃、磨製石斧、打製土掘り具、石匙・石皿、磨石、凹石、玉類(勾玉6、管玉25、丸玉5、平玉3、垂飾品1、剥片46、未製品30)、異形石器
5	宮野脇	出水市上鯖淵	H11.2.19 H12.2 計2日間	48㎡	彌榮 久志 前田 誠 東 和幸	時代不明	包含層確認されず。
6	松ヶ迫	出水市武本	H8.8.6 計1日間	12.5㎡	池畑 耕一 中原 一成	時期不明	包含層確認されず。
7	小松	出水市武本	H10.7.8～10 計3日間	108㎡	彌榮 久志 前田 誠	縄文早期	土器、黒曜石
8	前畑	川内市城上町	H9.11.1～ H10.3.31 H10.5.6～ H12.12.24 H1.12.13～ H12.2.24 計195日	11,800㎡	長野 眞一 上床 眞 彌榮 久志 前田 誠 宮田 栄二 平木場秀男	旧石器時代 縄文早・前・後期、中近世	土坑25(陥し穴含)基、集石4基、竪穴状遺構1基、五輪塔、大型掘立物跡7棟。ナイフ形石器、細石刀核、吉田・石坂・轟式石鏃、石斧、石皿、磨石、敲石。

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物 備考
							土師器, 青磁, 白磁, 染め付け, 薩摩焼き。
9	計志加里	川内市中郷町	H11.7.1~8.27 H12.5.23~ H13.3.26 計218日	5,900m ²	宮田 栄二 平木場秀男 樋渡将太郎	縄文早・後・ 晩期, 弥生 時代, 古墳 時代, 平安 時代, 中世	竪穴住居1軒, 掘立穴 建物跡5棟, 土坑墓3 基, 円形周溝状遺構1 基, 土坑5基, 中世掘 立柱建物跡2棟, 古道, 溝状遺構。 早期押型文土器, 後期 の土器, 磨製石鏃, 打 製石斧, 錐, ピエス, スクレイパー, 磨石, 石皿, 石匙, 石鏃, 砥 石, 土師器, 須恵器, 瓦, 青磁, 白磁, 滑石 製品, 刀子, 青銅製品, 紡錘車。
10	京田 (薩摩国分 寺下)	川内市中郷町	H11.6.1~20 H12.5.8~6.6 H12.9.4~ H13.3.24 H13.4.9~5.31 計191日	5,900m ²	宮田 栄二 平木場秀男 川口 雅之 徳田有希乃 樋渡将太郎	弥生中期, 平安時代, 中・近世	弥生期水田跡, 土留め 状遺構, 杭列, ウケ跡, ドングリピット, 古代 水田跡。 弥生土器, 三又鍬, 二 又鍬, 大足, 一本梯子, 横架材, 網杵, 土師器, 須恵器, 瓦, 曲物。
11	原田・大島	川内市東大小 路町	H10.11.26 H11.5.6~ H12.3.24 H12.5.7~ H13.3.19 計275日	1,960m ²	宮田 栄二 平木場秀男 樋渡将太郎	縄文晩期 弥生中期 古墳時代 平安時代 中世	弥生期竪穴住居跡4軒, 土坑1基。 古墳期竪穴住居跡1軒。 平安期竪穴住居跡31軒 (竈付2軒), 掘立建物 跡2棟, 土坑墓1。 中世竪穴住居跡1棟, 掘立柱建物跡1棟, 畠跡。 弥生期甕・壺, 石包丁, 磨製石鏃。 古墳期成川式, 須恵器 大刀, 剣, 鉄鏃。 平安期土師器, 須恵器 瓦, 越州窯青磁, 緑釉 陶器, 転用硯, 帯金具 石製丸鞆, 玉類, 土錘, 金環, 青銅製鈴, 鉄製 品
12	鍛冶屋馬場 春田	川内市平佐町	H10.11.25 H11.9.1~9.27 H12.5.9~6.15 H12.9.1~12.27 計103日	2,850m ²	彌榮 久志 前田 誠 宮田 栄二 平木場秀男 川口 雅之 徳田有希乃	古代 中世 近世	古代鍛冶炉6基, 土坑 2基, 竪穴住居跡1軒, 掘立柱建物跡4棟, 炉 跡7基, 畠跡。 越州窯系青磁, 陶器壺, 土師器, 鉄滓, 鉄製品 (鏃, 鋤先, 紡錘車, 鉄鋤)。 中世青磁, 古銭。 近世薩摩焼, 平佐焼, 伊万里焼, 土師器, 羽 口, 鉄滓。
13	楠元 城下	川内市百次町	H10.9.17~30 H10.11.4~24 H11.9.2~12.6 H11.5.6V11.8	1,800m ²	彌榮 久志 前田 誠 川口 雅之	縄文後期 弥生~古墳	弥生~古墳期竪穴住居 跡2棟, 炉跡2基, 土 坑12基, 溝7条(杭列 を伴う溝1条)

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物 備考
			計209日				縄文期押形文・市来式・西平式・北久根山式、弥生～古墳期土器、木製平鍬、又鍬、横鍬、鍬の柄、掘り棒、丸木弓、容器(未製品)、權状木製品
14	上野城跡	川内市百次町	H11.12.1～3.24 H12.5.1～ H13.3.29 計316日	19,400m ²	前田 誠 川口 雅之 前野潤一郎 切通 雅子 徳田有希乃 彌榮 久志	旧石器 縄文 古墳 中世	中世掘立柱建物跡30棟、土坑墓3期、方形竪穴建物跡5棟、溝4条、古道1条、畠跡。剥片先頭器、ナイフ形石器、押形文、石坂式、阿高式、土師器、石皿、敲石、凹石、石鍬、土師器、須恵器、白磁、青磁、短刀、古銭、滑石製石鍋、中世陶器、鉄鍬。
15	大原野	川内市百次町 浦田	H8.10.1～29 H9.11.1～ H10.3.31 計171日	2,815m ²	青崎 和憲 中原 一成 長野 眞一 国生 誠 上床 眞	旧石器 縄文早・前期	ナイフ形石器、細石器吉田式、石坂式、条痕土器、轟式、石鍬、石皿、磨石、敲石、石斧
16	東下原	日置郡東市来 町養母	H10.10.27～29 H10.12.1～18 H11.3.12 計20日	248m ²	彌榮 久志 前田 誠	旧石器 縄文早期 古墳 古代	古代焼土付土坑 細石刃核 成川式、土師器。
17	上ノ平	日置郡伊集院 町下神殿4区	H11.2.26 H11.10.1～25 H12.11.14～ H13.3.29 計92日	2,328m ²	彌榮 久志 前田 誠 上之園建二 八木澤一郎 馬籠 亮道	旧石器 縄文後期 中世	縄文竪穴住居跡5軒、集石4基、中世溝1条、細石刃核、指宿式、磨製石斧、石鍬。
18	山ノ脇 石坂 西原	日置郡伊集院 町郡	H11.5.6～24 H11.6.4～30 H11.11.1～ H12.3.24 H12.5.1～11.13 計184日	15,900m ²	上之園建二 八木澤一郎 馬籠 亮道 徳田有希乃	縄文草創・ 早・中期 古墳、中世	集石草創期1基、早期3基、中期3基。中世溝、農具埋納土坑、掘立柱建物跡12棟、縄文早期土器、船元式、成川式、土師器、陶磁器(中国南部)、滑石製石鍋。
19	梅落	日置郡伊集院 町郡	H11.5.19～21 H11.6.14～17 H12.6.19～7.14 計24日	340m ²	上之園建二 八木澤一郎 馬籠 亮道 徳田有希乃	縄文早期	集石、塞之神式、スクレーパー。
20	尾崎	鹿児島市	発掘調査せず				遺跡は工事に触れず残
21	武ABC	鹿児島市	H5.4.12～5.25 H5.5.21～7.2 H5.12.6～ H6.2.21 H6.3.9～30	9,104m ²	彌榮 久志 倉元 良文 鶴田 静彦	縄文前・中 期、弥生中 期	古墳住居跡27軒、土坑18基、溝2条、ピット30、近世溝9条、轟式、深浦式、春日式、船元式、山之口式、成川式。
	寿国寺跡		H11.5.24～6.11 H11.7.1～9.28 H12.5.8～6.13 計175日		上之園建二 八木澤一郎 馬籠 亮道 徳田有希乃	近世	陶器・磁器、瓦、木製品、金属製品。寿国寺跡のはん池(門前池)跡。
22	前市野原	串木野市	H10.12.15 計1日	22m ²	彌榮 久志 前田 誠	時期不明	追加調査で挿入。包含層は確認されず。

第Ⅱ章 調査の組織

調査の組織は全体としては、下記の3項であるが、平成10年度の発掘調査と平成13年度の報告書作成時の体制が異なることから分けて記載した。

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

平成10年度発掘調査の体制

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉永 和人
調査企画者	〃	次長兼総務課長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
	〃	課長補佐兼第一調査係長	新東 晃一
	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎
調査担当者	〃	主任文化財主事	彌榮 久志
	〃	文化財主事	前田 誠
調査事務担当	〃	主査	前屋敷裕徳
	〃	主査	政倉 孝弘
	〃	主事	溜池 佳子

平成13年度報告書作成の体制

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上 明文
調査企画者	〃	次長兼総務課長	黒木 友幸
	〃	主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一
	〃	課長補佐	立神 次郎
調査担当者	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮 久志
調査事務担当	〃	総務係長	前田 昭信
	〃	主査	今村孝一郎
	〃	主事	池 珠美

第Ⅲ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

遺跡は、鹿児島県出水市境町茶屋ノ元に所在する。遺跡の北側には境川が流れ、渡れば熊本県水俣市である。地名の由来は島津氏が参勤交代でお茶を飲んだ所という話が残っている。

境川は、出水市と水俣市の間にある標高687mの矢筈岳山頂近くを源とし、北西に流れ八代海に注いでいる小河川である。遺跡の上流は傾斜が激しいため溪谷を形成している。

遺跡の立地は、境川で形成された河岸段丘下の旧河川敷内で、標高38～41mのみかん畑である。遺跡の北側は境川の川原と繋がり、岩盤や石が露出し、平坦で川を渡る場所としてはよい所である。小字がうなずける所である。

第2節 周辺遺跡

茶屋ノ元遺跡付近は山地であるため、山から直ぐに海に面している。平坦地が少なく生活地が限られている。よって遺跡も3か所しか見当たらない。

第3表 茶屋ノ元遺跡の周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	茶屋ノ元	出水市堺町	山地	縄文早・前期	土器, 石器	新幹線で調査
2	鳥越平	出水市堺町	山地	不明		新幹線で調査
3	大通寺址	出水市堺町	台地	中世	島津義虎菩提寺	

第Ⅳ章 調査の概要

本調査は、平成10年7月と平成11年3月に分けて15か所のトレンチを設定した。

平成10年7月の調査では、本線部分の調査のため第1トレンチから第7トレンチまでを調査した。

平成11年3月の調査では、変電所敷地が加わったため第8トレンチから第15トレンチまでを実施した。

遺跡は、土石流等が考えられたため、出土地点の拡張で対応した。

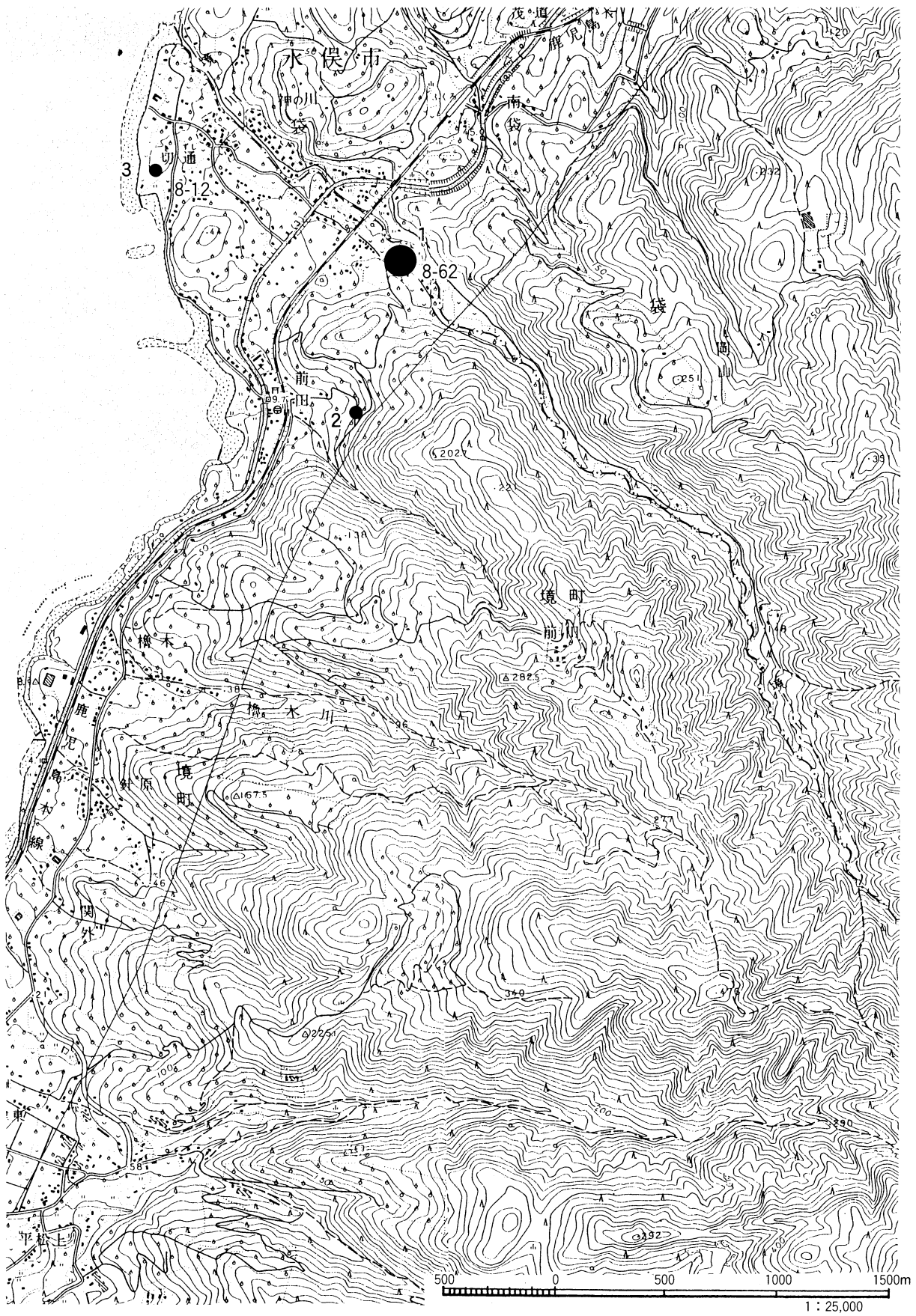
各トレンチの位置は第2図に掲載し、地層の内容は第4表で、調査内容は第 表の通りである。

第1節 層 位

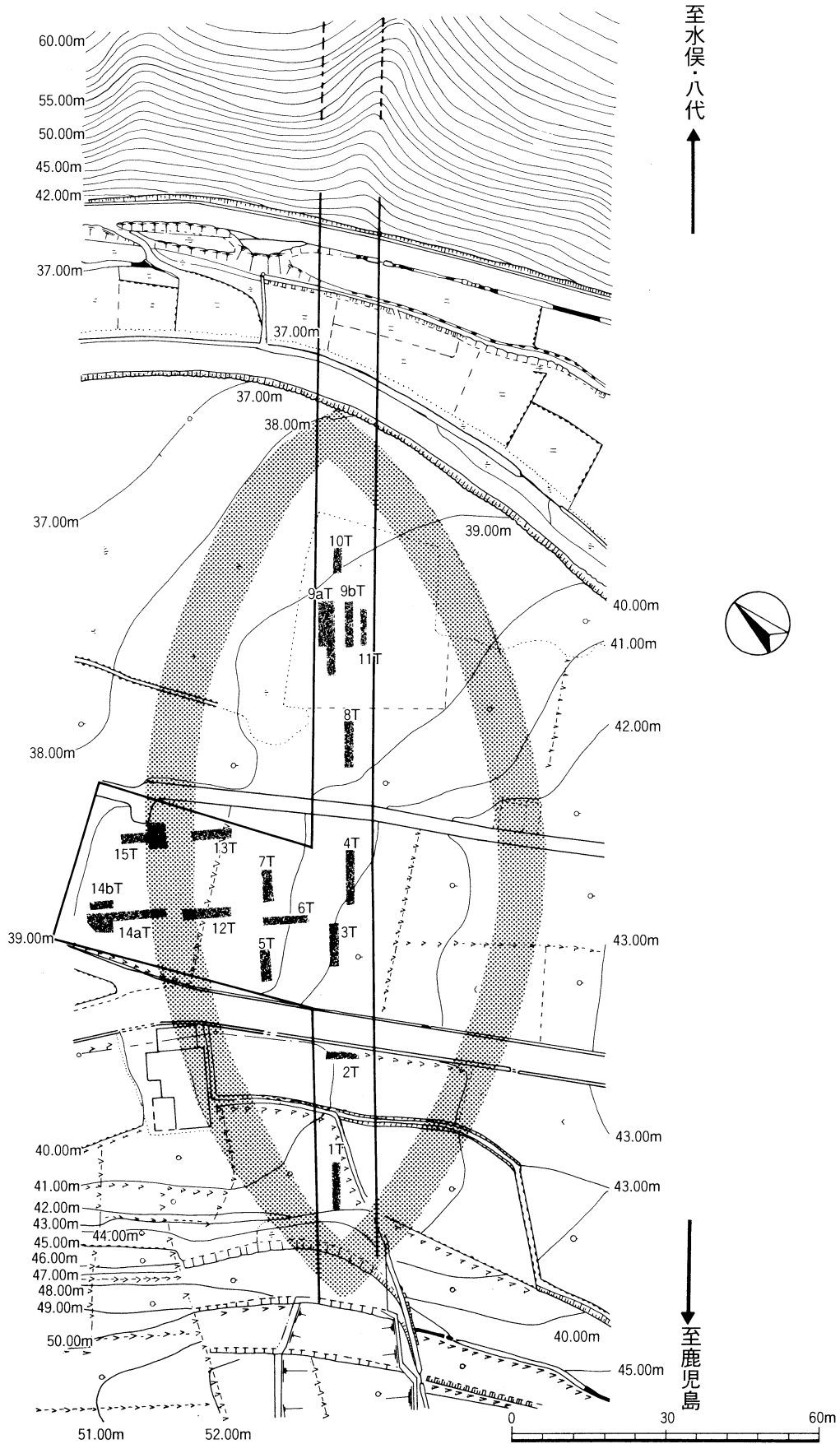
遺跡の地層は以下の通りである。

第4表 茶屋ノ元遺跡の地層図

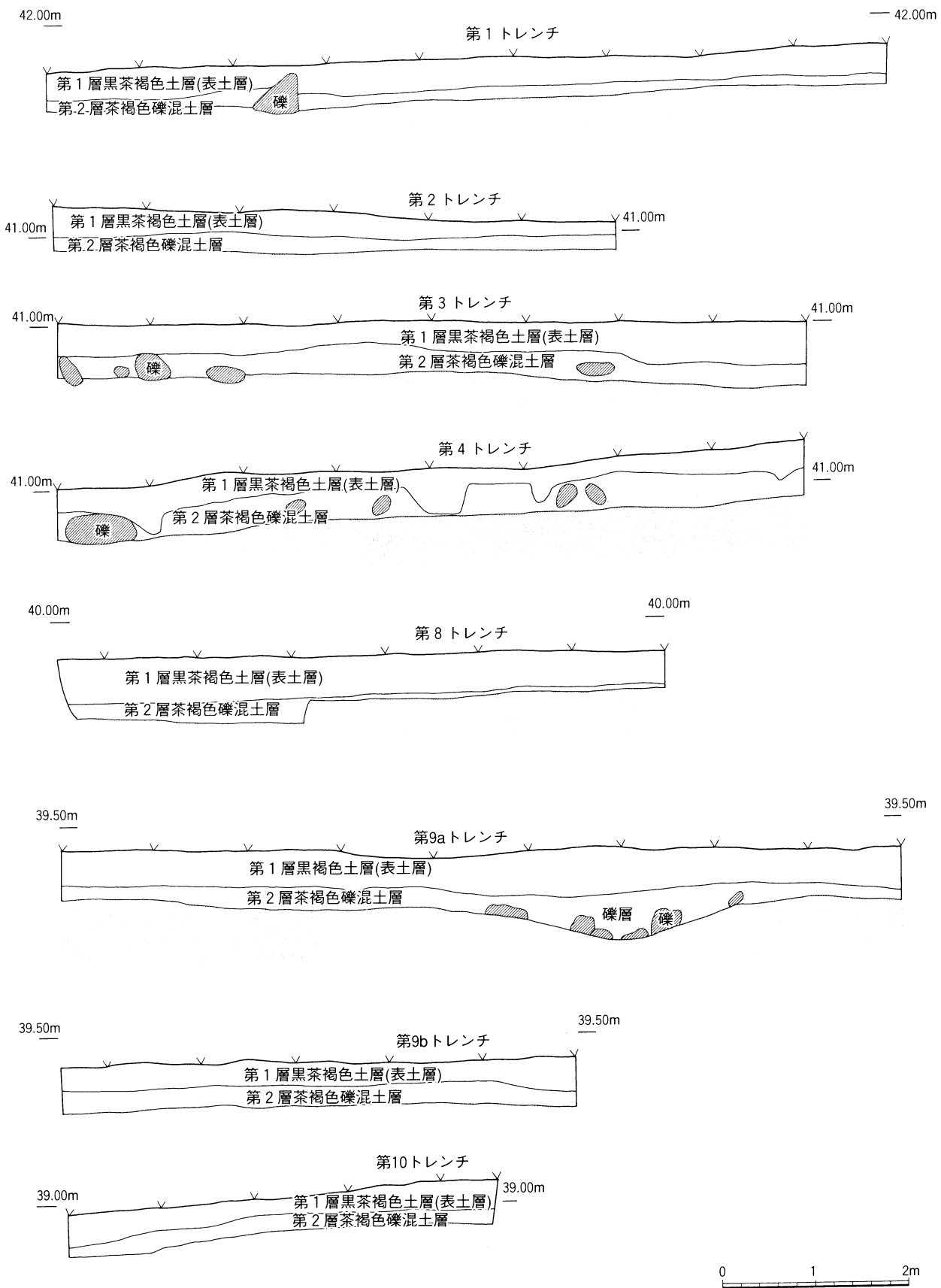
層序番号	特 徴
第Ⅰ層	表層にあたり、色調は黒褐色である。畑やみかん園の開墾で攪乱されている。
第Ⅱ層	色調は茶褐色である。砂礫層で部分的に大きな石が混入している。
第Ⅲ層	色調は暗茶褐色土である。砂礫層で部分的に大きな石が混入している。
第Ⅳ層	色調は灰茶褐色土である。砂礫層で部分的に大きな石が混入している。



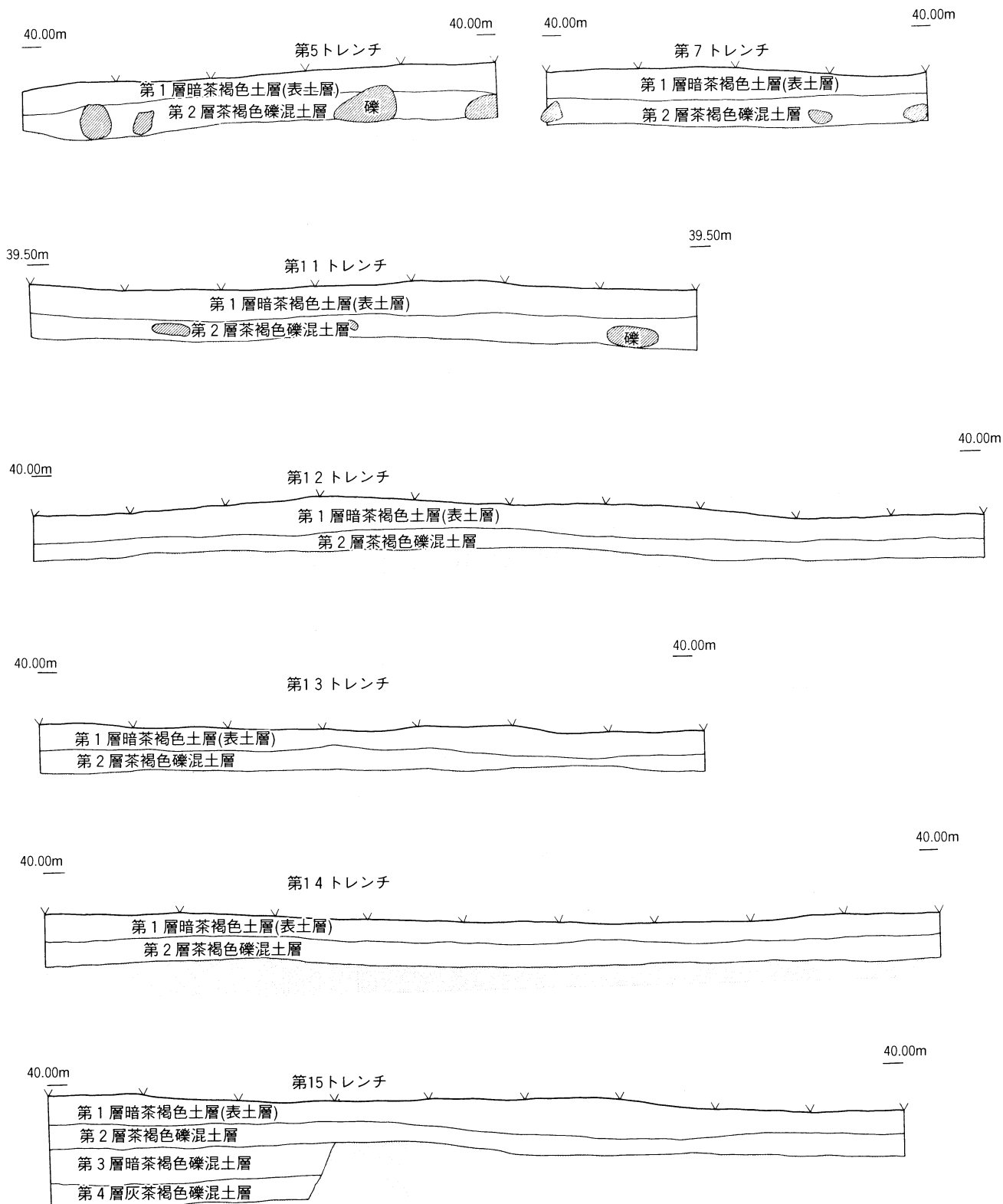
第1図 茶屋ノ元遺跡位置図と周辺遺跡



第2図 茶屋ノ元遺跡のトレンチ配置図



第3図 茶屋ノ元遺跡 地層断面図(1)



第4図 茶屋ノ元遺跡 地層断面図(2)

第2節 各トレンチの概要

第5表 茶屋ノ元遺跡各トレンチ調査一覧

トレンチ番号	規模(幅×長さ×深さ)	概 要
1	2 m×9 m×50cm	出土遺物なし。
2	2 m×6 m×50cm	出土遺物なし。
3	2 m×8 m×70cm	出土遺物なし。
4	2 m×8 m×70cm	出土遺物なし。
5	2 m×5 m×60cm	出土遺物なし。
6	2 m×8 m×70cm	出土遺物なし。
7	2 m×4 m×60cm	出土遺物なし。
8	2 m×7 m×30cm	出土遺物なし。
9	2 m×15m×1 m 2 m×8 m×60cm a 2 m×8 m×60cm b	遺物が出土したため a・b トレンチを設ける。
10	2 m×4 m×50cm	出土遺物なし。
11	1 m×6 m×60cm	出土遺物なし。
12	2 m×10m×60cm	遺物が数点出土。
13	2 m×14m×50cm	出土遺物なし。
14	2 m×10m×50cm 2 m×4 m×50cm a 2 m×5 m×50cm b	遺物が出土したため a・b トレンチを設ける。
15	2 m×10m×60cm 2 m×5 m×60cm a 2 m×5 m×60cm b	出土遺物なし。一部深堀し1 m20cmまで掘り下げる。

第3節 出土状況

第9トレンチは、第2層に遺物が5点出土したため東側に2 m、西側に2 m拡張した。その結果、西側だけに遺物が3点出土した。さらに東側に第11トレンチを設けて調査したが遺物の出土はなかった。なお、aトレンチの西側は建設予定地外にあたるため調査しなかった。

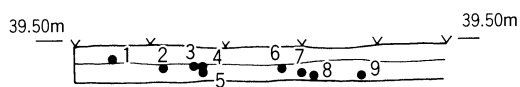
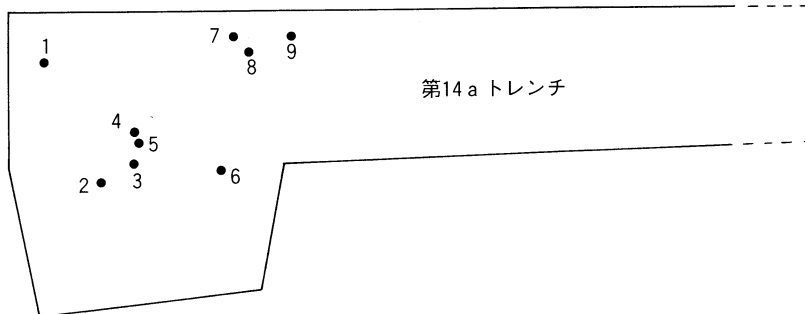
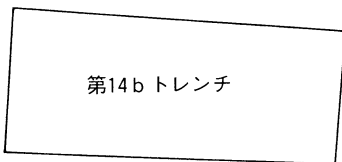
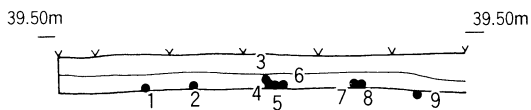
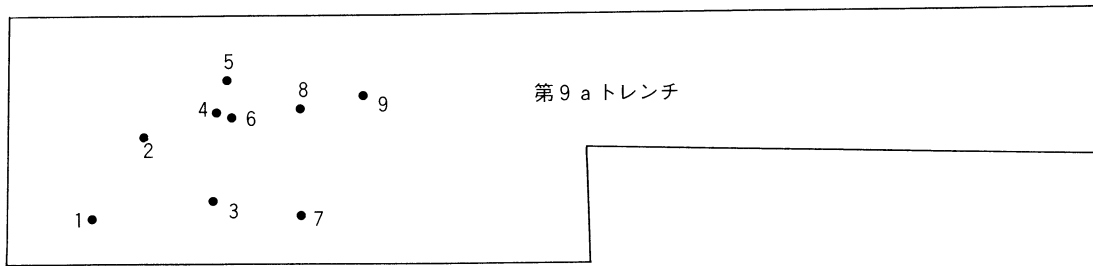
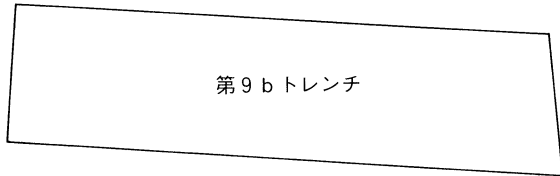
第12トレンチには遺物が2点出土した。地層の状況から1層との境のため、拡張はしなかった。

第14トレンチは、第2層に遺物が6点出土したため、東側に2 m、西側に3 m拡張した。その結果、東側に3点出土した。

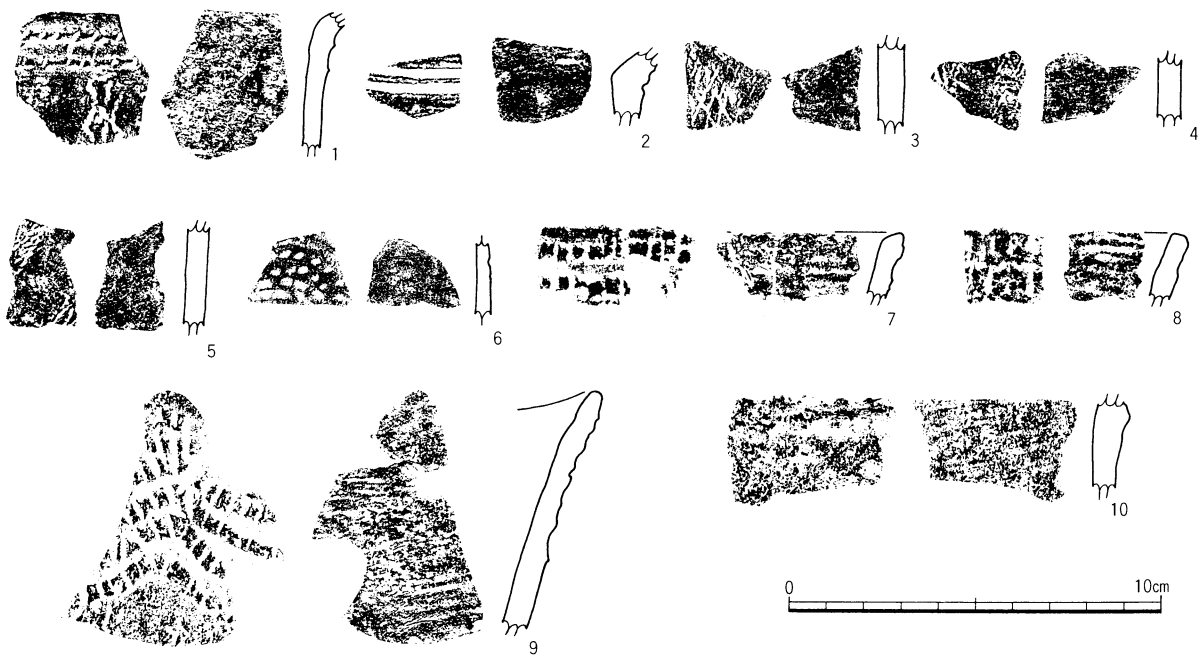
第4節 出土遺物

(1) 土器 (1~10)

1 (9 T II層) は円筒形の深鉢の胴部より頸部で外反する器形で、薄い器壁である。文様は縦位の捺糸文に横位の刻目微粒突帯を施し、丁寧な器面調整である。色調は外面が茶褐色に黒色の斑点



第5図 茶屋ノ元遺跡の第9・14トレンチ出土状況



第6図 茶屋ノ元遺跡出土遺物(1) 土器

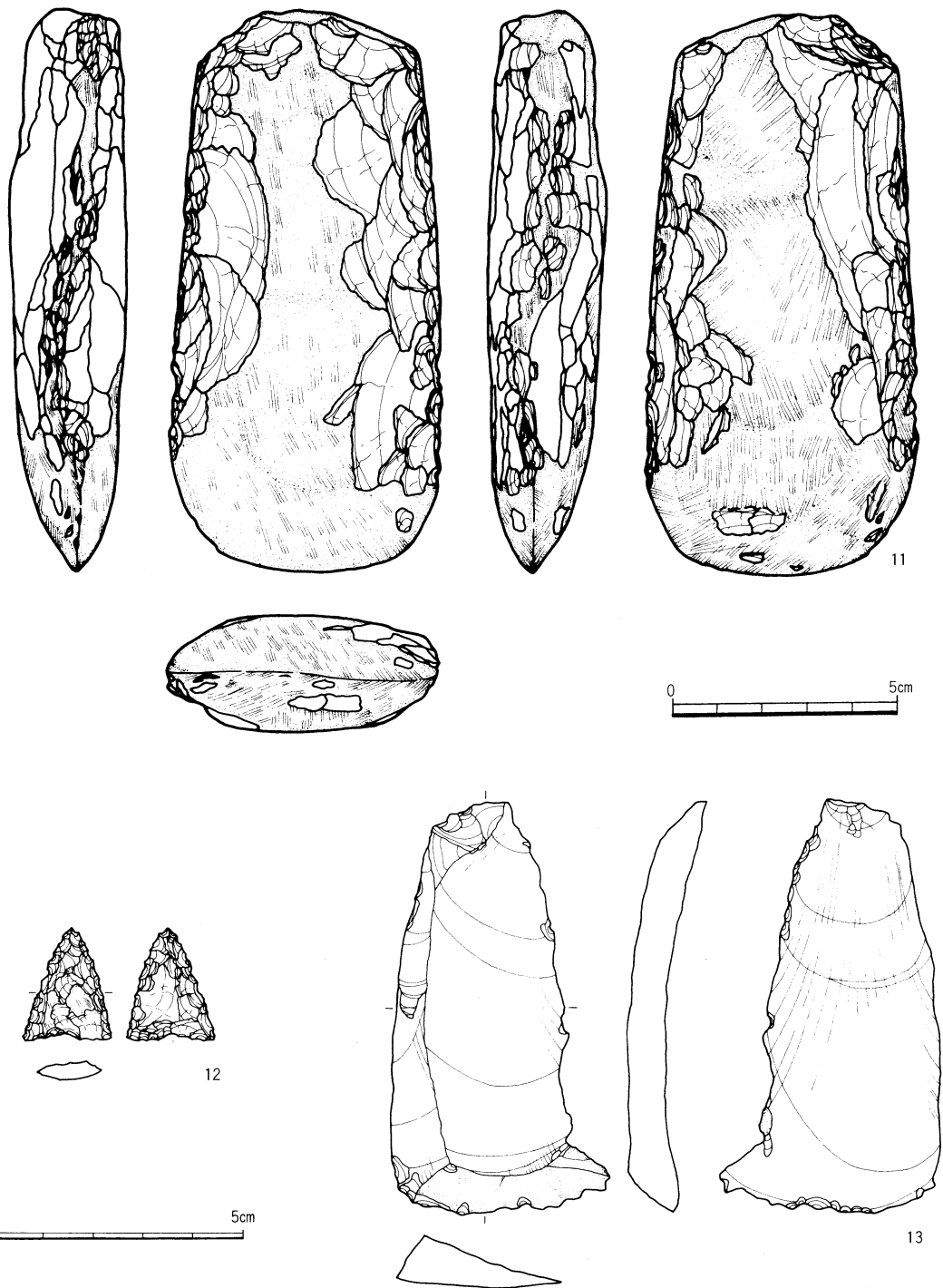
状がみられ内面は茶褐色である。胎土は細かい砂の中に雲母や石英、長石等が混入している。形式は塞ノ神A式に比定される。2（9 T II層）は「く」字状に折れる深鉢の頸部である。文様は横位に沈線が施されている。器面の調整は丁寧で、色調は暗茶褐色である。胎土は細かい砂の中に雲母や長石、石英等が混入している。形式は塞ノ神A式に比定される。3（9 T II層）は深鉢の胴部で捺糸文が器面に見られる。薄手の土器で色調は明茶褐色である。胎土は1と類似している。塞ノ神式に比定される。4、5は捺糸文があり3と同一個体と思われる。6は薄手の深鉢で、文様は連点を施している。胎土器面調整は3・4・5に類似している。形式は断定できない。7～9（14 T II層）は同一個体と思われる。9は山形の口縁部を持つ深鉢である。刻目をもつ5本の突帯を山形口縁状に貼りつけたもので、内面には貝殻条痕の器面調整が見られる。器壁は薄手で色調は暗茶褐色である。胎土は黒色で緻密な土を使用し、長石が目につく。7・8は口縁部の平坦部分である。これらは轟系の土器に比定している。10（12 T II層）は微隆起突帯が横位にあり、やや厚手の土器である。器面は剥落があるが内面には貝殻条痕が見られる。器面の色調は茶褐色で、胎土の色調は黒色をして緻密な土に長石が混入している。この土器も轟系に比定している。

(2) 石器 (11～13)

11（3 T I層）はみかん植樹時に穴を掘った中より出土したものである。ハマグリ歯状の磨製石斧で、柄の装着部分も見られる。石材は頁岩である。大きさは長さ12.5cm、幅6.0cm、厚さ2.7cmである。

12（9 T I層）は石族である。石材は頁岩で、形は長さ2.2cm、幅1.8cmの平基式である。

13（3 T I層）は気泡の少ない黒曜石の剥片である。原産地は腰岳と思われる。長さは7.8cmで縦長に良く剥いている。使用痕はない。



第7図 茶屋ノ元遺跡出土遺物(2) 石器

第V章 まとめ

15本以上のトレンチを入れたて調査した。土器は縄文早期の塞ノ神A式土器と前期の轟系遺物、石器は磨製石斧、石鏃、黒曜石の縦長剥片の出土はあった。これらの出土状況は土石流内に混在した状態であった。

また、遺構の検出は確認されなかった。



茶屋ノ元遺跡本線北部全景



変電所建設部全景



茶屋ノ元遺跡本線南部全景



茶屋ノ元遺跡調査状況



茶屋ノ元遺跡トレンチ調査状況

石斧出土状況





茶屋ノ元遺跡の地層



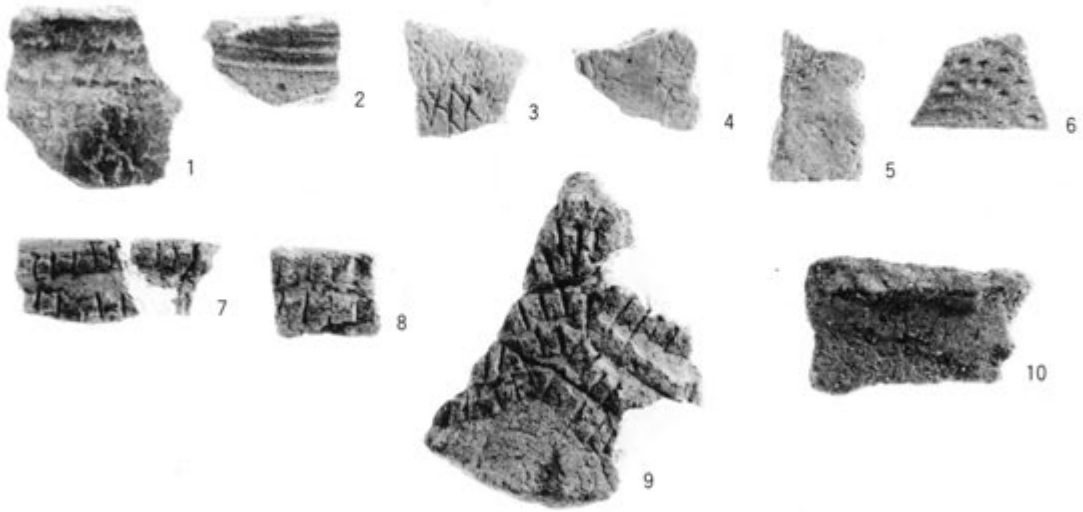
茶屋ノ元遺跡の拡張状況



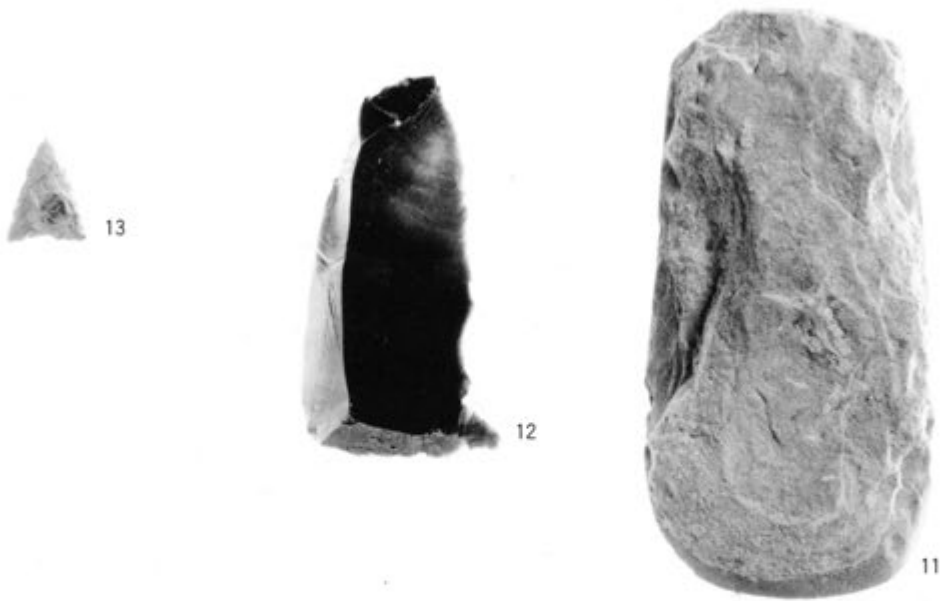
茶屋ノ元遺跡のトレンチ拡張と追加トレンチ



茶屋ノ元遺跡の遺物出土状況



茶屋ノ元遺跡の出土遺物 土器



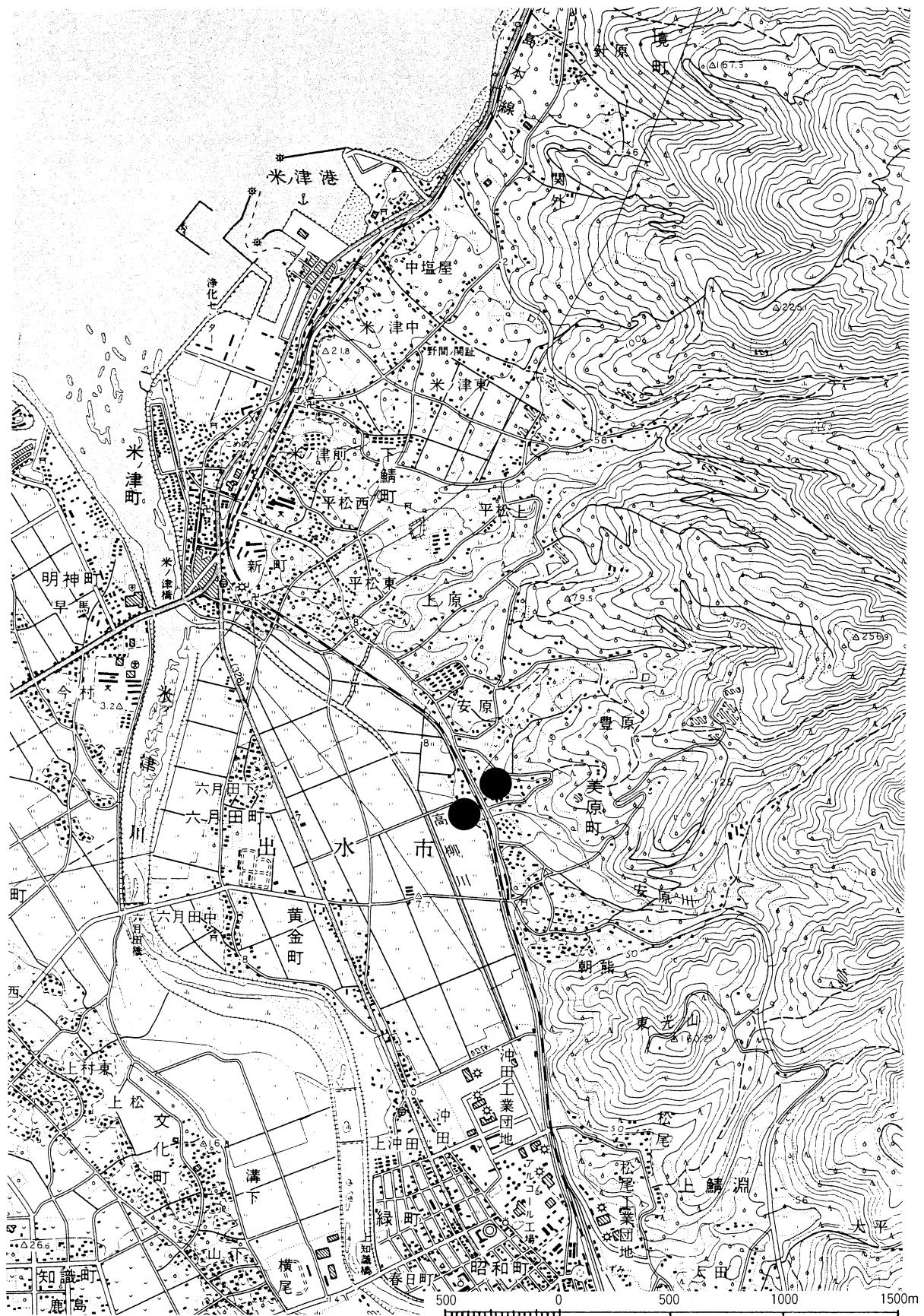
茶屋ノ元遺跡の出土遺物 石器

鐙・安原遺跡

出水市美原町

報告書抄録

ふりがな	あぶみ・やすはらいせき							
書名	鏡・安原遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
あぶみ・やすはらいせき 鏡・安原遺跡	かごしまけんいずみし 鹿児島県出水市 みはらちよう 美原町	462080	8-66	32°	130°	H11.2.17 ～2.18	60m ²	きゅうしゅうしんかんせん 九州新幹線 けんせつ 建設
				6'	21'			
				20"	19"	H11.2.24 ～2.25		
				32°	130°	H11.3.9		
				6'	21'			
				16"	13"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鏡・安原遺跡	散布地	平安時代		土師器				



鏡・安原遺跡の位置

鐙・安原遺跡

第Ⅰ章 調査の経過

調査は平成10年度と平成11年度に調査した。平成10年度の調査は茶屋ノ元遺跡での調査一覽の通りである。なお、全体も茶屋ノ元遺跡での一覽の通りである。

平成10年度の調査期間は、平成11年2月17日から25日4日間調査し、そのあと3月9日に実施した。

平成11年度は、平成12年2月15日に調査した。

平成11年2月17日（水）

安原遺跡の第1トレンチを設定し、表土剥ぎから掘り下げる。

2月18日（木）

安原第1トレンチを第Ⅱ層・第Ⅲまで掘り下げる。精査・清掃後写真撮影。断面図作成。

安原第2トレンチを設定し、掘り下げる。第Ⅱ・Ⅲ層まで掘り下げて、精査・清掃後写真撮影。断面図作成。埋め戻し。

2月24日（水）

鐙遺跡第1・2トレンチを設定し、掘り下げる。

2月25日（木）

鐙第1・2トレンチ掘り下げ終了。精査・清掃後写真撮影。断面図作成後埋め戻し。

3月9日（火）

鐙第3トレンチを設定し、掘り下げる。終了後写真撮影。断面図作成後埋め戻し。

平成12年2月15日（水）

安原第3トレンチを設定し、掘り下げる。終了後写真撮影。断面図作成後埋め戻す。

第Ⅱ章 調査の組織

平成10年度は、茶屋ノ元遺跡と同じ組織である。

平成11年度の発掘調査組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局

事業主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者 " 次長兼総務課長 黒木 友幸

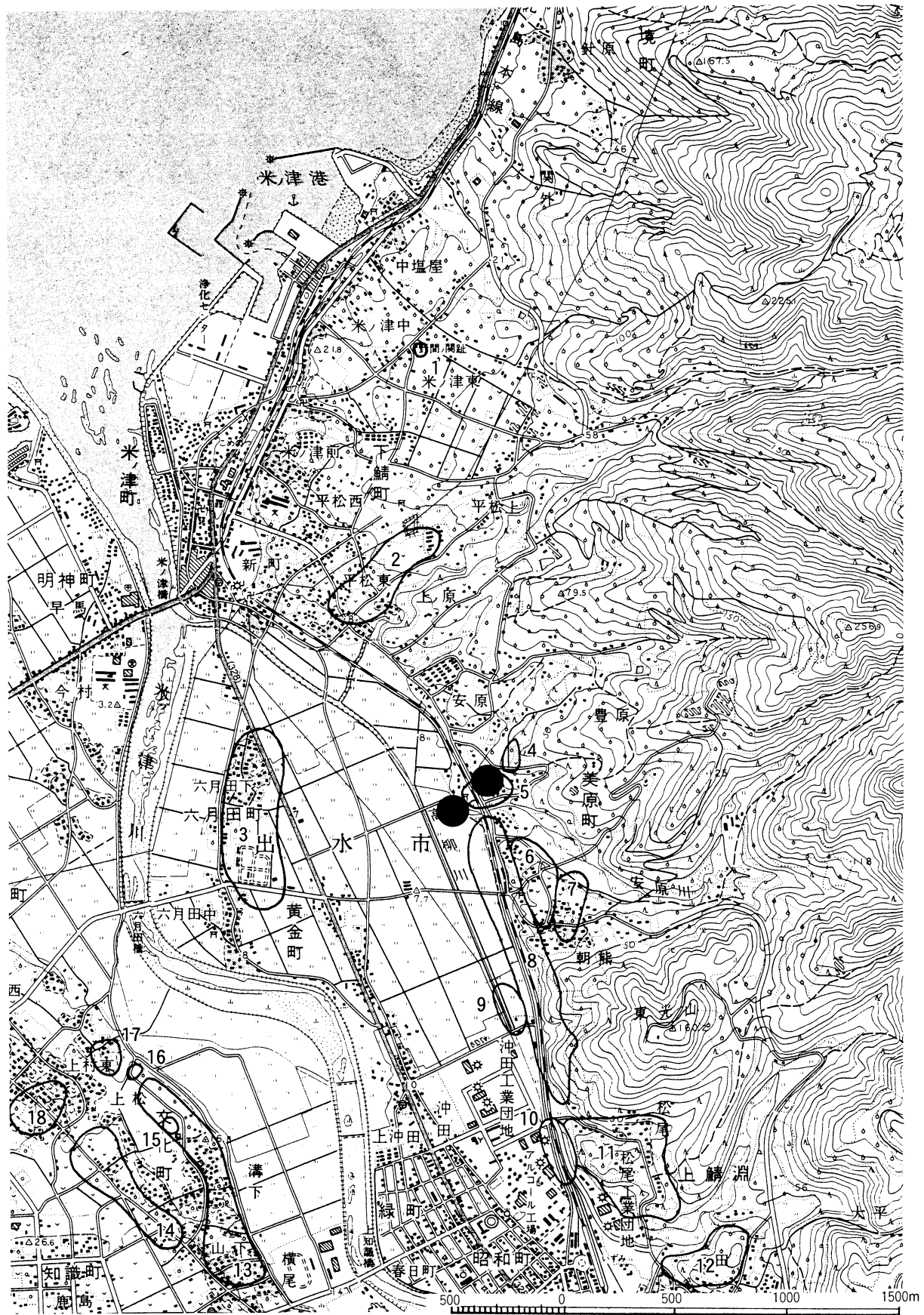
" 主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋

" 課長補佐兼第一係長 新東 晃一

" 主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

調査担当者 " 主任文化財主事 彌榮 久志

" 文化財主事 東 和幸



第8図 鏡・安原遺跡と周辺遺跡

1 : 25,000

調査担当者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	高岡 和也
	〃	文化財研究員	上床 真
調査事務担当	〃	総務係長	有村 貢
	〃	主査	今村孝一郎
	〃	主事	溜池 佳子

平成13年度の報告書作成の組織

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上 明文
調査企画	〃	次長兼総務課長	黒木 友幸
	〃	主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一
	〃	課長補佐	立神 次郎
調査担当者	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮 久志
調査事務担当	〃	総務係長	前田 昭信
	〃	主査	今村孝一郎

第Ⅲ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

鑑・安原遺跡は、出水市美原町に所在する。

出水市の町は、標高687mの矢筈岳麓の南に市街地、南西側に米ノ津の町並を形成している。

鑑・安原遺跡は両町並の中間に位置し、安原集落内に在る。

遺跡の立地としては、南側に米ノ津川にそそぐ高柳川や安原川が流れ、それらによって矢筈岳の裾野が削られた舌状台地である。なお、これらの河川で形成された低地は標高約7mである。遺跡が立地する台地の標高は、鑑遺跡が15～13m、安原遺跡が12～10mである。

第2節 周辺遺跡

次の宮野脇遺跡を参照。

第Ⅳ章 調査の概要

第1節 層 位

第Ⅰ層 表層であり、黒褐色土と茶褐色土の互層である。

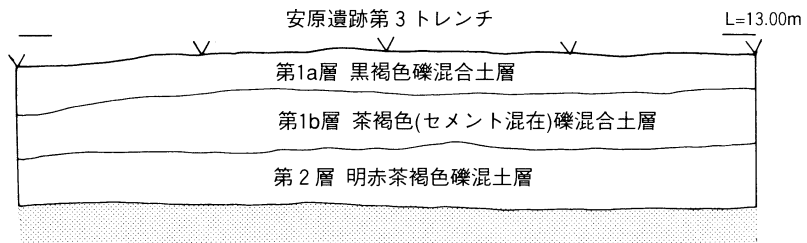
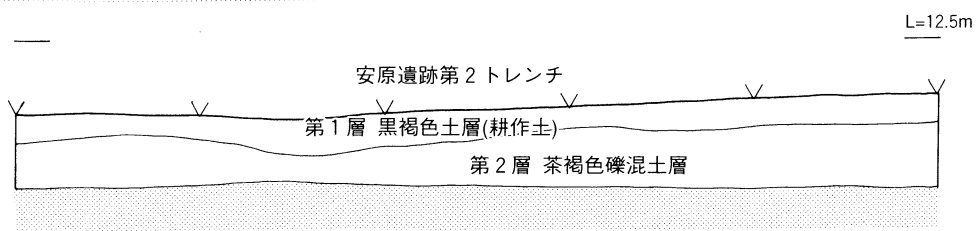
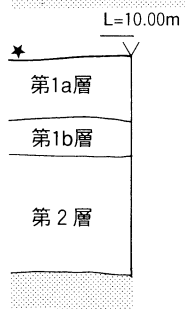
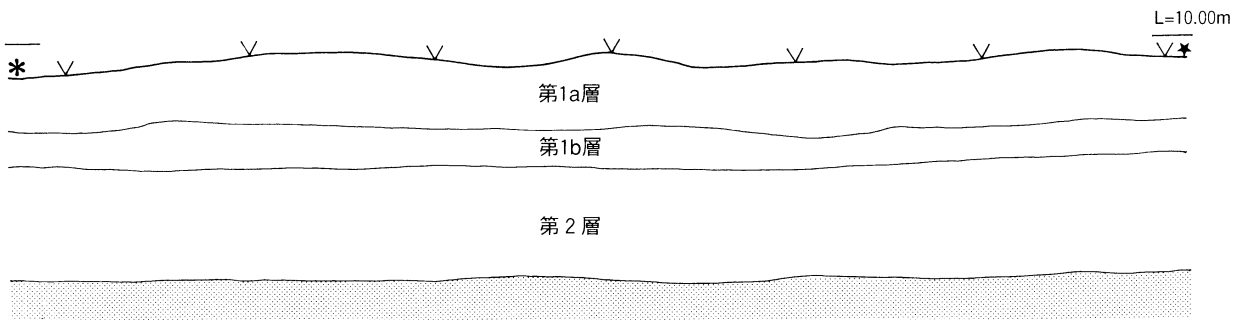
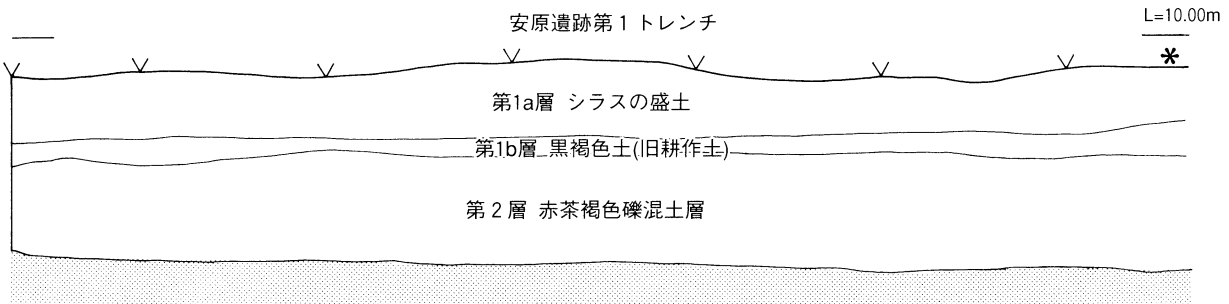
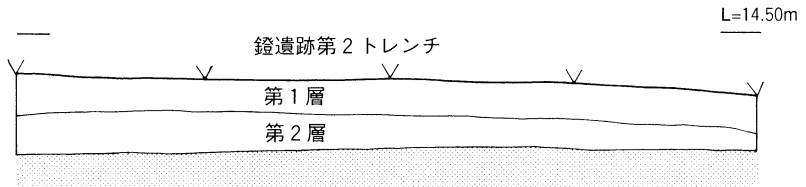
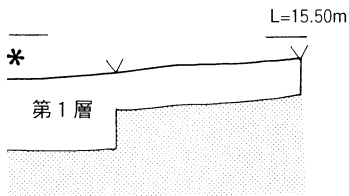
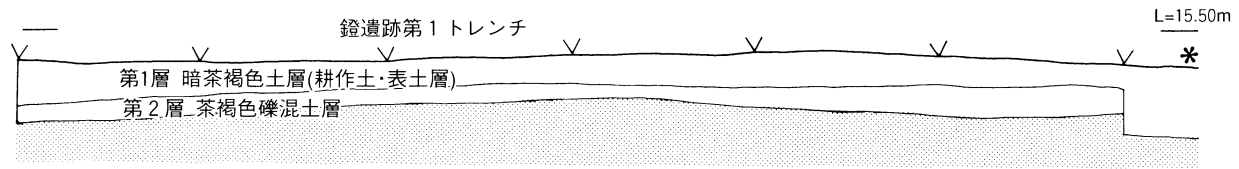
第Ⅱ層 小礫混じりの軟質茶褐色土。

第Ⅲ層 小礫混じりの硬質明茶褐色土。

第2節 遺跡の概要

(1) 鑑遺跡

3か所のトレンチを設定した。



第10図 鍔・安原遺跡の地層断面図

第1トレンチは最も北側に設置した。位置としては、八代起点から55km800m地点である。規模は2×8mで、設定はほぼ東西にした。遺物は数点の土器片が表層から出土した。

第2トレンチは第1トレンチの南20m地点に2×5mの規模で設定した。遺物の出土はなく、表層下は礫混土層であった。

第3トレンチは第1トレンチの南70m地点に2×2mの規模で設定した。遺物の出土はなく、表層下は礫混土層であった。

(2) 安原遺跡

ここは平成10年度と平成12年度に調査を実施した。

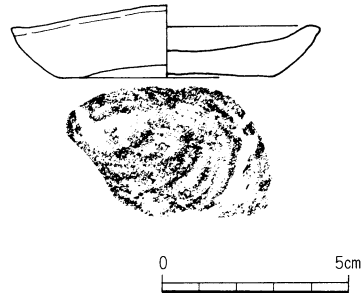
第1トレンチ（平成10年度調査）は、八代起点から55km925m地点に2×5mの規模で設定した。遺物の出土はなかった。

第2トレンチ（平成10年度調査）は、八代起点から56km15m地点に2×15mの規模で設定した。出土遺物はなかった。

第3トレンチ（平成11年度調査）は、八代起点から55km950m地点に2×5mの規模で設定した。攪乱がひどくヒューム管等があり破壊されていた。遺物は攪乱層に土師器が1点出土した。

第V章 出土遺物

径8.2cm，器高1.6cmの小皿である。
底面には篋きり痕が見られる。
器形はいびつで波状を呈している。
焼成は良く明茶褐色を呈している。
時期は9世紀と思われる。



第11図 安原遺跡の出土遺物

第VI章 まとめ

鑑遺跡に3本，安原遺跡に3本のトレンチを入れて調査した。

安原第3トレンチの表層に土師器が出土したほか，目新しい遺物はなかった。調査地域は全体的に削平が行われており，表層下は礫混土層で遺構の検出は確認されず，遺物の出土も攪乱層中であつた。



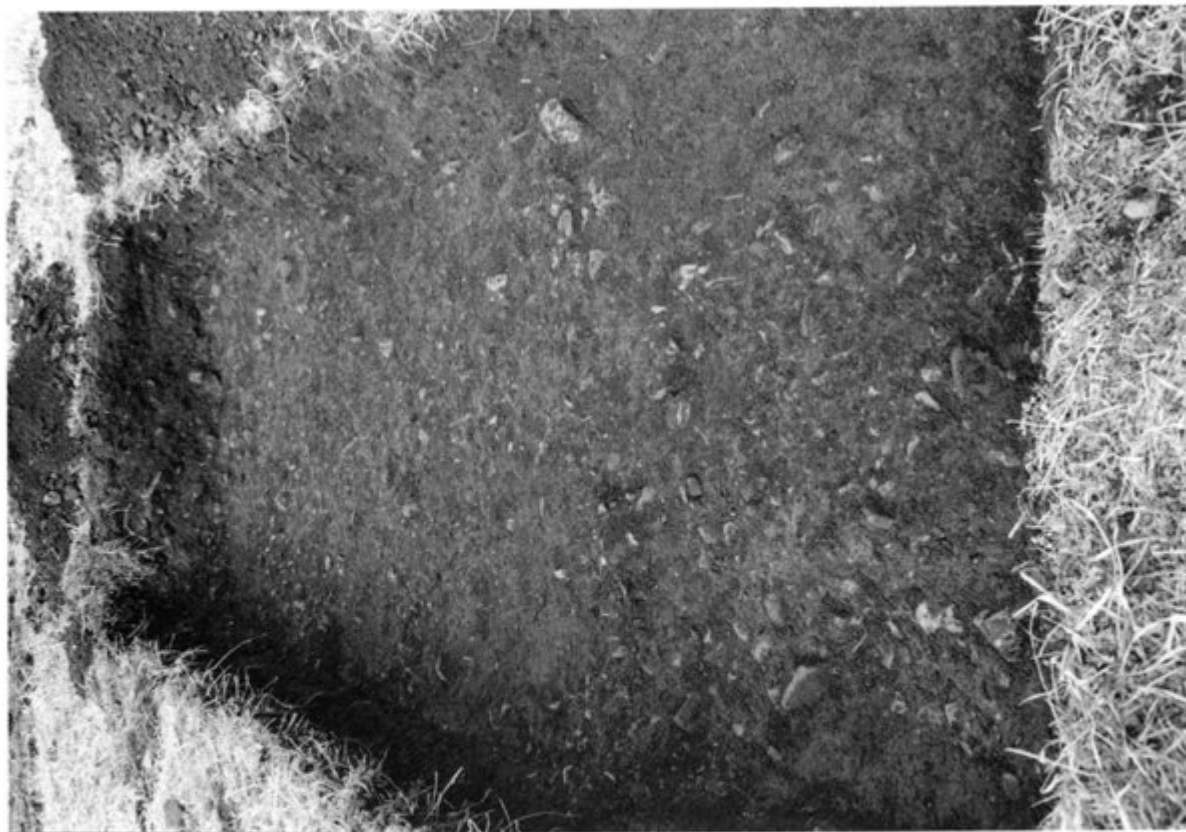
鎧遺跡全景



鎧遺跡のトレンチ調査状況



鏡遺跡のトレンチ調査状況



鏡遺跡のトレンチ調査状況



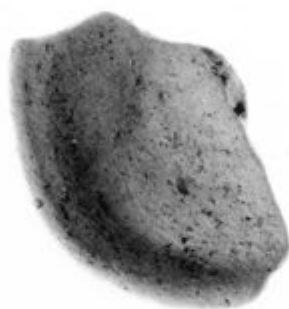
安原遺跡の調査状況



安原遺跡のトレンチ調査状況



安原遺跡のトレンチ調査状況



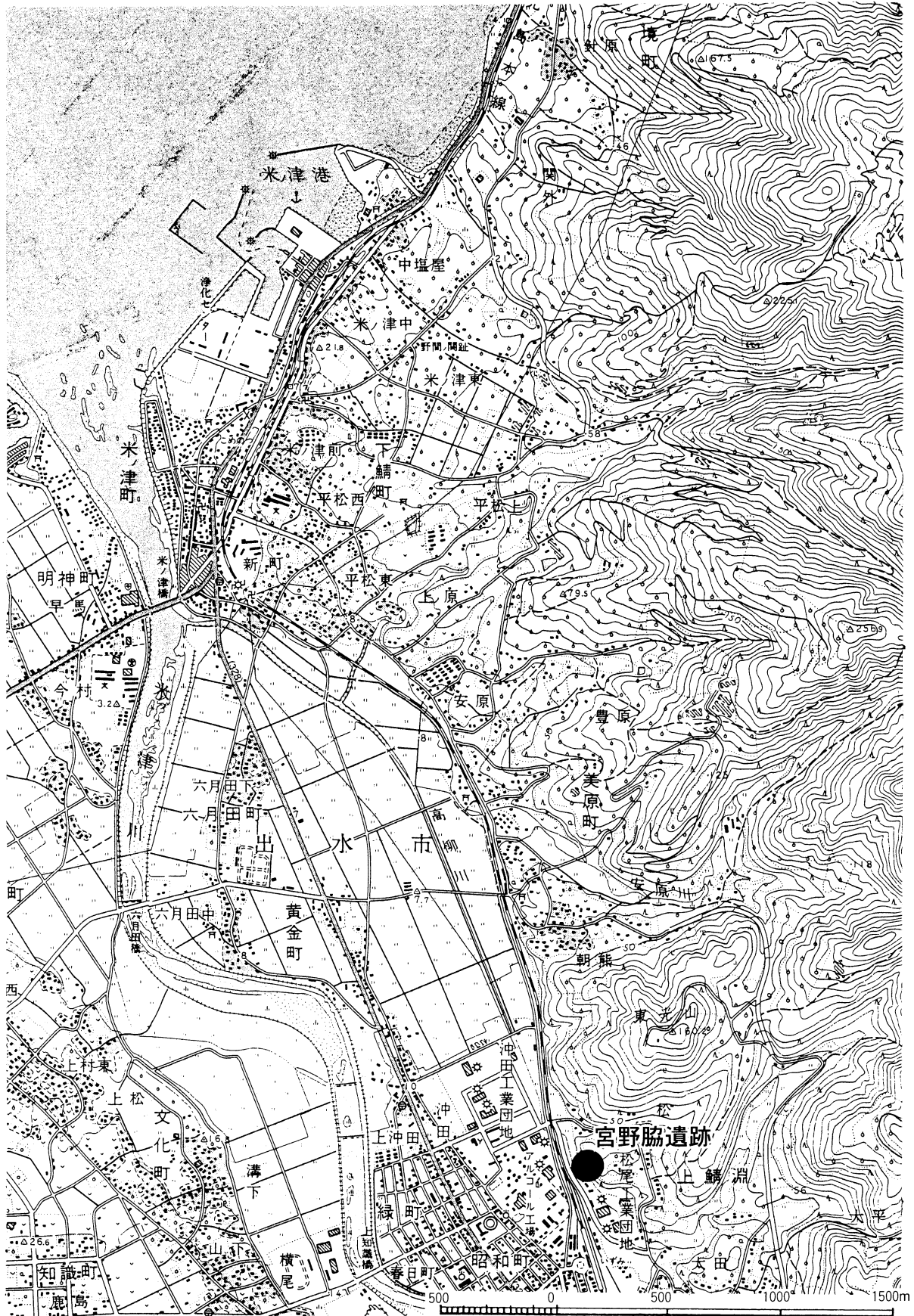
安原遺跡出土遺物

宮野脇遺跡

出水市上鯖淵

報告書抄録

ふりがな	みやのわきいせき							
書名	宮野脇遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
みやのわきいせき 宮野脇遺跡	かごしまけんいざみし 鹿児島県出水市 しもさばふち 下鯖淵	462080	8-68	32° 5' 25"	130° 21' 30"	H11.2.19 H12.2	48m ²	きゅうしゅうしんかんせん 九州新幹線 けんせつ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宮野脇遺跡	散布地							



宮野脇遺跡の位置

1 : 25,000

宮野脇遺跡

第Ⅰ章 調査の経過

本遺跡は平成11年2月19日と平成12年2月20日に実施した。

2日間とも確認調査で終了した。

第Ⅱ章 調査の組織

平成10年度の発掘調査組織は、茶屋ノ元遺跡と同じ体制である。

平成11年度の発掘調査組織は、鏡・安原遺跡と同じ体制である。

平成13年度の報告書作成組織は次の体制である。

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	井上 明文
調査企画	〃	次長兼総務課長	黒木 友幸
	〃	主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一
	〃	課長補佐	立神 次郎
調査担当者	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮 久志
調査事務担当	〃	総務係長	前田 昭信
	〃	主査	今村孝一郎

第Ⅲ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

宮野脇遺跡は出水市上鯖淵宮野脇に所在する。

遺跡の位置は出水駅のすぐ北にあり、松尾工業団地として水田を埋め立てたところである。

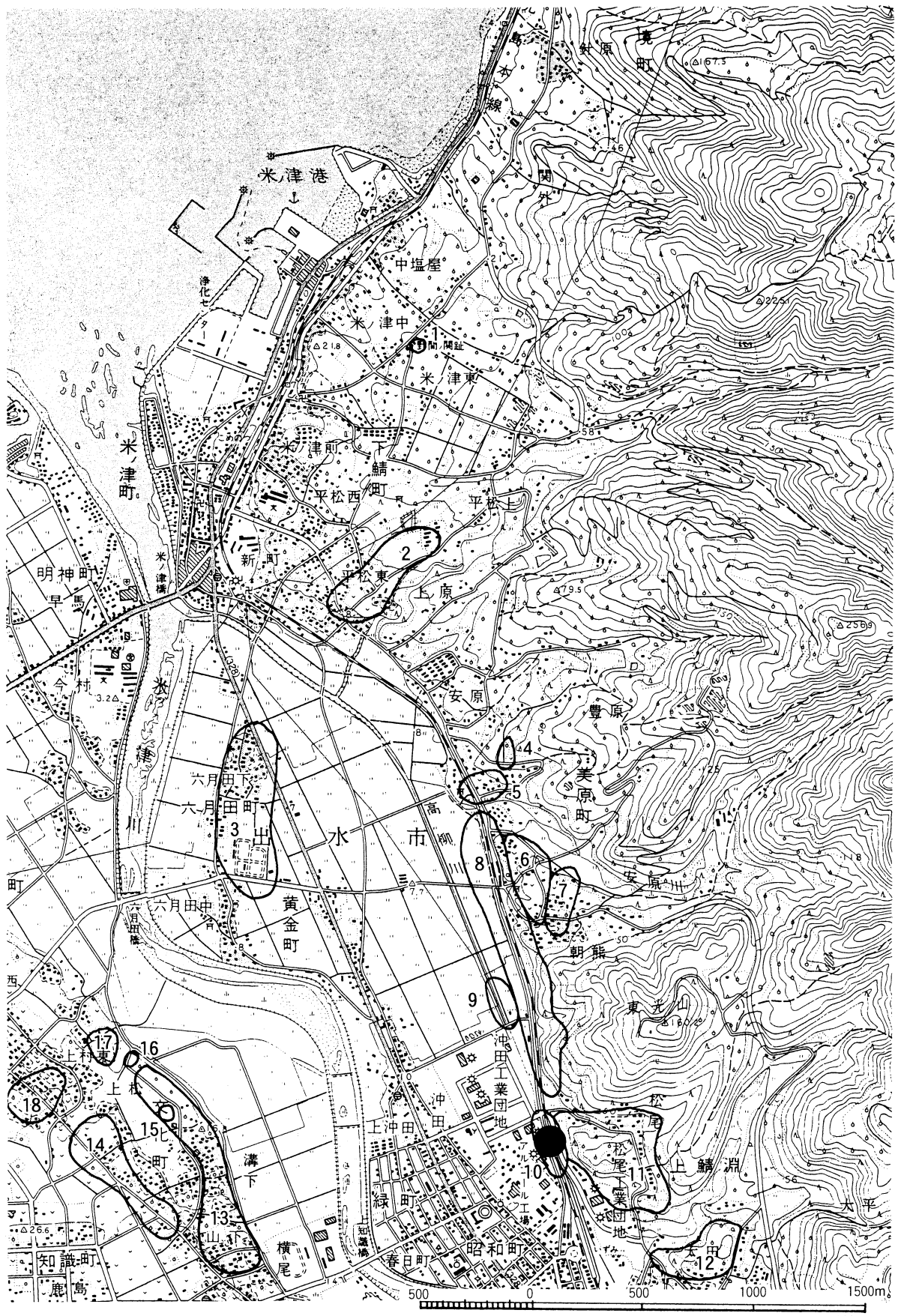
遺跡が存在するところは、標高160mの東光山の南側を高柳川が南北に流れ、湿地帯を形成し標高約12mの水田化したところである。

第2節 周辺遺跡

本遺跡の周辺遺跡は、同じ新幹線建設で調査した大坪遺跡、高柳川河川拡幅工事で調査した沖田岩戸遺跡が北に位置し、東側には、中世の松尾城がある。

第6表 宮野脇遺跡の周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	野間の関	下鯖淵町堀ノ内	台地	江戸	古井戸	市指定
2	平松	下鯖淵町平松東	丘陵	縄文・古代	土器・黒曜石	H9分布調査
3	六反ヶ丸	六月田町六月田下	低地	古代	土師器	遺物採集地
4	安原城跡	美原町上ノ原	台地	中世	腰曲輪・空堀	安原氏居城
5	鏡・安原	美原町安原	台地	縄文、古代	土師器	新幹線で調査



第12図 宮野脇遺跡位置図と周辺遺跡

1 : 25,000

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
6	朝隈城跡	美原町朝隈	丘陵	中世	主郭・曲輪	朝隈氏居城
7	諏訪後	美原町朝隈	台地	縄文, 古代	土器・青磁	H 9 分布調査
8	大坪	美原町, 黄金町	低地	縄文, 古代	竪穴住居跡, 埋設土器・石器, 玉類	H10・11・12年緊急調査(新幹線)
9	沖田岩戸	美原町, 黄金町	低地	縄文, 古代	土器・石器	S48発掘調査
10	宮野脇	上鯖淵松尾	低地	弥生	石器	遺物採集地
11	松尾城跡	上鯖淵松尾	丘陵	中世	主郭・曲輪	上村氏居城
12	大田城	上鯖淵松尾	丘陵	中世	主郭・曲輪	
13	下郡山	上鯖淵大田	台地	縄文, 古墳	土器・土師器	H 9 分布調査
14	上松	文化町溝下	台地	縄文	土器	H 9 分布調査
15	溝下古墳群	文化町上松	台地	古墳	地下式板石, 積石室, 短甲	S32.45. H12学術調査
16	川除	文化町上村東	台地	古墳, 古代	土師器	遺物採集地
17	谷城跡	下知識町上村西	台地	中世	水の手	
18	庵木園	知識町上村東	台地	縄文, 古墳	土器	H 9 分布調査

第Ⅳ章 調査の概要

第1節 層位 (第14図)

- 第Ⅰ層 えび茶褐色の砂礫層で盛り土。
- 第Ⅱ a 層 灰黒色土で旧水田耕作土。
- 第Ⅱ b 層 暗灰褐色土。
- 第Ⅱ c 層 黄褐色土 (鉄分層)。
- 第Ⅲ層 灰色砂礫層。
- 第Ⅳ層 黒色砂礫層。

第2節 調査の概要

用地買収のため発掘調査は2回に分けて調査した。

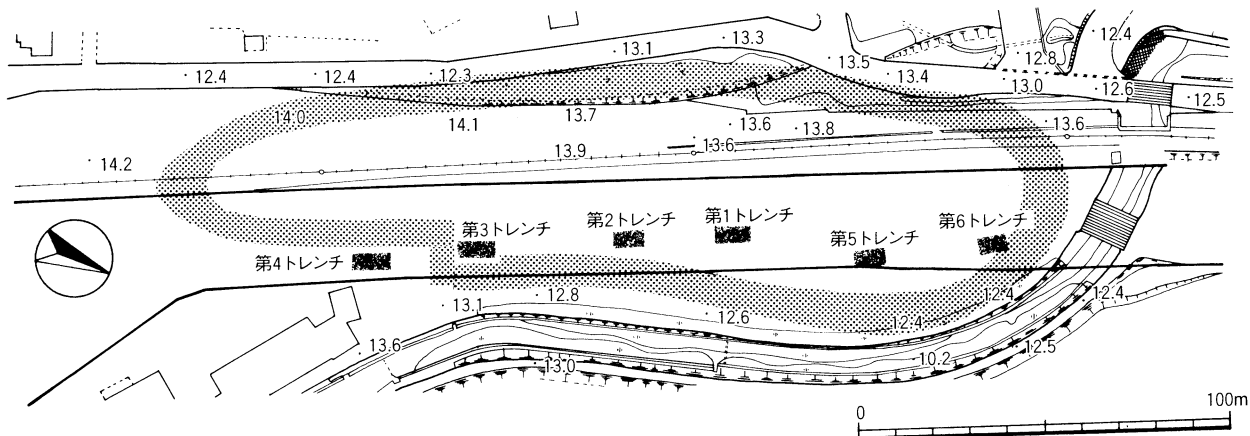
平成11年2月19日は、4本のトレンチを南側に設置して調査を実施した。遺跡の表土は松尾工業団地の造成で約1.2m礫が盛られていた。その下に旧水田の表土が約20cmあり、その下は砂利混じりの堆積層であった。さらにその下は礫で、出土遺物は発見されなかった。

平成12年2月20日は、北側の2本のトレンチを調査した。結果、前4本と同じであった。

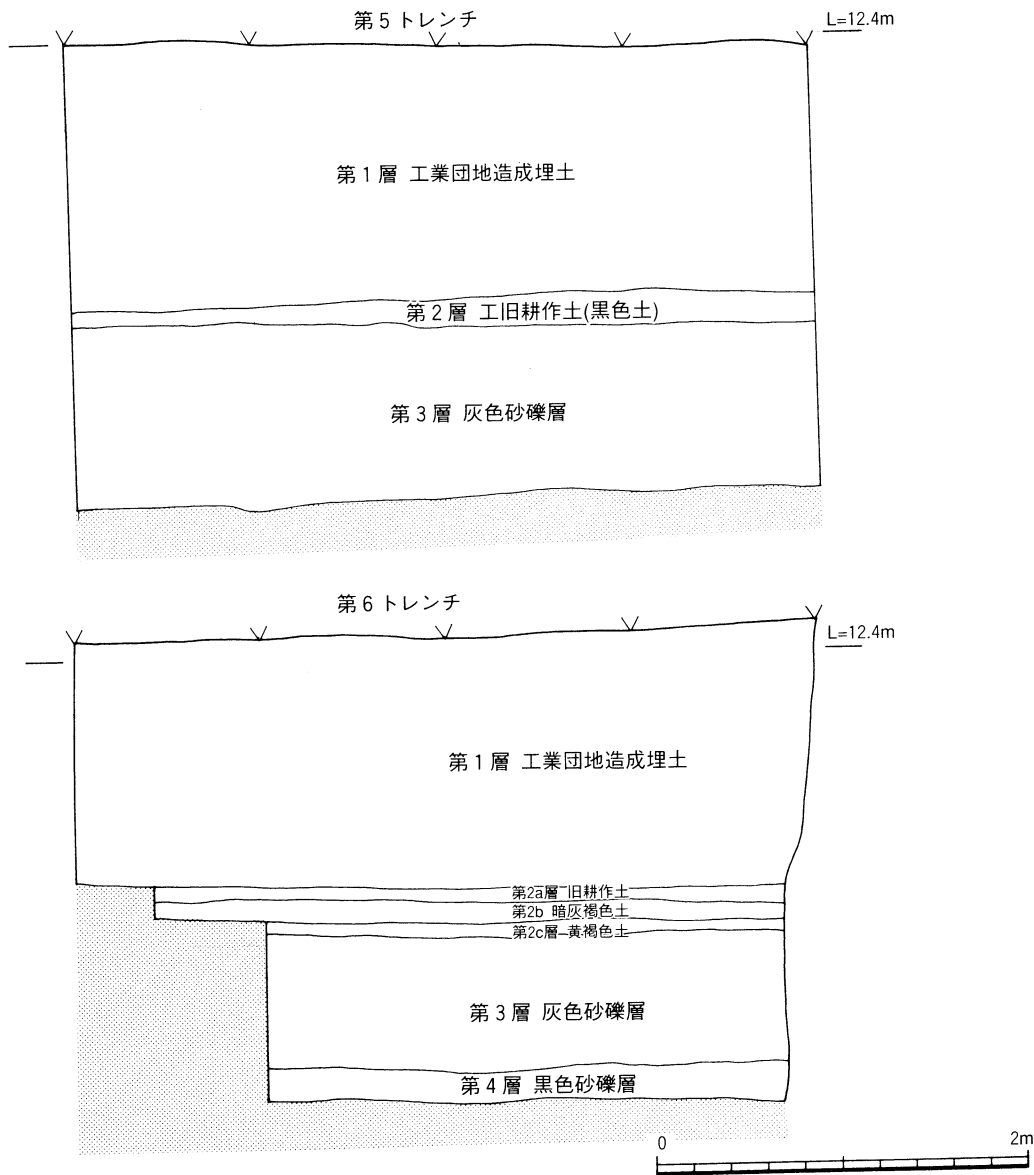
第13図はそのトレンチ配置図である。

第Ⅴ章 まとめ

本調査は、中世の松尾城関係と縄文晩期の沖田岩戸遺跡の関係を探したが、それらしいものは発見されなかった。なお、分布調査の結果は、盛り土の遺物と考えられる。



第13図 宮野脇遺跡の範囲とトレンチ配置図



第14図 宮野脇遺跡の第5・6トレンチ地層断面図



宮野脇遺跡全景



宮野脇遺跡作業風景



宮野脇遺跡のトレンチ調査状況



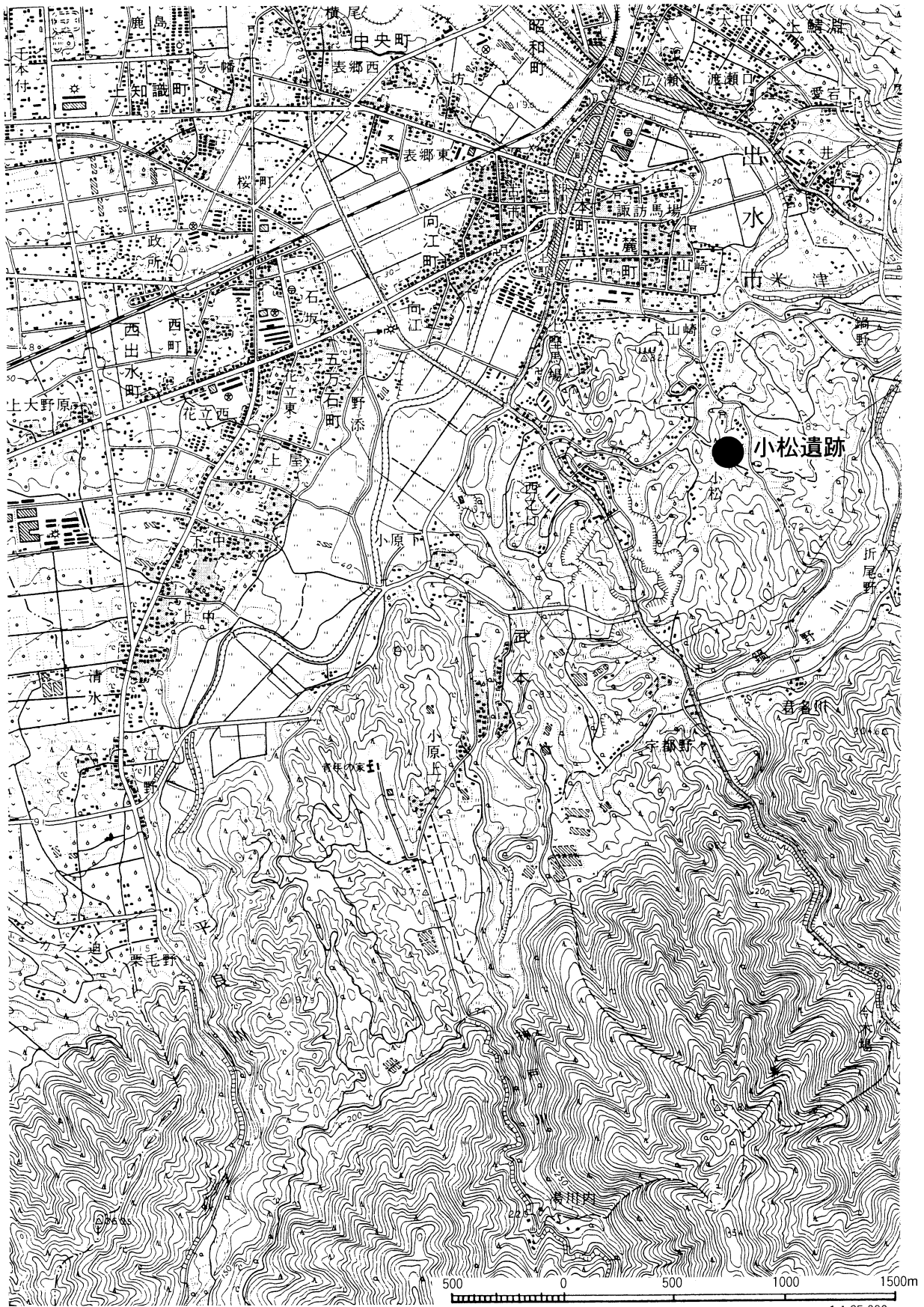
宮野脇遺跡の地層

小 松 遺 跡

出水市武本

報告書抄録

ふりがな	こまつ いせき							
書名	小松遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
こまついせき 小松遺跡	かごしまけんいずみし 鹿児島県出水市 たけもと 武本	462080	8-70	32° 3' 54"	130° 21' 59"	H10.7.8 ~7.10	108m ²	きゅうしゅうしんかんせん 九州新幹線 けんせつ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小松遺跡	散布地	縄文時代早期		土器 黒曜石				



小松遺跡の位置

小松遺跡

第I章 調査の経過

発掘調査は、平成10年7月8日から10日の3日間で実施した。

7月8日は機材、道具の搬入後、3本のトレンチを設定し、掘り下げに入る。

7月9日はさらに3本のトレンチを設定し、掘り下げに入る。

7月10日は図面終了後、機材等の撤去で全てを終了する。

第II章 調査の組織

平成10年度の発掘調査組織は、茶屋ノ元遺跡の体制で実施した。(8 p 参照)

平成13年度の報告書作成の組織は、宮野脇遺跡の調査体制で実施した。(40 p 参照)

第III章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

遺跡は、出水市武本字小松に所在し、出水平野の東部にあたる。

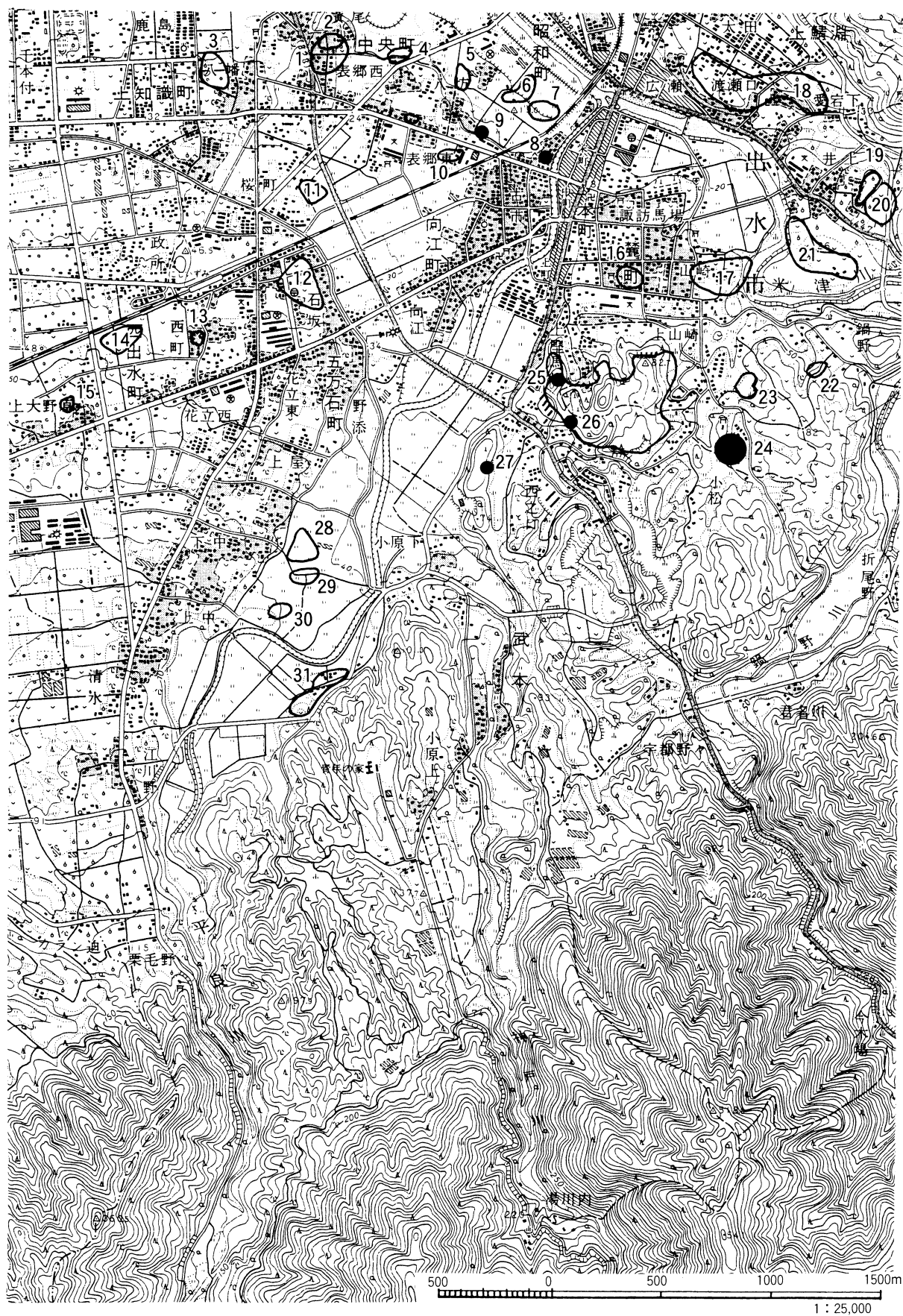
出水平野は出水市の南側に位置する紫尾山(標高1056.8m)を中心とする山地から北側に形成された扇状地である。その扇状地を形成した主な川は米ノ津川で出水市街を通り八代海に注いでいる。その市街地の中には、米ノ津川と平良川に挟まれた江戸時代の麓集落があり、遺跡は麓集落の南約500mの台地に立地する。

第2節 周辺遺跡

周辺遺跡は、第15図に示したとおり、市街地周辺に多く見られる。

第7表 小松遺跡の周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	尾崎城跡	中央町尾崎	舌状台地	中世	水の手、掘立柱建物跡	知色氏・島津氏居城 知識城
2	出水貝塚	中央町尾崎	舌状台地	縄文早中後	押型文・阿高式・南福寺式・出水式・貝輪・人骨	大正9年, 昭和28・29, 平成8～10年学術調査
3	八幡	上知識町八幡	台地	古墳, 中世	土器	H9分布調査
4	一町樋	中央町八坊	河岸段丘	古墳	土器	H9分布調査
5	成願寺	中央町八坊	河岸段丘	弥生～古墳	箱式石棺, 土師器・須恵器	発掘記録なし
6	田中	中央町八坊	河岸段丘	弥生	弥生土器, 須恵器・土師器	



第15図 小松遺跡位置図と周辺遺跡

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
7	内城跡	中央町八坊	河岸段丘	切岸・土塁	平城氏居城	
8	専修寺跡	向江町平良馬場(中村医院)	河岸段丘	室町～明治	寺院	島津5代実久建立
9	成願寺跡	中央町八坊	台地	安土桃山～江戸	寺院	1633年焼失
10	並松	中央町表郷東	台地	古墳・古代	土器	H9分布調査
11	塚込	中央町西町	台地	古墳	土器	H9分布調査
12	山王西	五万石町石坂	台地	古墳	土器・土師器	H9分布調査
13	政所	西出水町政所	台地	古墳	土器	H9分布調査
14	西牟田	西出水町政所	台地	縄文	土器, 黒曜石	H9分布調査
15	並木下	大野原町上大野原	台地	古墳・中世	土器・青磁	平成9年北薩分布調査
16	出水麓	麓町豎馬場	台地	中世～江戸	地頭館跡・ピット・陶磁器	平6・9年緊急調査
17	水天上	麓町山崎	台地	縄文・古代・近世	土器・黒曜石・土師器	平成9年北薩分布調査
18	井手ノ原	上鯖淵渡瀬口	河岸段丘	縄文・古墳	土器	H9分布調査
19	井ノ上城跡	上鯖淵井之上	山地	中世	主郭・曲輪・空堀・腰曲輪	和泉氏・井口氏居城, 別称井口城
20	御所園原	上鯖淵井之上	台地	縄文	土器・黒曜石	H9分布調査
21	鯖淵	上鯖淵井之上	河岸段丘	縄文・中世	押型文・黒曜石・青磁	平成9年度北薩分布調査
22	上ノ原	武本鍋野	丘陵	縄文・古代	土器・黒曜石・土師器	遺物採集地
23	松ヶ迫	武本鍋野	丘陵	旧石器・縄文	石器	H8確認調査
24	小松	武本小松	丘陵	縄文	黒曜石	H10確認調査
25	見性庵跡	麓町上豎馬場	丘陵	室町	島津氏墓・碑	出水風土記
26	出水城跡	麓7,325	丘陵	中世	主郭・曲輪・腰曲輪・空堀・大手・搦め手	肝属和泉氏・島津和泉氏・薩州家亀ヶ城・花見ヶ城
27	龍光寺跡	武本西ノ口	丘陵	室町～明治	寺跡	1459年建立
28	武本大坪	武本下中	河岸段丘	古墳	土器	H9分布調査
29	老神	武本上中	河岸段丘	縄文～平安	竪穴住居跡	H4緊急調査
30	市来	武本上中	扇状地	縄文～平安	弥生土器・土師器・須恵器	平成4年緊急調査
31	平山城跡	武本小原下	山麓傾斜面	中世		伴和泉氏一族居城

第IV章 調査の概要

第1節 層位

第I層は茶褐色土層で a b に分かれた表層であり，a は現耕作土である。

第II層は，シラス層である。

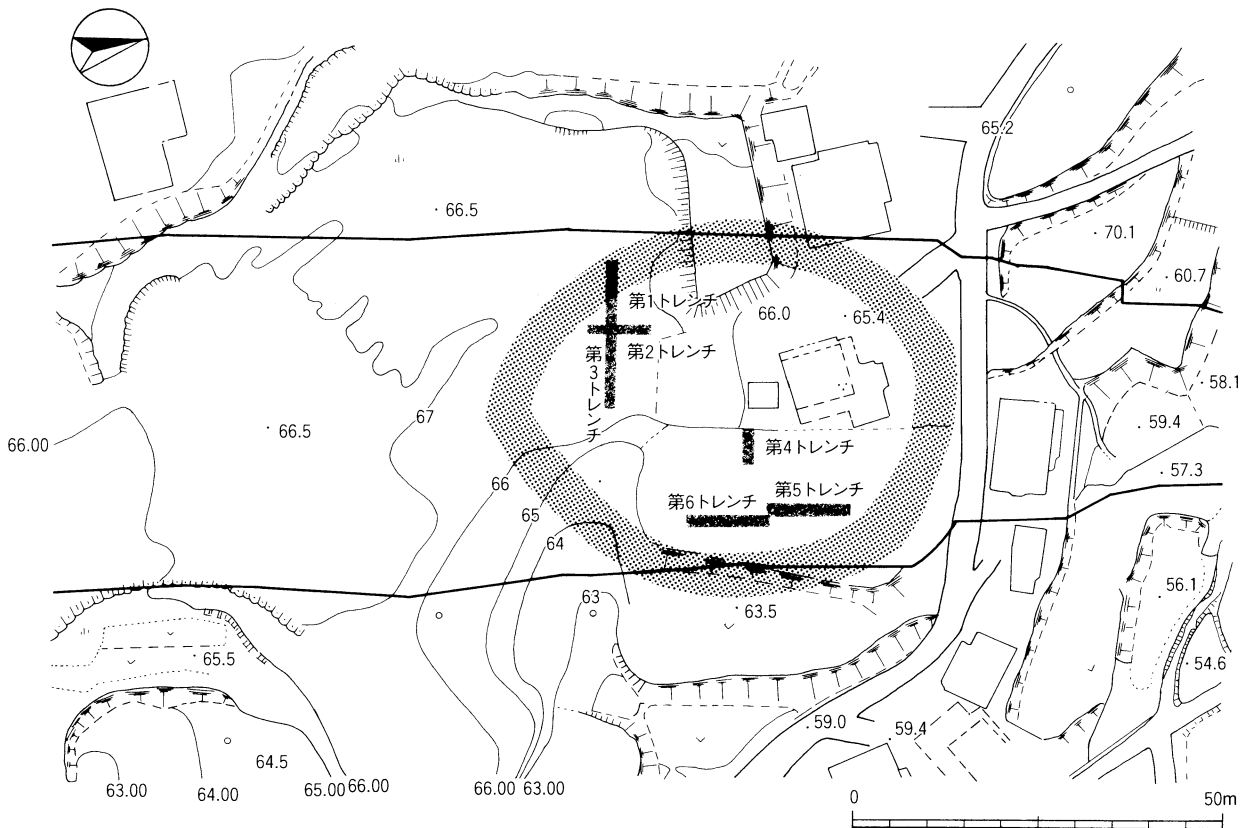
第III層は，岩石含みの茶褐色土層

第2節 調査の概要

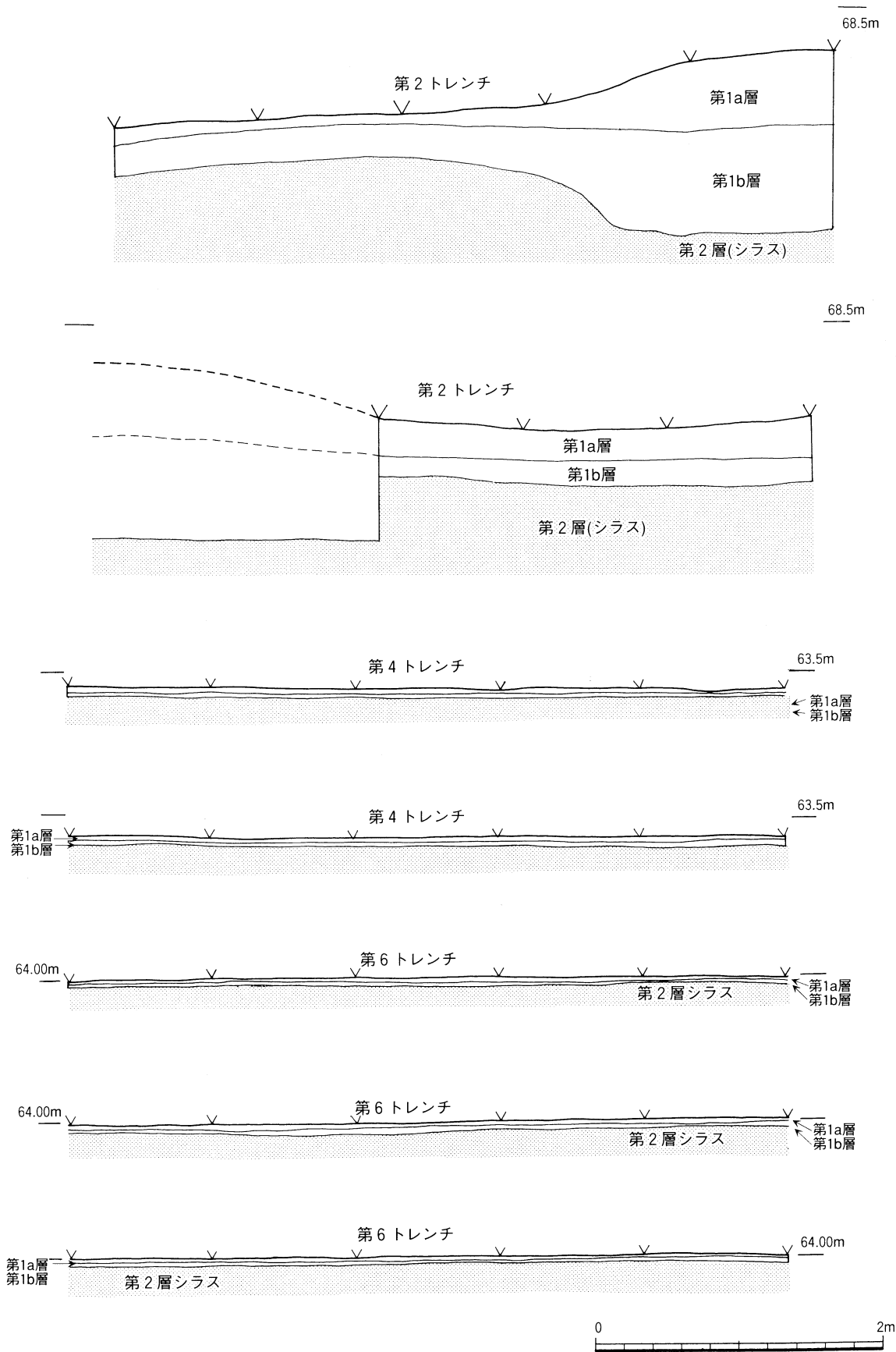
本遺跡は6本のトレンチを設定し確認調査を実施した。(第16図参照)

対象遺跡面積は，1,950 m^2 で，確認調査は108平方メートルであった。

第1から3トレンチは，表土が約1～50cmあり，その下はシラスであった。表土からは，現代の廃棄物と黒曜石が出土した。第4トレンチは，表層下シラスであった。出土遺物はなかった。第5・6トレンチは，シラスの表層で，過疎の下は，岩石を含む硬質茶褐色層であった。なお出土遺物はなかった。



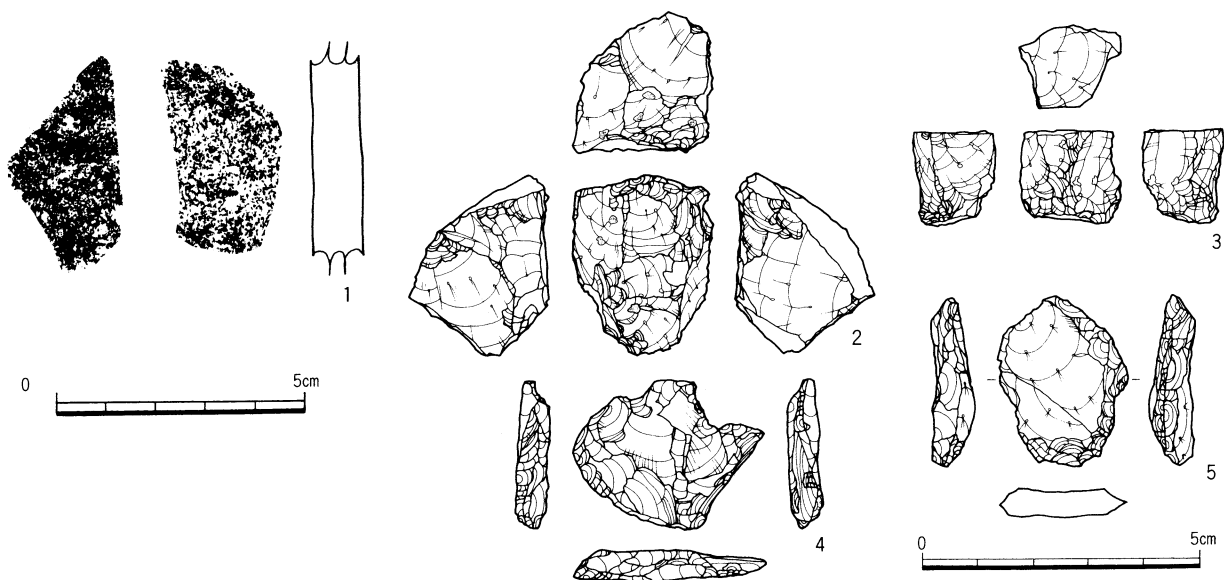
第16図 小松遺跡のトレンチ配置図



第17図 小松遺跡の地層断面図

第3節 出土遺物

1は縄文早期相当の土器片である。文様は無く、焼成は硬質で良い。色調は、器面が茶褐色で胎土が黒色である。2は、黒曜石の残核である。3も黒曜石の残核である。4は、黒曜石の加工痕のある剥片である。5は、片面加工をした剥片である。スクレイパー的要素が考えられる。



第18図 小松遺跡の出土遺物

第V章 まとめ

本遺跡は、黒曜石の採集で登録されている。調査の結果、この台地は、畑地に造成した時にかなり削られ変形されていた。遺物は現代産業廃棄物の溜め場の中に黒曜石と土器が混入されていた。



小松遺跡北部全景



小松遺跡南部全景



小松遺跡北部トレンチ調査状況

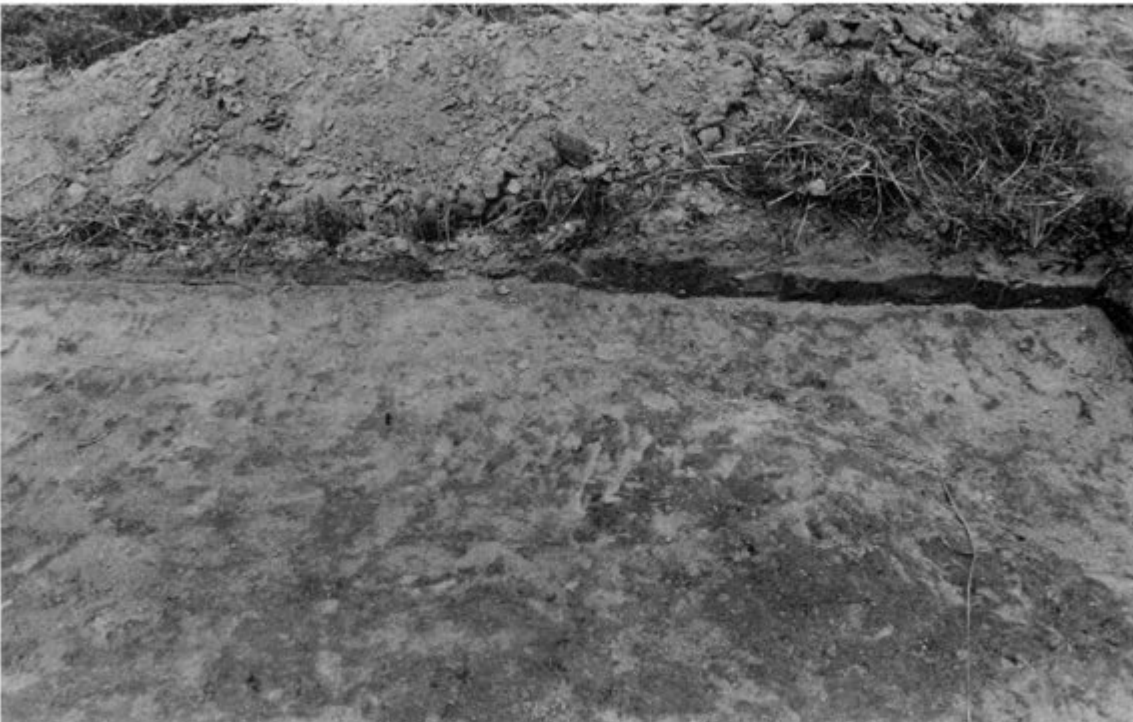
小松遺跡
北部の地層

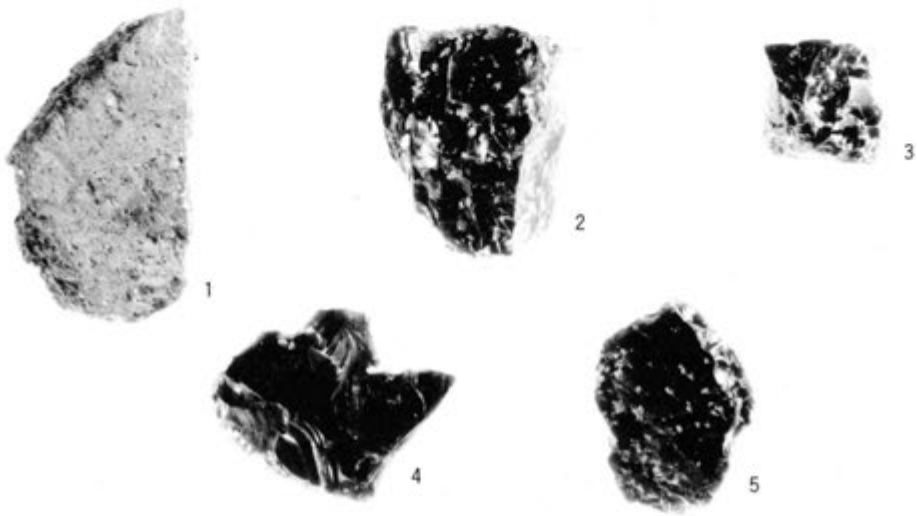




小松遺跡南部トレンチ調査状況

小松遺跡
南部の地層





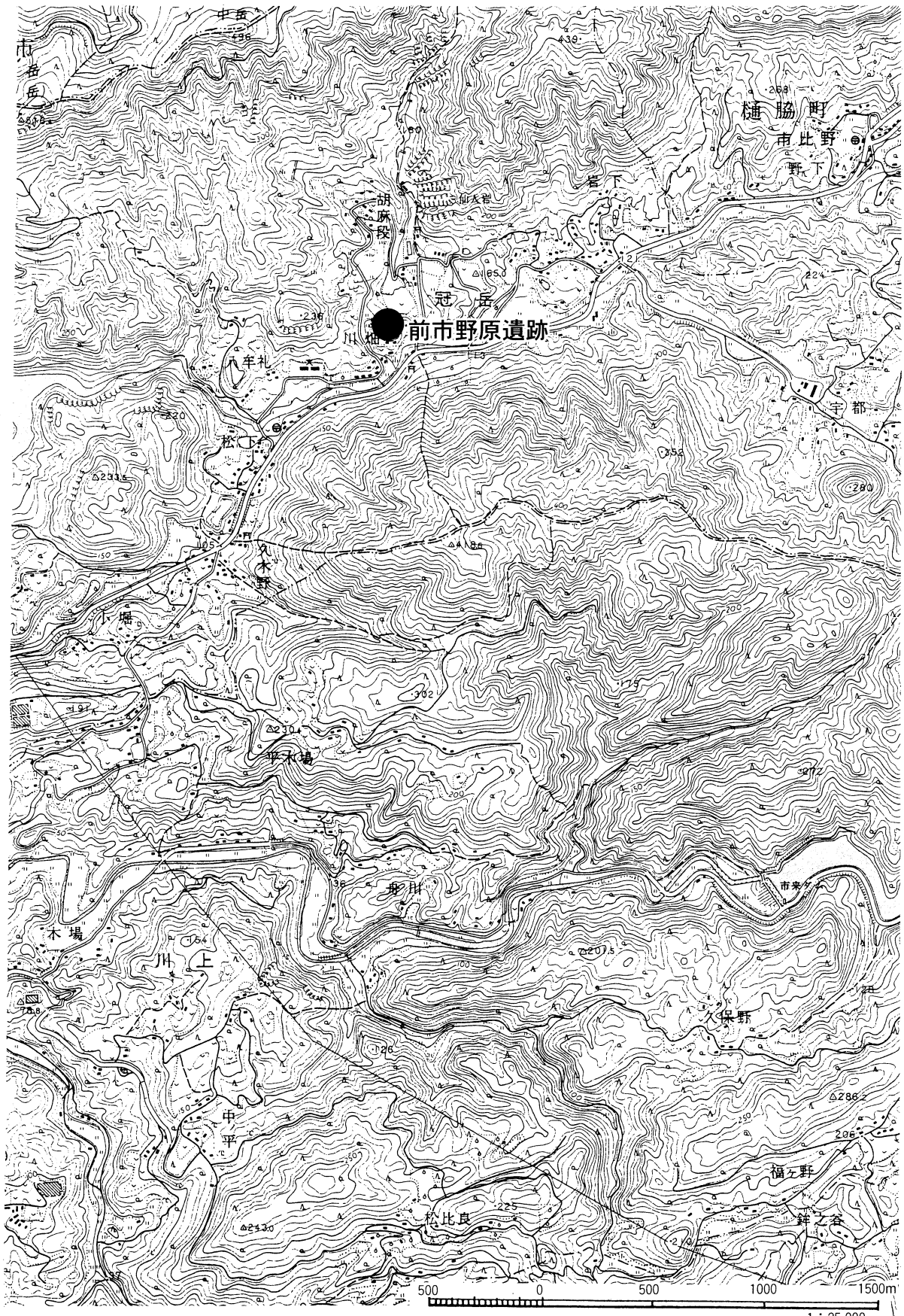
小松遺跡の出土遺物 土器・石器

前市野原遺跡

串木野市冠岳

報告書抄録

ふりがな	まえいちのはらいせき							
書名	前市野原遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面 積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
まえいちのはらいせき 前市野原遺跡	かごしまけんくしきのし 鹿児島県串木野市 かんむりだけ 冠岳	462055	5-55	32° 44' 13"	130° 21' 03"	H10.12.15	22m ²	きゅうしゅうしんかみせん 九州新幹線 けんせつ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前市野原遺跡	散布地							



前市野原遺跡の位置

前市野原遺跡

第Ⅰ章 調査の経過

平成4年度の分布調査結果には含まれていなかったが、周囲が遺跡であることが判明したため、平成10年度に鉄道建設公団の要請により、踏査を実施し、確認調査を実施することになった。そのため遺跡の番号は、追加番号の22とした。

確認調査は、平成10年12月15日に実施した。

第Ⅱ章 調査の組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局

調査主体者 鹿児島県教育委員会

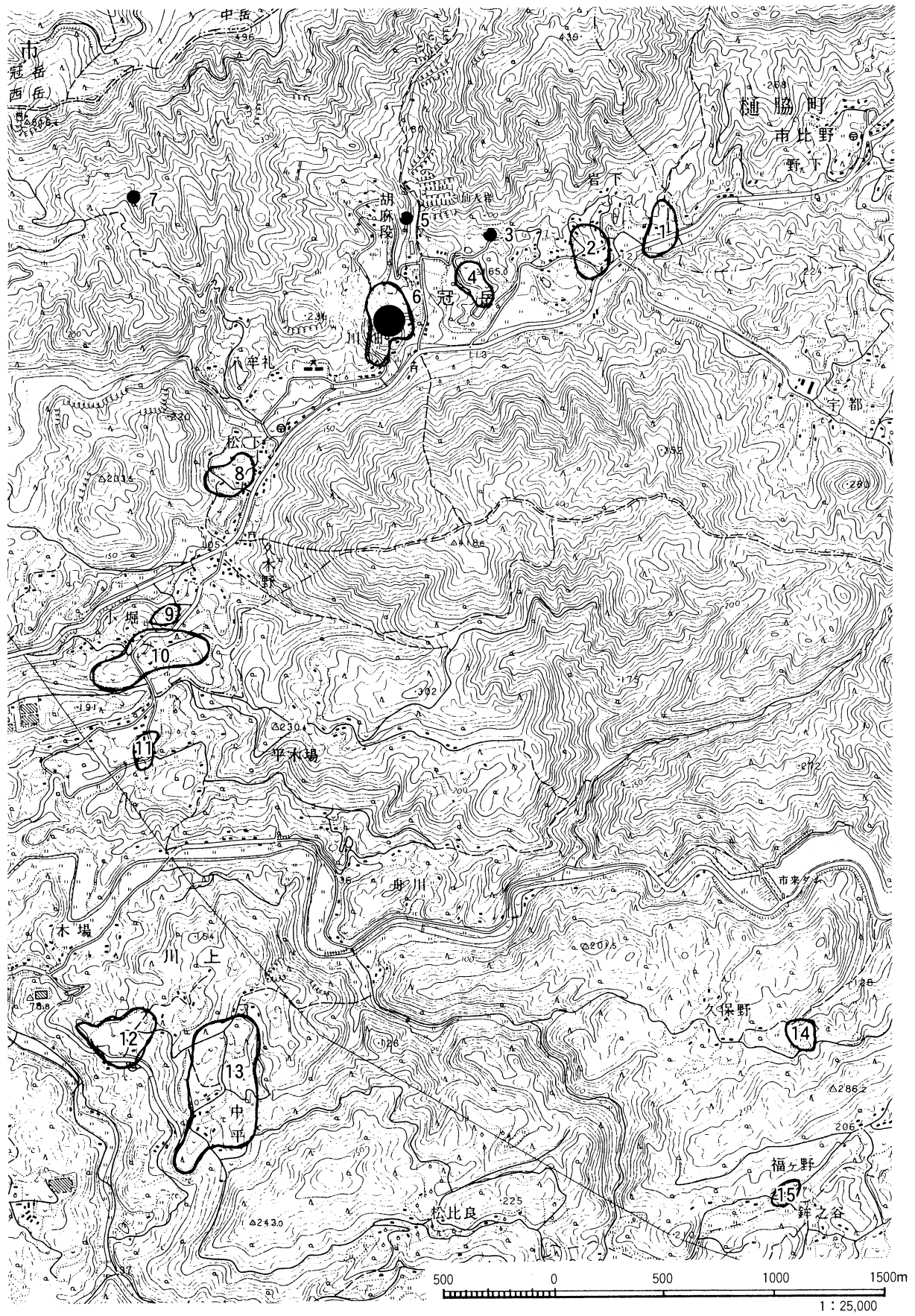
調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

(平成10年度の発掘調査)

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉永 和人
調査企画	〃	次長兼総務課長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
	〃	課長補佐兼第一係長	新東 晃一
	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎
調査担当	〃	主任文化財主事	彌榮 久志
	〃	文化財主事	前田 誠
調査事務担当	〃	主査	前屋敷裕徳
	〃	主査	政倉 孝弘
	〃	主査	溜池 佳子

(平成13年度の報告書作成)

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上 明文
調査企画	〃	次長兼総務課長	黒木 友幸
	〃	主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一
	〃	課長補佐	立神 次郎
調査担当	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮 久志
調査事務担当	〃	総務係長	前田 昭信
	〃	主査	今村孝一郎
	〃	主査	池 珠美



第19図 前市野原遺跡位置図と周辺遺跡

第Ⅲ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

遺跡は、鹿児島県串木野市字冠岳小字上冠岳に所在する。そこは、標高516mの冠岳南側麓に位置し、近くには五反田川が東西に流れている。遺跡の前には冠岳頂上からの溪谷をつくり護摩段川が流れている。

遺跡は、第 図のNo.6 でわかるように、山地に存在する。直ぐ上の護摩段には、山岳修行をする仙人岩などがあり、急崖も見られる。遺跡の立地は、125～117mの河岸段丘でできた傾斜面地である。

第2節 周辺遺跡

周辺遺跡は、第19図に示した通りで一覧表は第8表である。

第8表 前市野原遺跡の周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	野下口	串木野市冠岳野下口	山地	縄文・古墳	土器, 黒曜石, 石核	平4分布調査
2	藤ノ脇	串木野市冠岳藤ノ脇	山地	縄文	黒曜石	平4分布調査
3	層塔	串木野市冠岳千徳	山腹	中世	南北朝初期の層塔	
4	板碑	〃	山腹	中世	安土桃山末期板碑	
5	石塔群	冠岳(護摩岩岩根)	山腹	中世	五輪塔・宝篋印等	10か所
6	前市野原	冠岳上前市野原	山地	縄文・近世	土器・黒曜石	平4分布調査
7	板碑	冠岳西岳中腹	山腹	鎌倉前期	自然石塔	
8	松野野	冠岳字松野野	山地	縄文・近世	土器, 黒曜石	平4分布調査
9	久木之野	冠岳字久木之野	台地	縄文	残核, 黒曜石	平4分布調査
10	丸田	串木野市冠岳字丸田	台地	縄文	黒曜石	平4分布調査
11	前平木場	市来町川上平木場	段丘	古墳・中世	土器, 土師器, 陶器	平3分布調査
12	中ノ平	市来町川上中ノ平	丘陵	古墳・近世	土器, 陶器	平3分布調査
13	北山屋敷	市来町川上中平後	台地	縄文	土器, 打製石斧	平4分布調査
14	久保野入角	市来町川上久保野入角	迫頭	古墳・中世	土師器	平3分布調査
15	鉾ノ谷	市来町川上鉾ノ谷	段丘	弥生・古墳	土器	町郷土誌

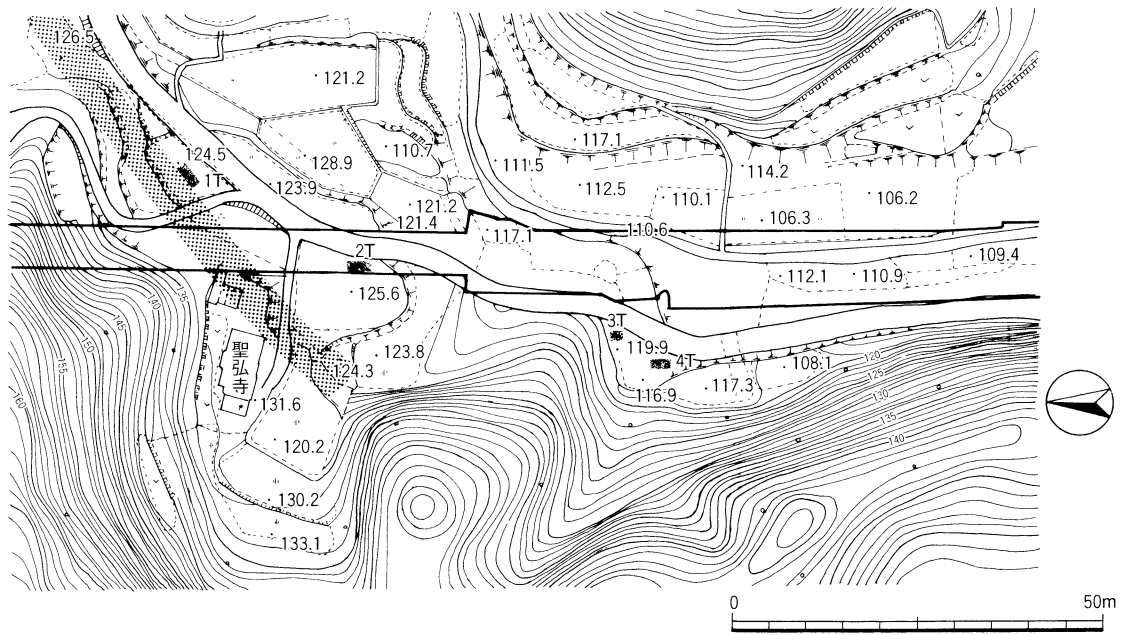
第Ⅳ章 調査の概要

第1節 層位

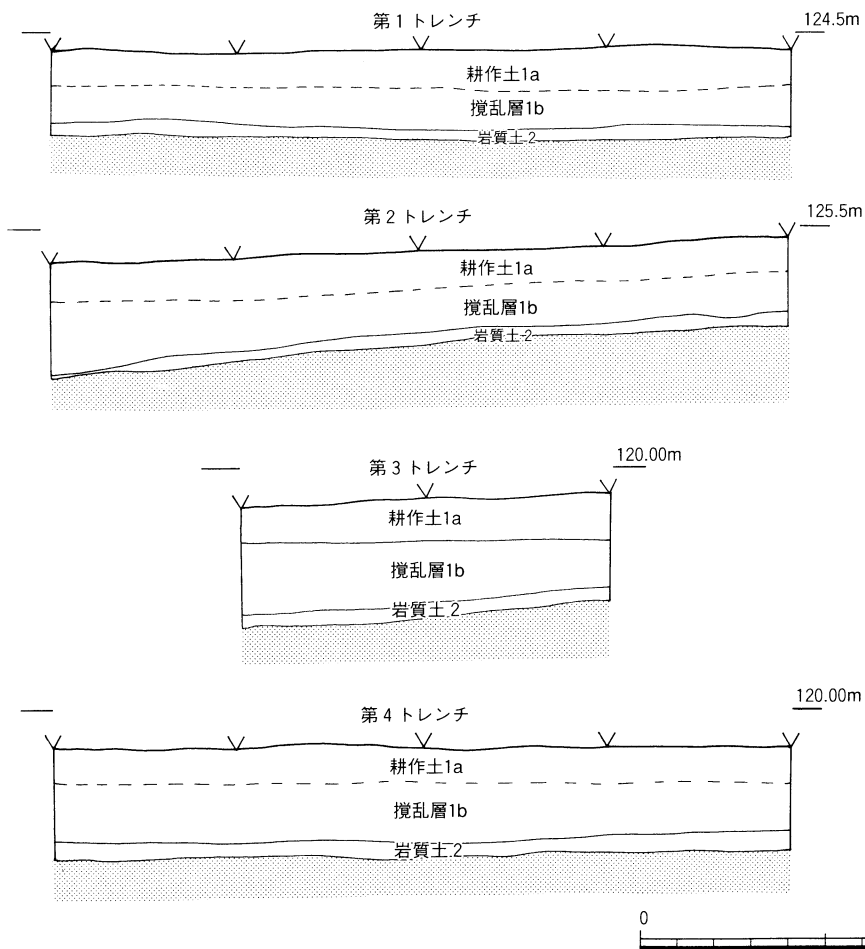
本遺跡の地層は、第1層がaとbに分かれている。第1a層は現耕作土で黒褐色土である。第1b層は茶褐色の軟質岩層混じりの暗茶褐色層で攪乱層である。第2層は茶褐色軟質岩盤層である。第1b層は、第2層の岩盤を開墾等で削った時に混じったと思われる。

至川内 ←

→ 至鹿児島



第20図 前市野原遺跡のトレンチ配置図



第21図 前市野原遺跡の地層図

第2節 トレンチの状況(第21図)

① 第1トレンチ

このトレンチは、現道路が山手に変更するためその部分に設定した。現状は水田であり、そこに2×4mのトレンチを入れた。

調査の結果、深さ40cmで岩盤が露出した。遺構の検出及び遺物の出土はなかった。

② 第2トレンチ

このトレンチは、本線の中に設定した。現状は元宅地で平坦に整地されていた所に、2×4mのトレンチを入れた。

調査の結果、岩盤がすぐに露出し、整地が確認できた。遺構の検出、遺物の出土はなかった。

③ 第3・4トレンチ

この2つのトレンチは、道路の付け替えのために設定した。前者の長さは2mで、後者は4mであった。幅は共に2mであった。

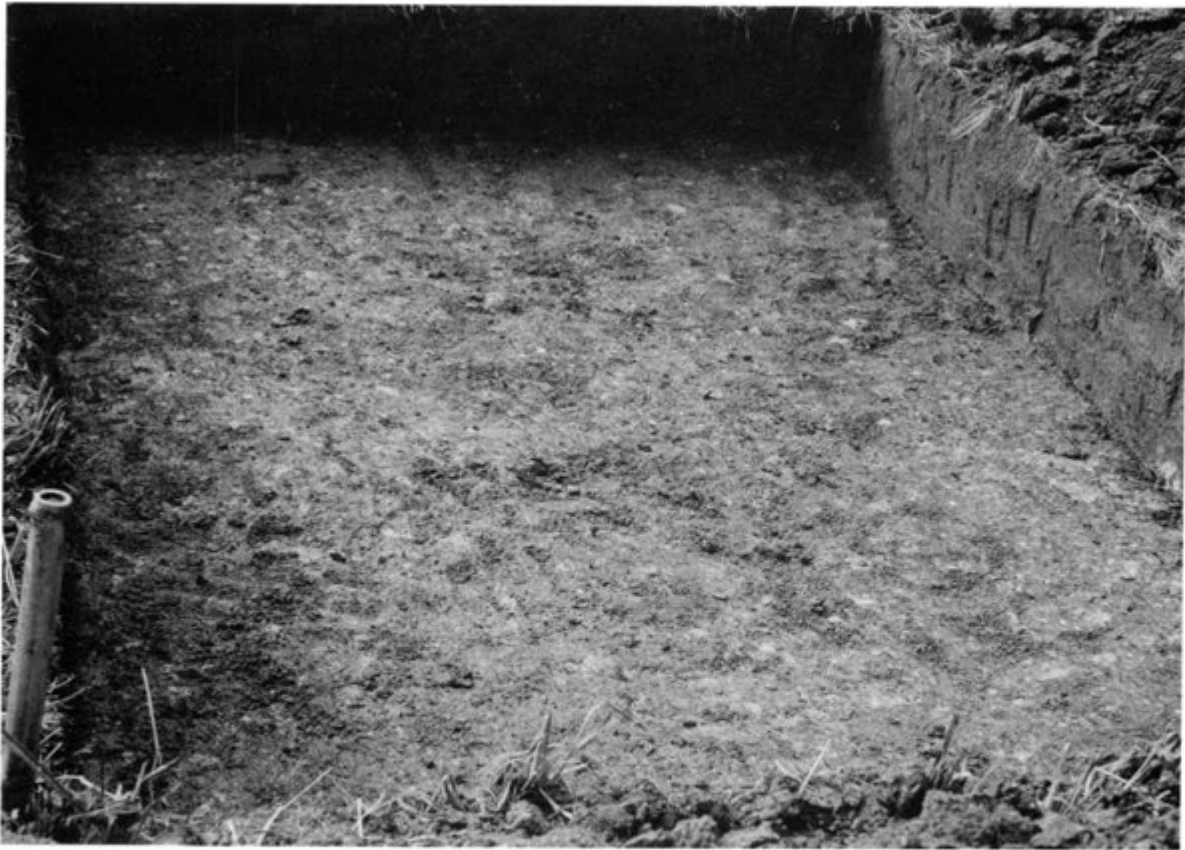
調査の結果、遺構の検出及び遺物の出土はなかった。

第V章 ま と め

本遺跡の調査の結果は、位置は遺跡の縁辺部であり、傾斜があり、開墾等が激しく、遺跡は確認できなかった。



前市野原遺跡全景



前市野原遺跡トレンチ調査状況



前市野原遺跡トレンチ調査状況



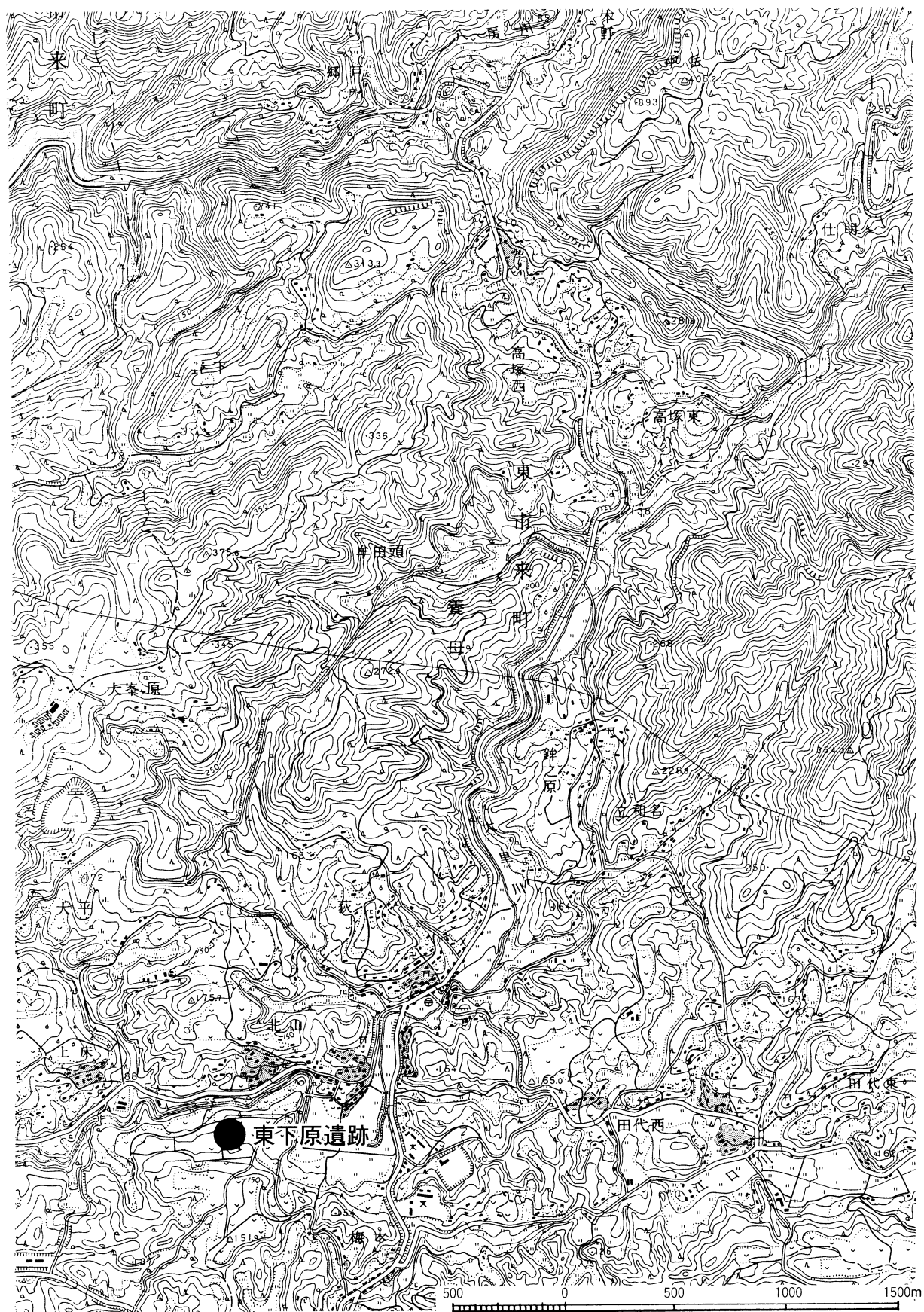
前市野原遺跡トレンチ調査状況

東 下 原 遺 跡

鹿兒島県日置郡養母

報告書抄録

ふりがな	ひがしたばるいせき							
書名	東下原遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	37							
編著者名	彌 榮 久 志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面 積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ひがしたばるいせき 東下原遺跡	かごしまけんいづみし 鹿児島県日置郡 ひがしいちきちょうようほ 東市来町養母	463621	29-45	31° 41' 26"	130° 23' 06"	H10.10.27 ～10.29 H10.12.1 ～12.18 H11.3.12	248m ²	きゅうしゅうしんかんせん 九州新幹線 けんせつ 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東下原遺跡	散布地	旧石器時代 古墳時代 平安時代	焼土土坑群	黒曜石 成川式土器 土師器				



東下原遺跡の位置

1 : 25,000

東 下 原 遺 跡

第 I 章 調査の経過

発掘調査は、3回に分けて調査を実施した。

第1回目は確認調査を平成10年10月27日から29日までに実施した。対象地域は南部の約7割であった。

第2回目は前回確認調査の結果にもとづいた全面調査を、平成10年12月1日から18日まで実施した。

第3回目は平成11年3月12日に、残り3割にあたる北部地域の確認調査を実施した。

第 II 章 調査の組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

(平成10年度の発掘調査)

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	吉永 和人
調査企画	〃	次長兼総務課長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
	〃	課長補佐兼第一調査係長	新東 晃一
	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎
調査担当	〃	主任文化財主事	彌榮 久志
	〃	文化財主事	前田 誠
調査事務担当	〃	主査	前屋敷裕徳
	〃	主査	政倉 孝弘
	〃	主事	溜池 佳子

(平成13年度の報告書作成)

調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上 明文
調査企画	〃	次長兼総務課長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一
	〃	課長補佐	立神 次郎
調査担当	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	彌榮 久志
調査事務担当	〃	総務係長	前田 昭信
	〃	主査	栗山 和己
	〃	主査	今村孝一郎
	〃	主事	池 珠美

第三章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

遺跡は、日置郡東市来町大字養母字東下原に在る。

東市来町は、鹿児島県の西部で、鹿児島市より北西約20kmに位置している。遺跡のある養母は東市来町の東部にあたり、周りは山間地域である。北側には北山集落が存在する。

遺跡の地形は、郡山町・伊集院町にまたがる重平山（標高532.1m）の南西山地から延びた山麓に形成された台地である。

遺跡付近は、重平山から発した大里川が遺跡と北山集落の間を蛇行しながら東西に流れている。そのため、遺跡の立地に適した舌状台地が形成されている。

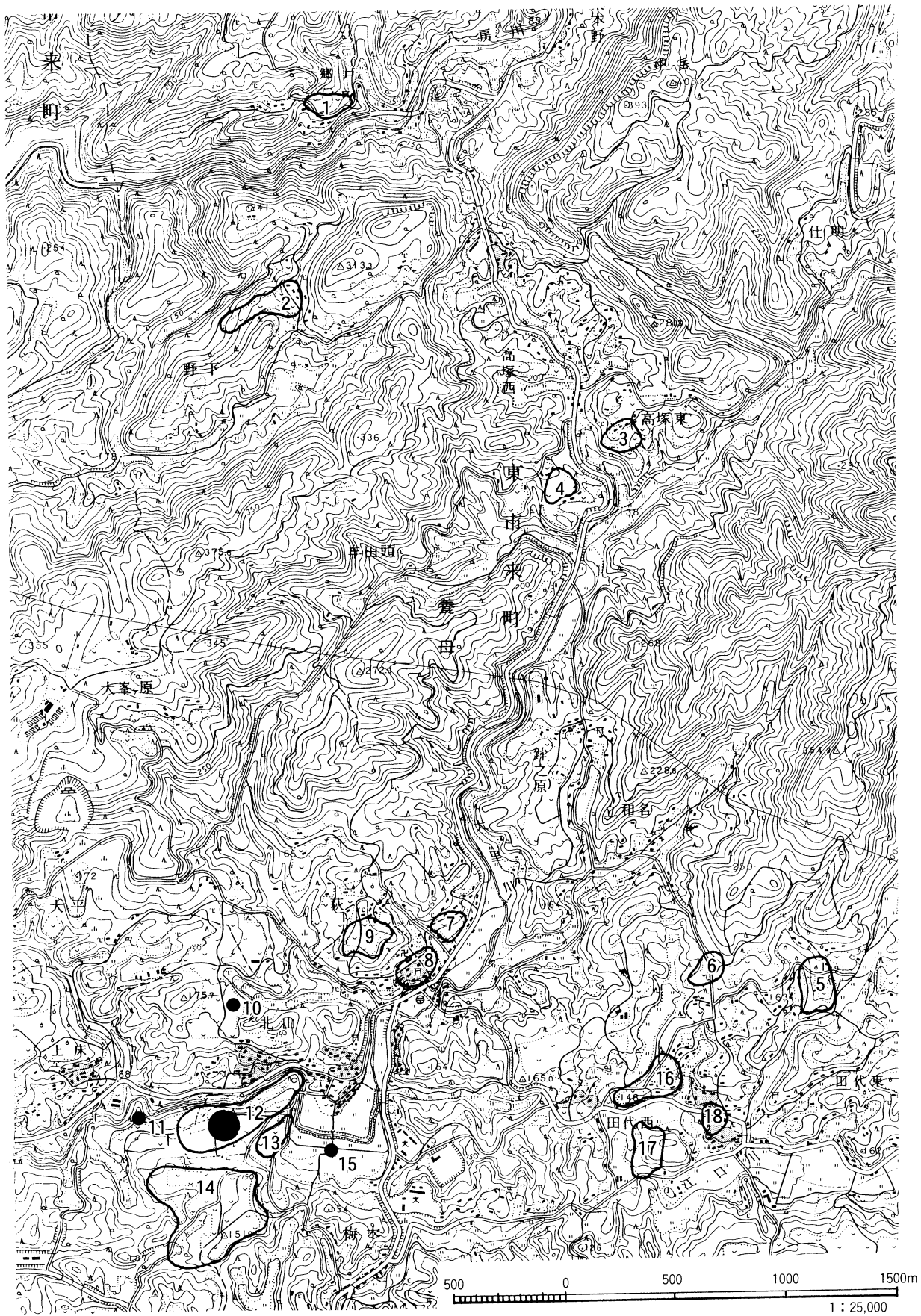
遺跡の台地は、シラス台地を川が浸食で急傾斜地を造ったため、そこを圃場整備事業で段々に構造改善を10段以上実施している。そのため、第8トレンチと第9トレンチで段になっている。第9・10・11トレンチは下の段で河岸段丘である。

第2節 周辺遺跡

周辺の遺跡は、第22図で示した通りである。

第9表 東下原遺跡の周辺遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	弓場ヶ迫	養母弓場ヶ迫	丘陵	縄文～中世	土器・石器・青磁	平3分布調査
2	中ノ上	養母中ノ上	段丘	弥生、古墳	土器	〃
3	西原持原	東市来町養母	台地	古墳、中世		平8分布調査
4	楠生	東市来町養母	台地	中世		平8分布調査
5	札松	養母札松	丘陵	中世、近世	土師器・陶器	平3分布調査
6	狩集	養母狩集	段丘	古墳	土器	〃
7	萩陳ヶ原	養母萩陳ヶ原	段丘	古墳～近世	土器・土師器・陶器	〃
8	伊勢後	養母伊勢後	段丘	古墳、中・近世	土器・土師器・陶器	〃
9	伊勢ノ上	養母伊勢ノ上	丘陵	古墳	土器	〃
10	仮牧段	養母仮牧段	台地	縄文、古墳	土器片	昭62分布調査
11	下西原	養母下西原	谷	縄文	土器片	〃
12	東下原	養母東下原	段丘	旧石器、古代	土器・石器	平3分布調査
13	坂元	養母坂元	段丘	縄文、古墳、近世	土器・土師器・陶器	〃
14	椿ヶ原	養母椿ヶ原	丘陵	弥生～近世	土器・土師器・陶器	〃
15	陳ヶ原	養母陳ヶ原	丘陵	古墳	土師器	平2分布調査
16	立野岡	養母立野岡	丘陵	中世、近世	土器・土師器	平3分布調査
17	竹山	養母竹山ほか	丘陵	中世、近世	土師器・陶器	〃
18	比良見	養母比良見	丘陵	中世、近世	土師器・陶器	〃



第22図 東下原遺跡位置図と周辺遺跡

第IV章 調査の概要

本遺跡の調査対象面積は、7.500㎡である。計11本のトレンチを設定して調査した結果、地層が残っていたのは第1～4トレンチの部分のみであった。

第1節 層位

第10表 東下原遺跡の周辺遺跡一覧

層位	色調	特徴
第I層	灰茶褐色土	現耕作土で、圃場整備のため黄色の土も混在する。
第II層	黒色土	緻密な粒子の層で、自然形成層である。
第III層	茶褐色土	アカホヤ火山灰の土壌化した層で、遺物包含層である。
第IV層	灰黒色土	未発達腐植土層である。
第V層	黒色土	下部にP14桜島火山灰が確認できる。
第VI層	暗茶褐色土	緻密な腐植土層である。遺物包含層である。
第VII層	茶褐色土	腐植土層である。遺物包含層である。
第VIII層	黄色シラス	二次のシラスである。
第IX層	シラス	一次シラスである。
第X層	岩盤	川底を形成する岩盤である。

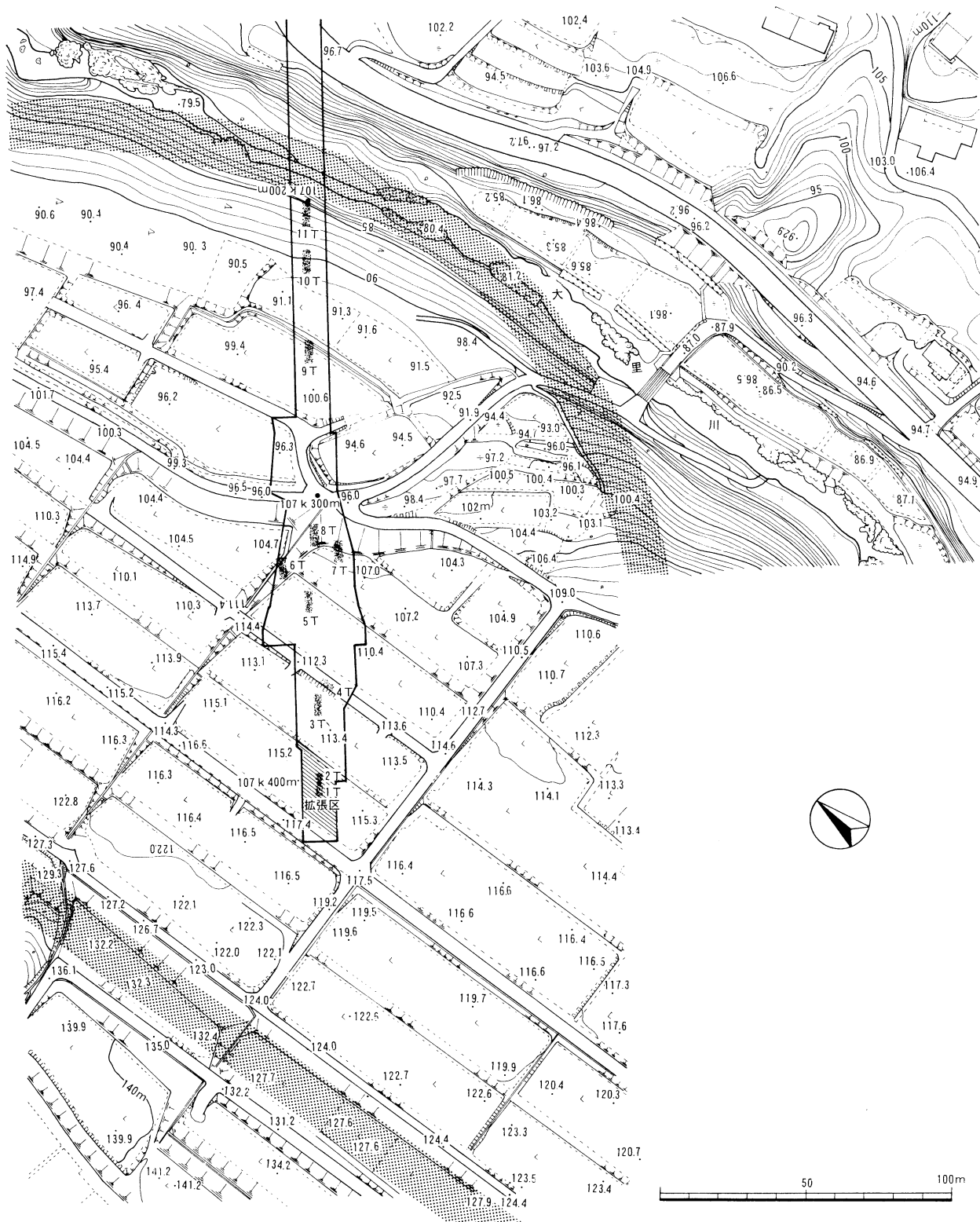
第2節 各トレンチの調査状況

調査の結果、傾斜面をかなり埋めて造成しており、切り盛りが激しく、第1～4トレンチが調査の対象になった。その内、3・4は遺物が出土しなかった。

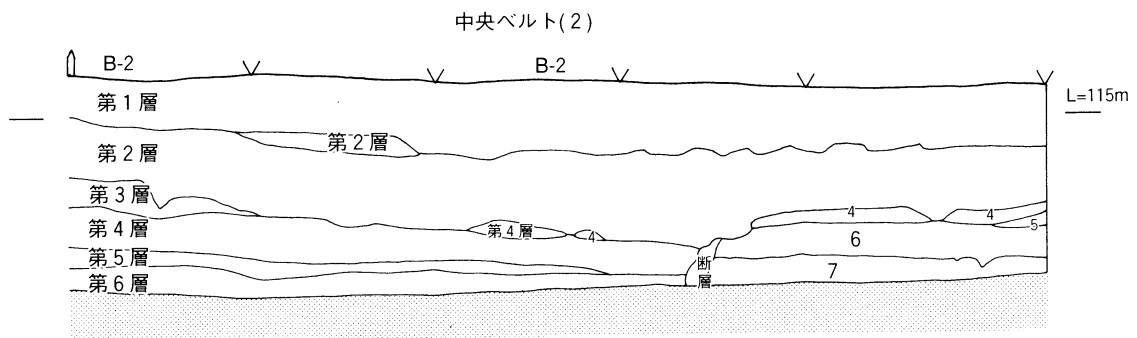
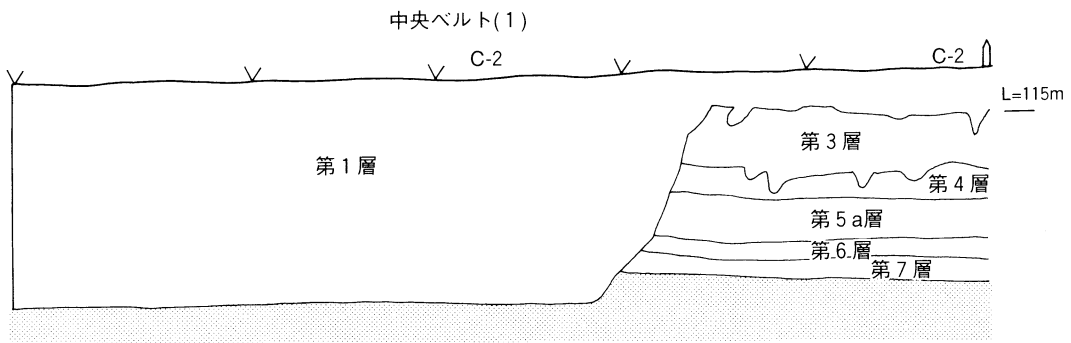
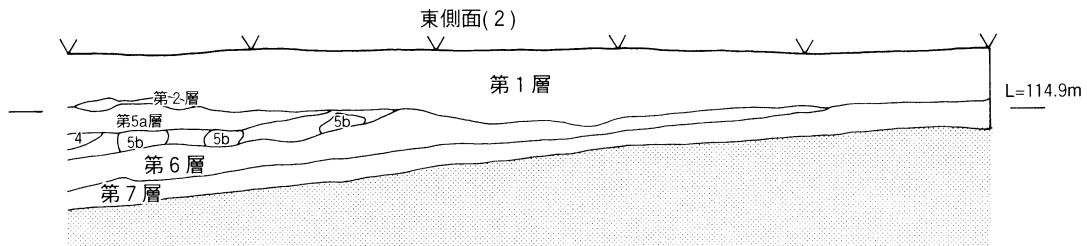
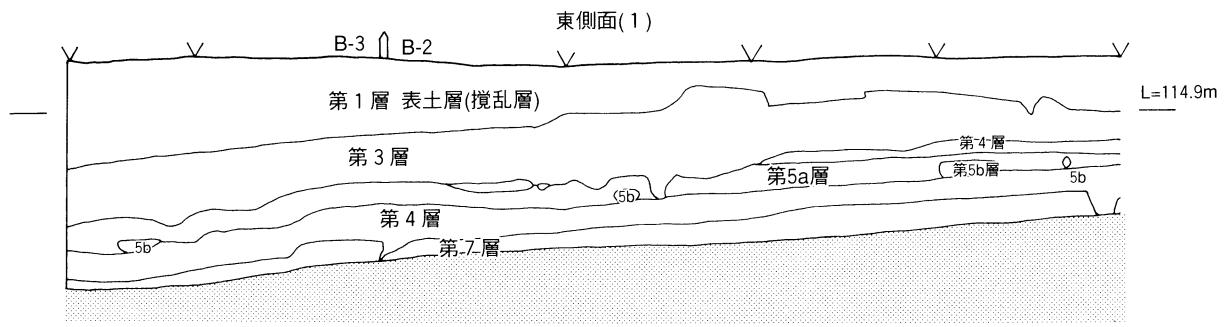
第11表 東下原遺跡のトレンチ調査結果

トレンチ名	検出層	状況
第1トレンチ	第1～7層	北側は残りがよくⅢ層から見られたが、南の山手側は造成時に削平されⅥ層から検出。第Ⅵ層の旧石器期相当層に黒曜石が出土。
第2トレンチ	第1～7層	造成土が盛られていたので残りがよかったが西側に大きな攪乱部があった。土坑の検出、土師器の出土。
第3トレンチ	第1, 3～7層	遺構の検出、遺物の出土はなかった。
第4トレンチ	第1, 3～7層	遺構の検出、遺物の出土はなかった。
第5トレンチ	第1～7層	表層の下は直ぐに黄色シラスであった。
第6トレンチ	第1～7層	表層の下は直ぐに黄色シラスであった。
第7トレンチ	第1～7層	表層の下は直ぐに黄色シラスであった。
第8トレンチ	第1～7層	表層の下は直ぐに黄色シラスであった。
第9トレンチ	第1～9層	表層の下は直ぐにシラスであった。
第10トレンチ	第1～9層	表層の下は直ぐにシラスであった。
第11トレンチ	第1～10層	表層の下は岩盤が検出。

この結果に基づいて、第1・2トレンチの部分を拡張し、全面調査を実施した。

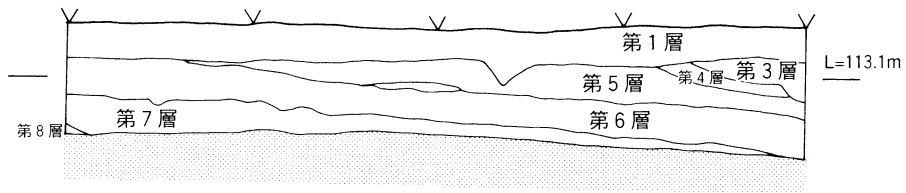


第23図 東下原遺跡のトレンチ配置図及び拡張図



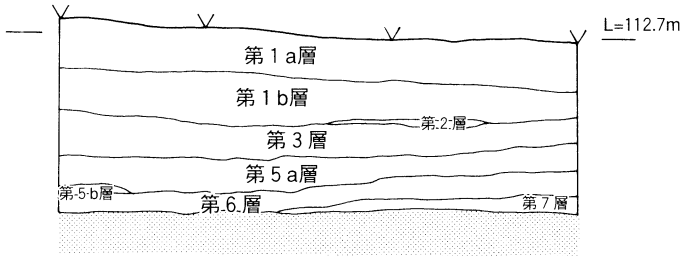
- 第1層 圃場整備時の攪乱層(表面は現耕作土)
- 第2層 黒色土層
- 第3層 橙褐色土層(アカホヤ火山灰層)……包含層
- 第4層 灰黒褐色土層
- 第5a層 黒褐色土層(一部ゴマシオ化)
- 第5b層 黄色火山灰層(P14)
- 第6層 黒茶褐色粘質土層
- 第7層 茶褐色粘質土層
- 第8層 白茶褐色火山灰層(シラス)

第24図 東下原遺跡拡張区の地層

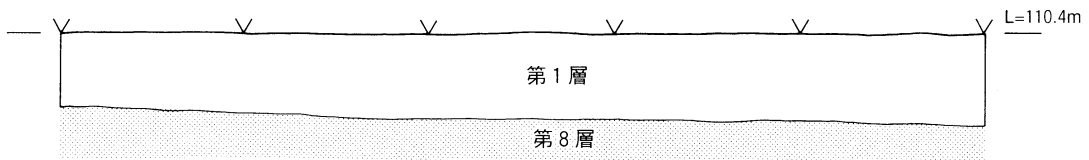


第3トレンチ

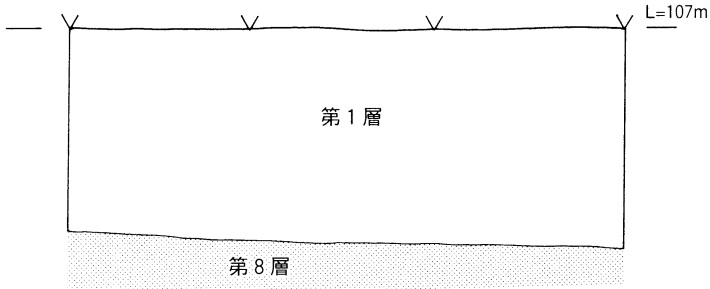
- 第1層 圃場整備時の攪乱層
- 第1 a層 道路敷砂利層
- 第1 b層 旧耕作土層
- 第2層 黒色土層
- 第3層 橙褐色火山灰層(アカホヤ火山灰)
- 第4層 灰黒色土層
- 第5 a層 黒褐色土層(ゴマシオ化)
- 第5 b層 黄色火山灰層(P14)
- 第6層 暗茶褐色粘質土層
- 第7層 茶褐色粘質土層
- 第8層 白茶褐色火山灰層(シラス)



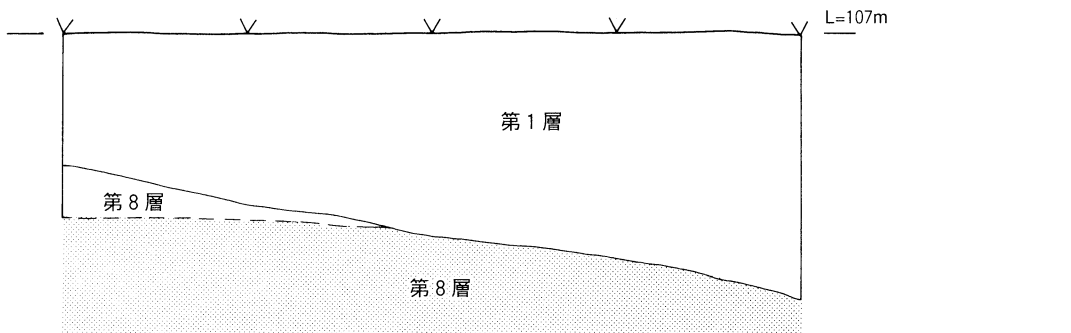
第4トレンチ



第5トレンチ



第6トレンチ



第8トレンチ

第25図 各トレンチの地層断面図

第3節 全面調査

全面調査では、10mグリッドを設定し第2・3層の調査からはじめ、第VI・VII層の旧石器時代まで調査を実施した。

第2・3層の出土状況は、第26図で示したごとく土坑を中心に散布している。遺物としては、古墳時代の成川式土器と古代の土師器が出土した。

第6・7層の出土状況は、B-2からC-3区にかけ東西帯状に出土している。地形が傾斜しているため遺物は流れた状況が推測される。遺物は、旧石器時代と思われる。

(1) 遺構 (第26図)

第3層を若干掘り下げた結果、B-2・3区に土坑が4基重なり合って検出した。その重なり合いは、検出状況で土坑1が明瞭に確認されたので最も新しい土坑と考えられる。土坑1は土坑2を切り、土坑2は土坑3を切り、土坑3は、土坑4を切っている。また、土坑1の東端が1段広がった状況でこの部分は不明である。

以上のことから、土坑の切りあいとしては、「土坑4」、「土坑3」、「土坑2」、「土坑1」の順で掘り作られたと考えられ。

次の表は、土坑の計測表である。

第12表 東下原遺跡土坑計測

No	長さ	断面幅	深さ	特徴
1	2.9m	80cm	13~30cm	土坑上面に木炭と焼土塊がみられ、土器片も混入していた。また、東側には40×25cm、深さ11cmのだるま型の掘り込みが見られた。
2	3.35m	80cm	10~27cm	形状は中央近くが「く」の字に折れ、南部には1×0.4m、深さ7cmと13cmの2段に掘り込みがある。また、中央には20cm四角で深さ5cmの掘り込みが見られる。
3	3.1m	75cm	5~10cm	中央近くが「く」の字に折れた形状で、東部に60×40cm、深さ7cmの掘り込みが見られる。
4	2m+α	55cm	5~12cm	土坑3で西部が切られているため全体は不明である。東部には1×0.7m、深さ80cmの掘り込みが見られる。

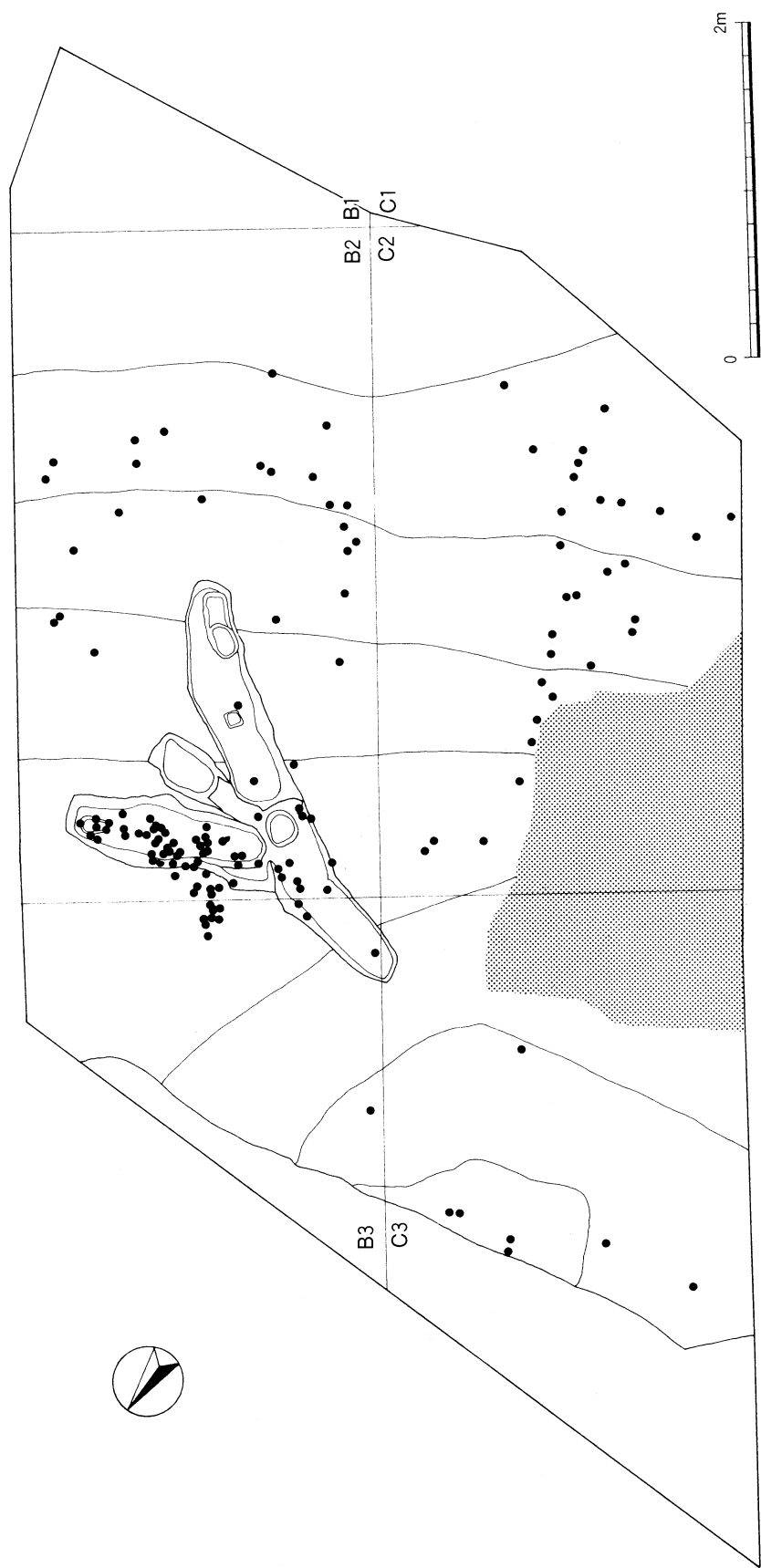
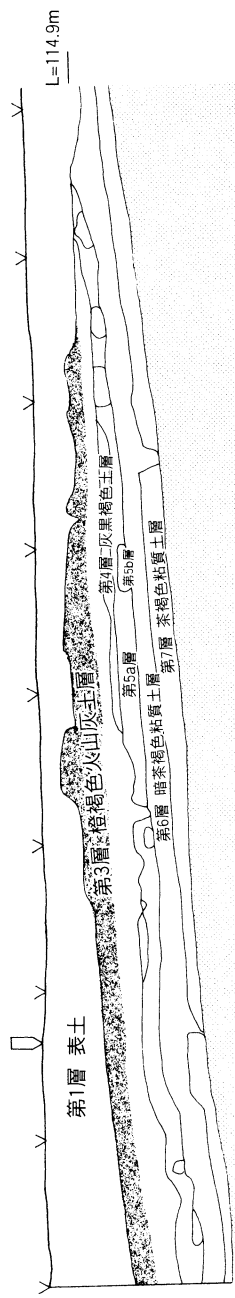
これらをまとめると、土坑には、焼土があり、「く」の字状に折れ、浅い掘り込みがある。土器は焼土塊等と上部に出土している。よって、これらの重なり具合から単独に4回つくられていることがいえる。時代は、後述するが、古墳時代の遺物の出土しているが、9世紀中ごろの土師器と伴っていることから、この時期と考えられる。

(2) 出土遺物

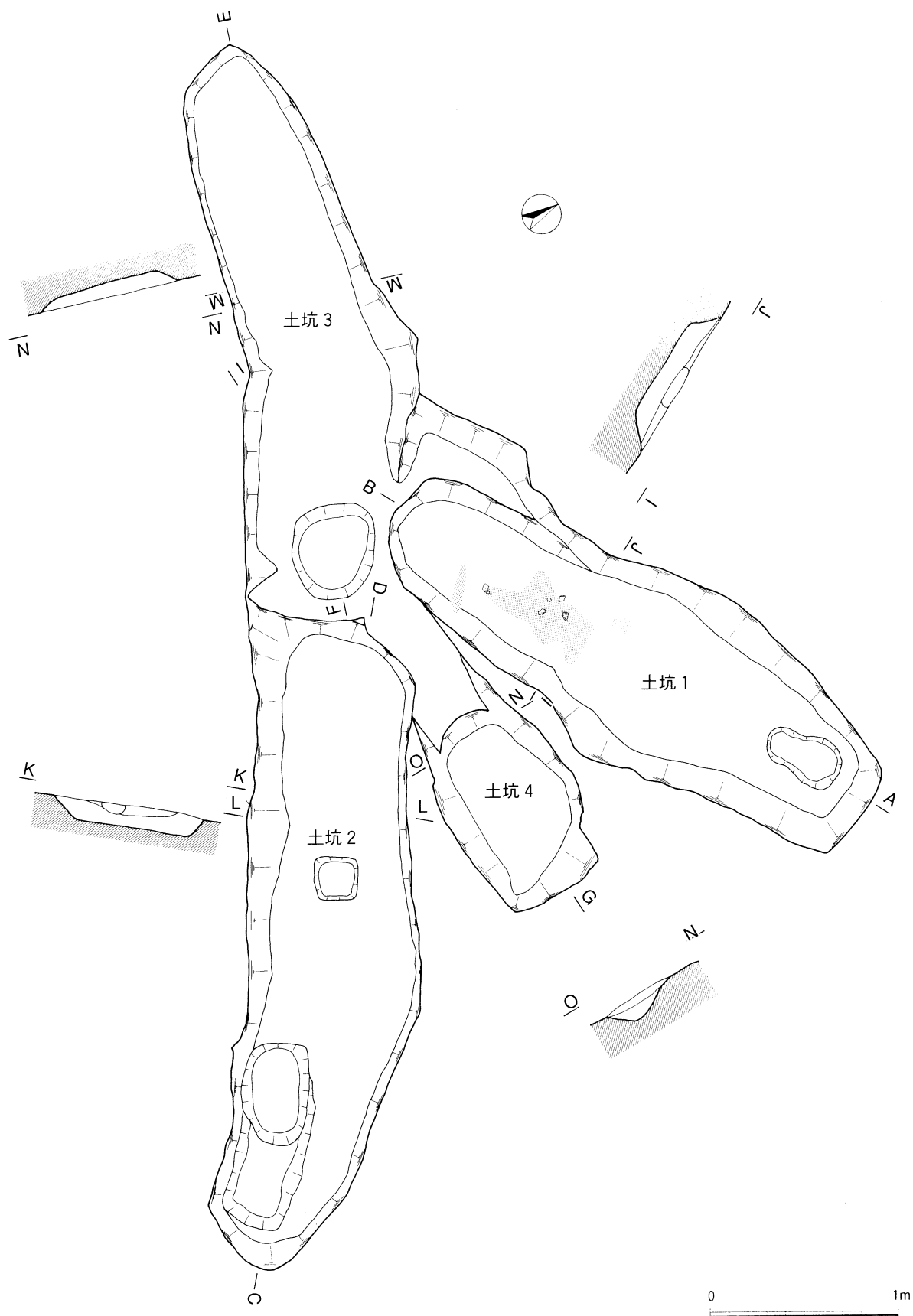
遺物は、第2・3層と第6・7層とに分けられる。

① 第2・3層の遺物 (第29図の1~10, 第30図の11・12, 第 図の13・14・15)

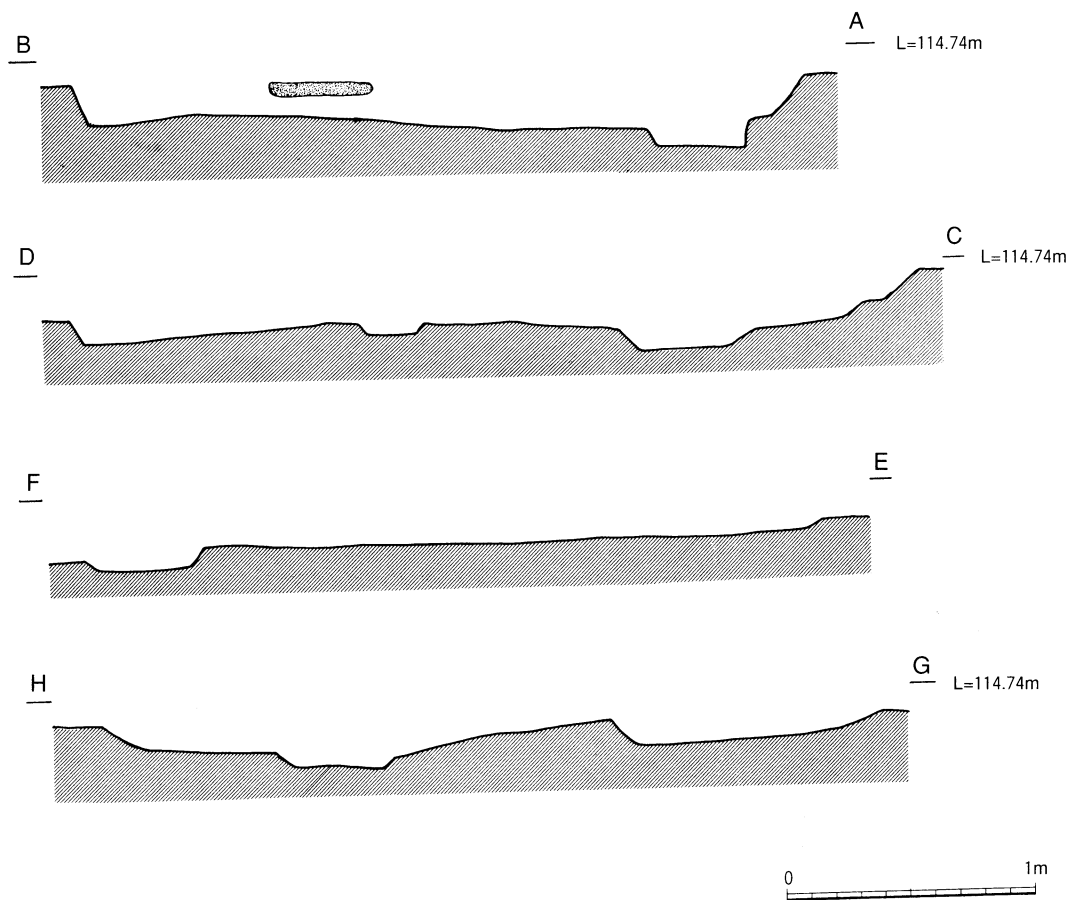
1は、甕形土器の口縁部である。器形は頸部で「く」の字に折れ、外反している。文様は頸部に刻み目を施した断面三角突帯を貼り付けている。器面調整は、外面において、縦位の篋撫による刷



第26図 東下原遺跡の古代遺構と遺物出土状況



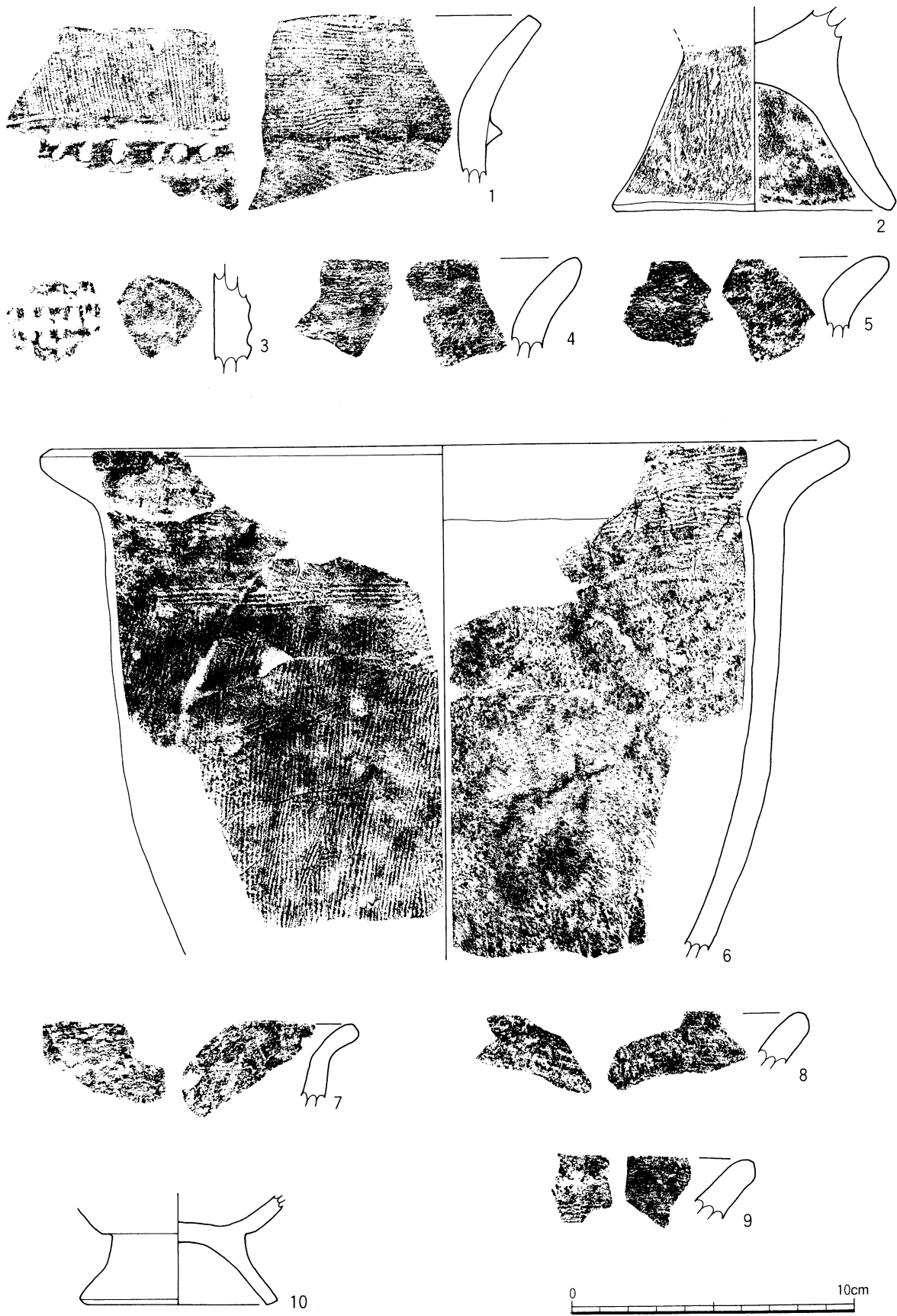
第27図 東下原遺跡の焼土土坑群検出状況



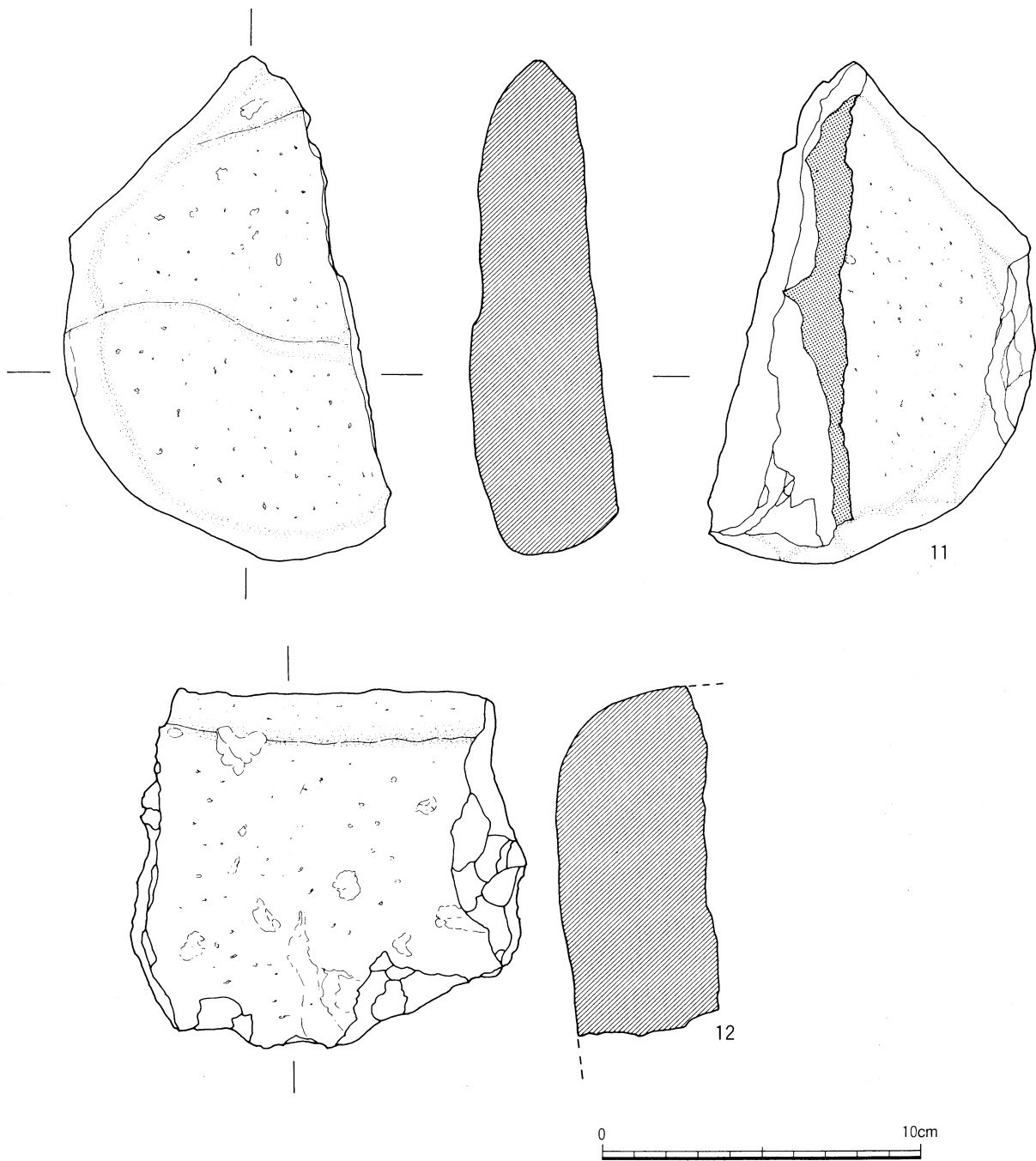
第28図 東下原遺跡の焼土土坑の断面図

毛目文があり、裏面には横位の器面調整痕がみられる。色調は、外面が茶褐色で、内面が黒色である。胎土は細礫と、輝石、長石、雲母等がみられる。焼成は硬くて良い。2は、甕形土器の底部である。器形はラッパ状の脚台である。器面調整は、外面において、縦位の篋撫でによる刷毛目文がある。裏面は手撫でによる器面調整である。色調は、内外面とも茶褐色で、外面に黒色の斑点がある。胎土は細礫と、輝石、長石、雲母等がみられる。焼成は硬くて良い。2は、甕形土器の底部である。3は壺形土器の胴部である。3条の刻み目突帯を施している。器面調整は、内外面とも良い。色調は、内外面とも暗茶褐色である。胎土は細礫と、輝石、長石、雲母等がみられる。焼成は硬くて良い。ここまでは、古墳時代の成川式土器である。

4・5・7・8・9は頸部で外反した甕の口縁部である。器面調整は、横撫で、内面には篋の搔き上げ痕が見られる。胎土は輝石、長石、雲母等がみられる。焼成は良い。色調は、8が燈茶褐色、9が黒茶褐色で、4・5は暗茶褐色である。6は甕の完形に近い土器である。無い部分は低部である。器形は、口縁部が頸部で大きく外反したもので、胴部はやや膨らみを持つ。器面整形の外側は、口縁部が横撫で、胴部が縦位の篋撫でである。内側は、口縁部が篋による横撫で、胴部が篋削り上げの調整痕である。色調は茶褐色で、焼成は良い。胎土は細礫、石英、長石、雲母等が混入している。10は土師器の碗である。高台は長脚で開き、そして坏部との接合部は絞まり、縁は角状に調整されている。器面調整は、丁寧で、碗の見込みには布目痕がみられる。色調は黄褐色で、胎土は粒子が細かいものを使用しているこれらは、坏と甕で判断すると古代の時期で、9世紀中ごろと思われる。



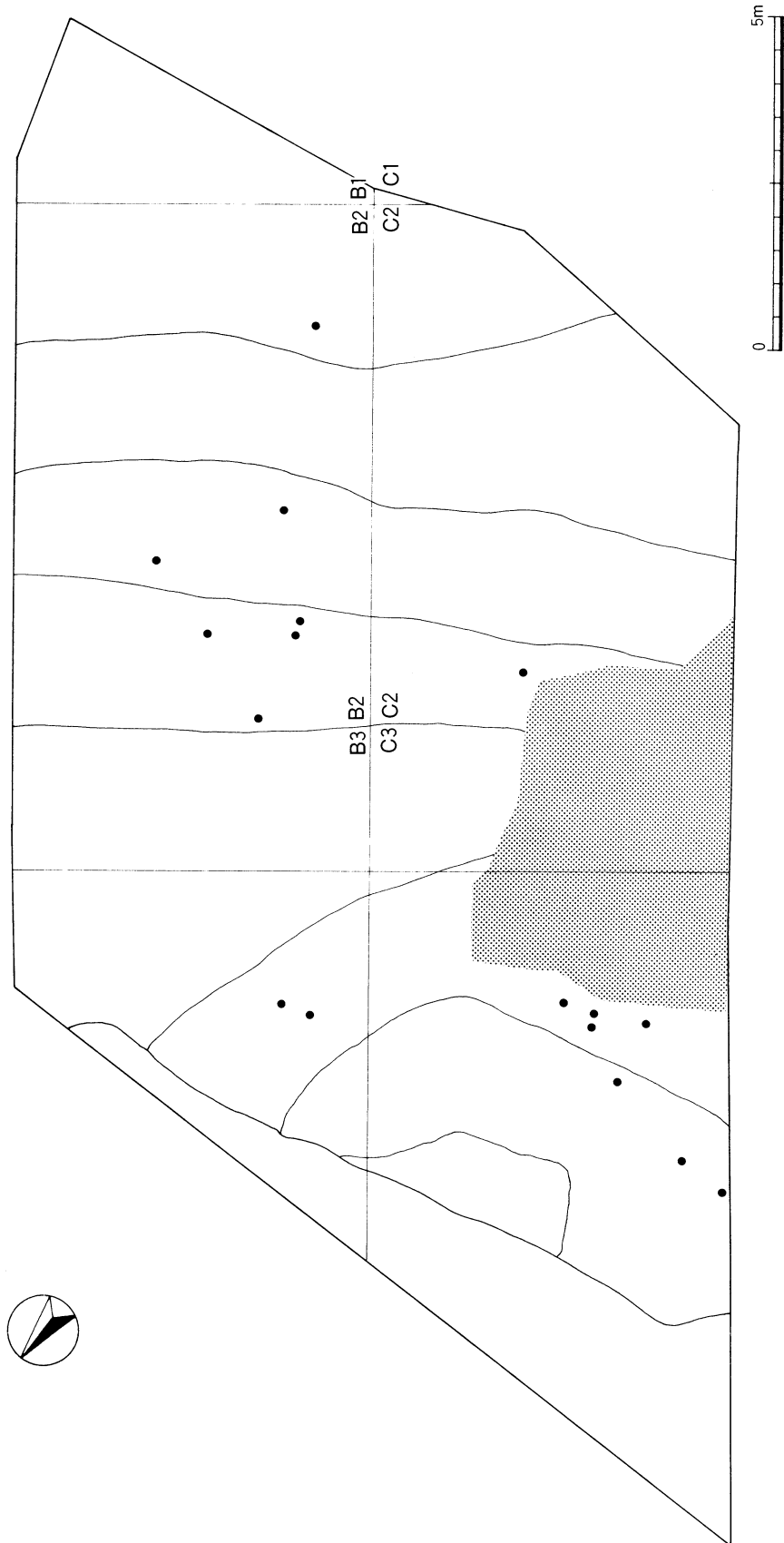
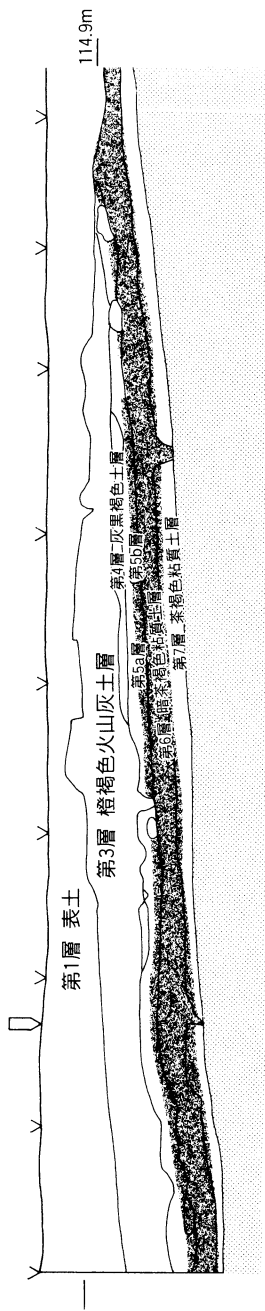
第29図 東下原遺跡の第3層出土遺物(土器)



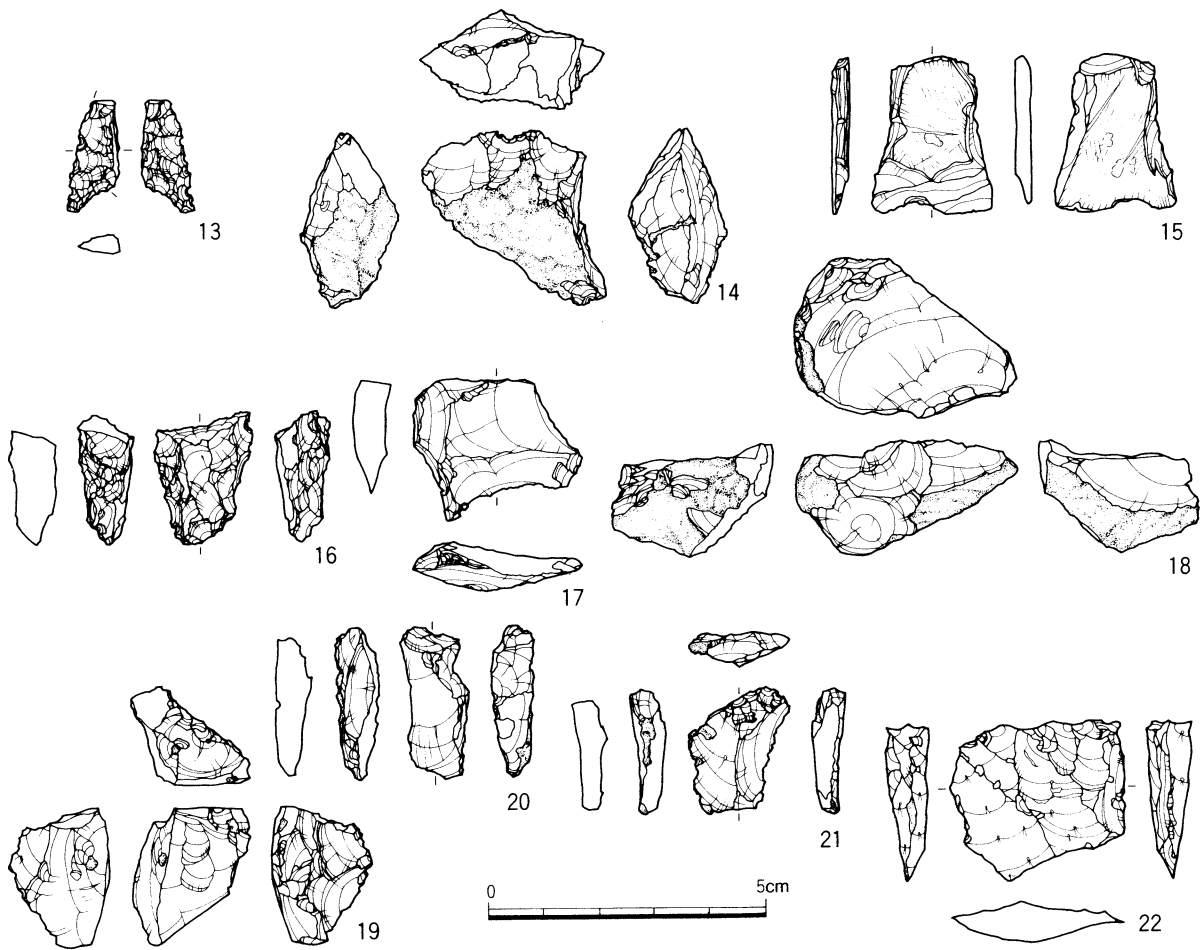
第30図 東下原遺跡の第3層出土遺物（礫）

また、第3層には出土の礫が遺構上面に出土している。

11・12は土坑内の礫である。11は輝石安山岩で灰色の色調である。この礫は自然の礫が割れており、割れ口は2段になっている。割れ口近くの自然面には、茶色く変化した部分が細長くみられる。何かとの接合部分と思われる。12は、自然の礫が割れているもので、片面だけに自然面が残っている。この礫は焼けているため、赤茶褐色をし、四角に割れている。石材は輝石安山岩と思われる。13は半分に折れた $2 \times 0.8 \times 0.4$ cmの石鏃である。石材は黒曜石である。14は、黒曜石のコアである。



第31図 東下原遺跡の旧石器時代遺物出土状況



第32図 東下原遺跡の第5～7層出土遺物（石器）

大きさは $3 \times 3 \times 1.6$ cmで一部自然面が残っている。15は刷られた両面加工があるもので、石材は硬質頁岩である。大きさは $2.8 \times 2.1 \times 0.3$ cmである。用途は不明である。

② 第5, 6, 7層出土の石器 (16～22)

16は、5層出土で調整痕のある剥片である。石材は黒曜石である。法量は $2.2 \times 1.8 \times 0.9$ cmを測る。17は6層出土で使用痕のある剥片である。石材は黒曜石で、法量は $3.1 \times 2.6 \times 0.5$ cmを測る。18は7層出土の黒曜石で、自然面が残る残核である。法量は $4 \times 3 \times 1.5$ cmを測る。19は5層出土でブランクと思われ、一面剥いだ部分がみられる。石材は黒曜石で、法量は $2.2 \times 2 \times 2$ cmを測る。20は6層出土で使用痕のある剥片である。法量は、 $2.8 \times 1 \times 0.7$ cmを測る。21は7層出土で丁頭部に調整痕がある剥片である。石材は黒曜石である。法量は $2.2 \times 1.9 \times 0.5$ cmである。22は7層出土の使用痕のある剥片である。石材は黒曜石である。法量は $3.2 \times 2.8 \times 0.7$ cmである。

第IV章 まとめ

本遺跡は、圃場整備事業が実施されていたため、一部しか残っていなかった。

本遺跡の遺構では、古代9世紀の焼土土坑群が4連続に渡って存在していた。性格は不明である。包含層では古墳時代の遺物の成川式土器で5世紀ぐらいと思われる。

旧石器時代は、層位的に細石器の時期と思われる。遺物ではブランクが1点出土している



東下原遺跡全景(東から)



東下原遺跡全景(西から)



東下原遺跡近景



東下原遺跡調査状況



東下原遺跡焼土遺構検出状況



東下原遺跡遺物出土状況



東下原遺跡遺構掘り下げ状況



東下原遺跡遺構掘り下げ状況



東下原遺跡土坑検出状況(北から)



東下原遺跡土坑検出状況(南から)



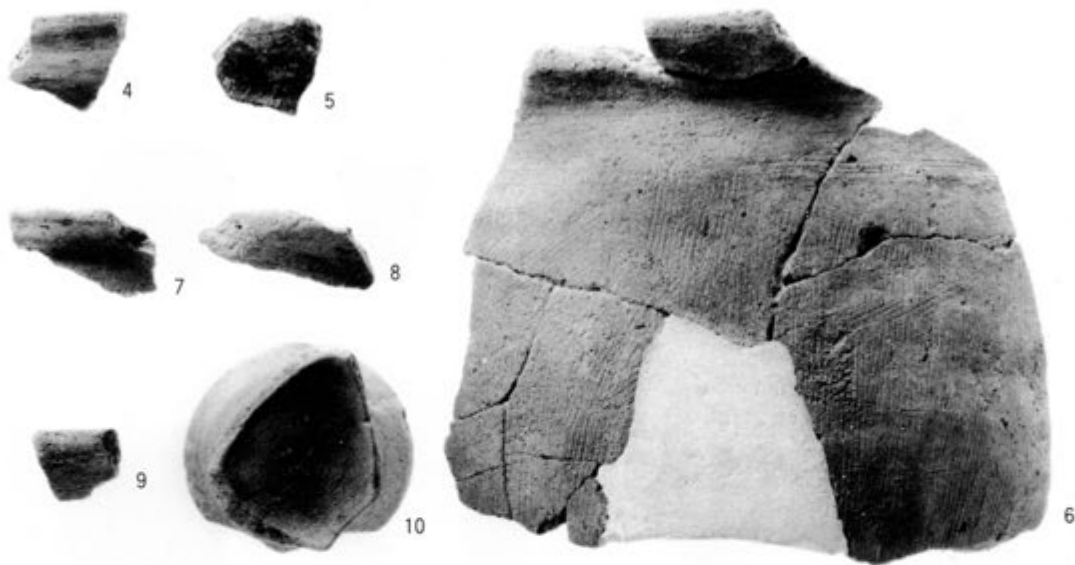
東下原遺跡第Ⅴ～Ⅶ層遺物出土状況



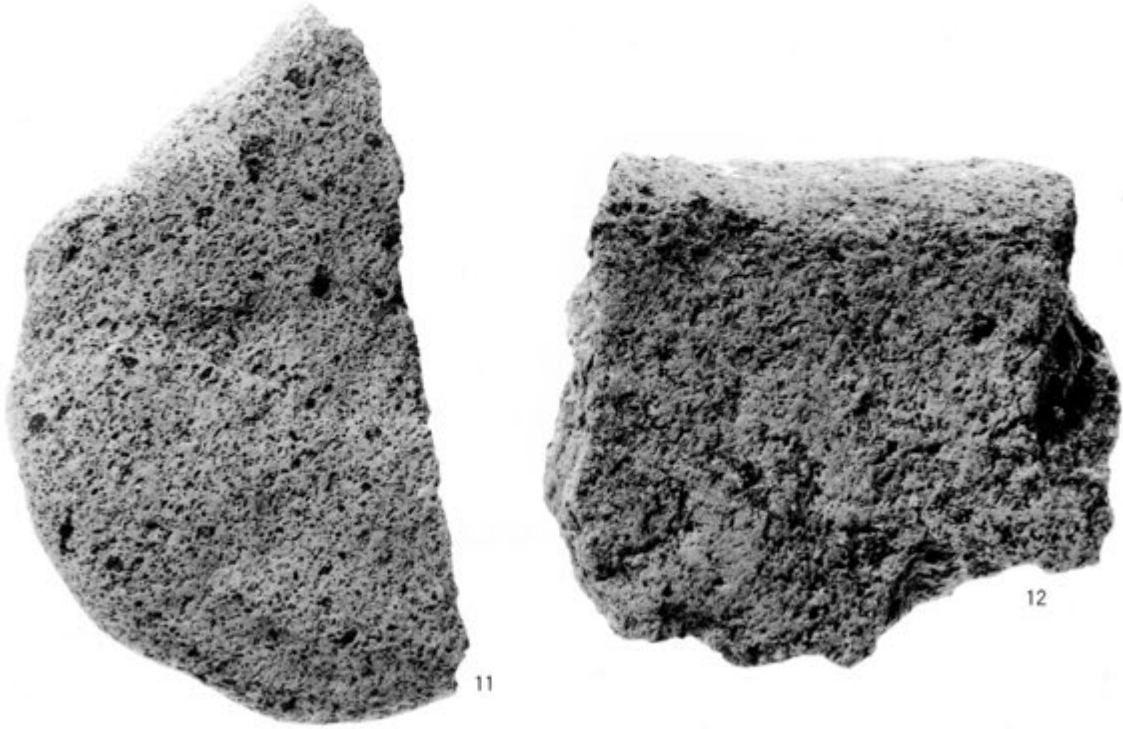
東下原遺跡の地層



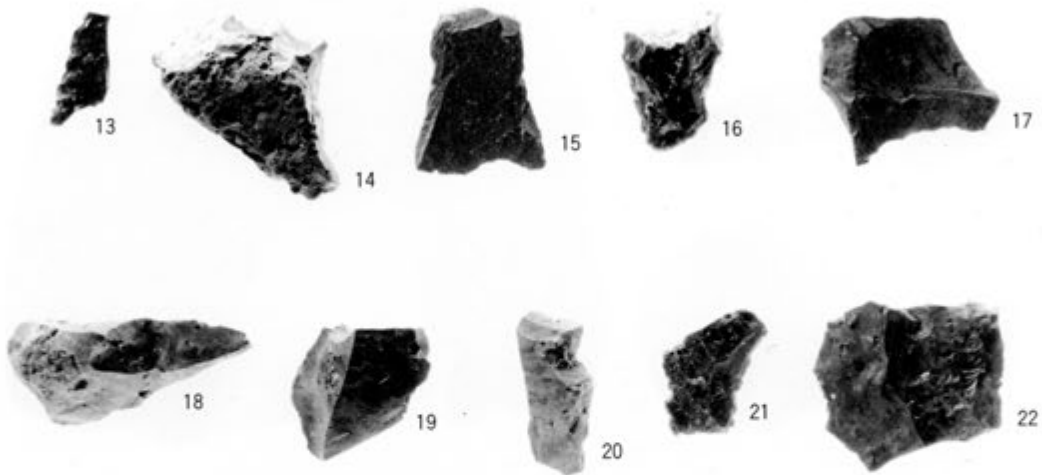
東下原遺跡の第2・3層出土遺物(古墳)



東下原遺跡の第2・3層出土遺物(古代)



東下原遺跡の第2・3層出土遺物(礫)



東下原遺跡第5～7層出土遺物

あ と が き

平成5年に始まった新幹線建設に伴う発掘調査は、平成13年5月に終了した。遺跡調査のピークは、平成11・12年度であった。この2年間で、距離の長い遺跡や広い遺跡を集中的に発掘調査できたのは、平成10度の実施した小規模遺跡の確認調査を実施したためであった。職員2名とバス2台の作業員が出水市・川内市・串木野市・東市来町を、川内市を拠点に1年間、熱い中、寒い中、簡易トイレとバックホーとともに移動して行った。また、平成11・12年度は、用地買収が進まない中、敷地内の住宅解体を待ちながら調整して発掘調査にあたった。そして、新幹線開通に影響がなく終えることができた。これは、まさに遺跡との戦いであり、それは職員の努力と頑張りがあったからこそできたと言える。

また、短期間に調査できた要因としては、九州新幹線建設局の用地課との連携が密にできたことも良い結果に終わった一つであると言える。

新幹線誘致の悲願であった鹿児島県は、平成16年には開通する新幹線を見られるしだいである。

鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書(37)

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

**茶屋ノ元遺跡 鏡・安原遺跡 宮野脇遺跡
小松遺跡 前市野原遺跡 東下原遺跡**

発行日 平成14年3月29日

発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地
TEL 0995-65-8787(代)

印刷 中央印刷株式会社
〒892-0804 鹿児島市春日町12番16号
TEL 099-247-3300(代)